

# ( 受学改 8 - 3 )

## 宇治西小倉学園東門周辺整備工事

A-000	表紙・図面リスト	S-004	浅層混合処理工法特記仕様書
A-001	特記仕様書(1)	S-005	伏図軸組図
A-002	特記仕様書(2)	M-001	機械設備工事特記仕様書(1)
A-003	特記仕様書(3)	M-002	機械設備工事特記仕様書(2)
A-004	特記仕様書(4)	M-003	機械設備工事特記仕様書(3)
A-005	特記仕様書(5)	M-004	換気設備 機器表
A-006	特記仕様書(6)	E-001	電気設備工事特記仕様書(1)
A-007	特記仕様書(7)	E-002	電気設備工事特記仕様書(2)
A-008	特記仕様書(8)	E-003	配置図
A-009	付近見取図	E-004	幹線動力設備 系統図
A-010	仮設工事計画図	E-005	分電盤リスト
A-011	外構・スクールサポーター控室詳細図	E-006	照明器具仕様書
A-012	スクールサポーター控室詳細図	E-007	構内交換設備 系統図
A-013	外構 詳細図	E-008	入退室管理設備 仕様書・機器姿図
S-001	鉄筋コンクリート造標準図(1)	E-009	自火報 系統図
S-002	鉄筋コンクリート造標準図(2)	E-010	アプローチ周り平面詳細図
S-003	鉄筋コンクリート造標準図(3)		



章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																
4	<p>⑥ 砂利及び砂地業 (4.6.2) (4.6.3)</p> <p>⑦ 捨てコンクリート地業 (4.6.4)</p> <p>⑧ 床下防湿層 (4.6.5)</p> <p>9 土間断熱材</p> <p>⑩ 地盤改良</p>	<p>厚さ (mm) 図示による 60</p> <p>材料 砂利 再生クラッシュラン 切込砂利 切込砕石</p> <p>砂 山砂 川砂 砕砂</p> <p>地盤改良ヶ所については不要</p> <p>厚さ (mm) 図示による 50</p> <p>ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm 重ね幅縦及び基礎梁際のみ込み 250mm以上</p> <p>施工範囲 図示による</p> <p>建物内の土間スラブ(土間コンクリート含む)の直下(ピット下を除く) 捨てコンクリートの直下</p> <p>押出法ポリスチレンフォーム 3種 b のスキン層付き</p> <p>厚さ 25mm mm</p> <p>現場発生土を再利用する。</p> <p>改良方法 浅層混合処理工法</p> <p>セメント及びセメント系固材材を使用した改良土を使用する場合、六価クロム溶出試験を実施し、土壌環境基準を勘案して必要に応じ適切な措置を講じること。また、再利用しようとする場合は、基準以下であることを確認すること。</p> <p>「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(一財)日本建築セメント協会を参考とすること。</p>	6	<p>① コンクリートの種類 (6.2.1)</p> <p>② コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)</p> <p>③ セメントの種類 (6.3.1)</p> <p>④ 骨材 (6.3.1)</p> <p>⑤ 混和材料 (6.3.1)</p> <p>⑥ 構造体強度補正值 (6.3.2)</p> <p>⑦ 打継ぎ (6.6.4)</p> <p>⑧ 型枠(せき板) (6.2.5) (6.8.1) (6.8.2)</p> <p>⑨ スリーブ (6.8.2)</p>	<p>種類 普通コンクリート</p> <p>類別 類 類 (表6.2.1)</p> <p>設計基準強度 (F<sub>c</sub>)</p> <table border="1"> <tr> <th>打設部位</th> <th>F<sub>c</sub>(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>スラブ厚(cm)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>構造体</td> <td>基礎 2.4</td> <td>3.0</td> <td>1.5 1.8</td> </tr> <tr> <td>(スタールサポーター控室) 上部</td> <td>2.4</td> <td>3.0</td> <td>1.5 1.8 土間スラブを含む</td> </tr> <tr> <td>土間コンクリート</td> <td>1.8</td> <td>1.5</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>捨てコンクリート</td> <td>1.8</td> <td>1.5</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート</td> <td>2.1</td> <td>2.1</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>無筋コンクリート</td> <td>1.8</td> <td>1.5</td> <td>1.8 標仕6.14.1による</td> </tr> <tr> <td>構造体</td> <td>2.4</td> <td>○1.5</td> <td>○1.8</td> </tr> </table> <p>構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 { F<sub>c</sub> + 構造体強度補正值 (S) } N/mm<sup>2</sup> (6.14.1)によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)</p> <p>普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 高炉セメントのB種 (適用箇所 _____ ) シリカセメント フライアッシュセメントのB種 (適用箇所 _____ )</p> <p>粗骨材 砂利 (JIS A5308), 砕石 (JIS A5005) 高炉スラグ 電気炉酸化スラグ 再生骨材H</p> <p>細骨材 砂 (JIS A5308), 砕砂 (JIS A5005) 高炉スラグ 電気炉酸化スラグ 鋼スラグ ファイアッシュスラグ 再生骨材H</p> <p>アルカリシリカ反応性による区分 A (無害)</p> <p>混和剤 AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤の種 (JIS A 6204) (高性能AE減水剤の適用箇所は、Fc24以上の箇所とする。)</p> <p>防錆剤 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025)</p> <p>混和材 フライアッシュ (JIS A 6201) 種、種若しくは 種 コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) コンクリート用シリカフェューム (JIS A 6207) コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)</p> <p>気温による構造体強度補正值 (S) (表6.3.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>予想平均気温 ( )</th> <th>補正值 (S)</th> <th colspan="3">期 間 (打 設 日)</th> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>早強</td> <td>南部地域</td> <td>中部地域</td> <td>北部地域</td> </tr> <tr> <td>8以上</td> <td>5以上</td> <td>3</td> <td>3/16 ~ 6/30</td> <td>3/11 ~ 7/20</td> <td>3/11 ~ 7/10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>N/mm<sup>2</sup></td> <td>9/11 ~ 11/15</td> <td>9/1 ~ 11/5</td> <td>9/1 ~ 10/31</td> </tr> <tr> <td>0以上</td> <td>0以上</td> <td>6</td> <td>11/16 ~ 3/5</td> <td>11/ 6 ~ 3/10</td> <td>11/ 1 ~ 3/10</td> </tr> <tr> <td>8未満</td> <td>5未満</td> <td>N/mm<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>南部地域 (京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む)</p> <p>位置 構造図による 標仕 6.6.4(1) による 目地の寸法 図示による</p> <p>合板の規格 「合板の日本農林規格」の「コンクリート用合板の規格」による合板 合板の材種 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 厚さ (mm) 1.2</p> <p>打放し仕上げのせき板 合板せき板を用いる場合 (表6.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>板 面 の 品 質</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>A種</td> <td>6.8.2(2)(7)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B種</td> <td>6.8.2(2)(4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C種</td> <td>6.8.2(2)(4)</td> <td></td> </tr> </table> <p>合板せき板を用いない場合 せき板の材料 _____</p> <p>コンクリートの仕上りの平たんさ</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>コンクリートの内外装仕上げ</th> <th>平たんさ</th> <th>柱・梁・壁</th> <th>床</th> </tr> <tr> <td>a種</td> <td>コンクリートが見え掛かりとなる場合又は仕上げ厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な平たんさ及び表面状態が必要な場合</td> <td>3mにつき 7mm以下</td> <td>塗装仕上げ 接着剤による 陶磁器質タイル張り</td> <td>合成樹脂塗料材ビニル系床材張り床 コンクリート直均し仕上げ フロアアクセス</td> </tr> <tr> <td>b種</td> <td>仕上げ厚さが7mm未満の場合その他良好な平たんさが必要な場合</td> <td>3mにつき 10mm以下</td> <td>仕上げ塗料塗り 材塗り</td> <td>セルフレベリング 材塗り</td> </tr> <tr> <td>c種</td> <td>仕上げ厚さが7mm以上の場合又は下地の影響を受けにくい仕上げの場合</td> <td>3mにつき 10mm以下</td> <td>セメントモルタル 磁器質タイル張り</td> <td>タイル張り モルタル塗り</td> </tr> </table> <p>外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ 図示による 2.0mm ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法 図示による</p> <p>スリーブの材種 (表6.8.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>適用箇所</th> <th>材 種 (規 格 そ の 他)</th> </tr> <tr> <td>水密を要する地中部分等</td> <td>つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管に厚さ6mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)</td> </tr> <tr> <td>水密を要しない地中部分等</td> <td>硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 のVU)</td> </tr> <tr> <td>上記以外の円形スリーブ</td> <td>溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上)</td> </tr> </table>	打設部位	F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	スラブ厚(cm)	備 考	構造体	基礎 2.4	3.0	1.5 1.8	(スタールサポーター控室) 上部	2.4	3.0	1.5 1.8 土間スラブを含む	土間コンクリート	1.8	1.5	1.8	捨てコンクリート	1.8	1.5	1.8	軽量コンクリート	2.1	2.1	1.8	無筋コンクリート	1.8	1.5	1.8 標仕6.14.1による	構造体	2.4	○1.5	○1.8	予想平均気温 ( )	補正值 (S)	期 間 (打 設 日)			普通	早強	南部地域	中部地域	北部地域	8以上	5以上	3	3/16 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10			N/mm <sup>2</sup>	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31	0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10	11/ 1 ~ 3/10	8未満	5未満	N/mm <sup>2</sup>				種 別	板 面 の 品 質	施 工 箇 所	A種	6.8.2(2)(7)		B種	6.8.2(2)(4)		C種	6.8.2(2)(4)		種 別	コンクリートの内外装仕上げ	平たんさ	柱・梁・壁	床	a種	コンクリートが見え掛かりとなる場合又は仕上げ厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な平たんさ及び表面状態が必要な場合	3mにつき 7mm以下	塗装仕上げ 接着剤による 陶磁器質タイル張り	合成樹脂塗料材ビニル系床材張り床 コンクリート直均し仕上げ フロアアクセス	b種	仕上げ厚さが7mm未満の場合その他良好な平たんさが必要な場合	3mにつき 10mm以下	仕上げ塗料塗り 材塗り	セルフレベリング 材塗り	c種	仕上げ厚さが7mm以上の場合又は下地の影響を受けにくい仕上げの場合	3mにつき 10mm以下	セメントモルタル 磁器質タイル張り	タイル張り モルタル塗り	適用箇所	材 種 (規 格 そ の 他)	水密を要する地中部分等	つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管に厚さ6mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)	水密を要しない地中部分等	硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 のVU)	上記以外の円形スリーブ	溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上)	<p>⑩ コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)</p> <p>11 軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)</p> <p>12 寒中コンクリート (6.11.1)</p> <p>⑬ 暑中コンクリート (6.12.2)</p> <p>14 マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2)</p> <p>15 無筋コンクリート (6.14.1)</p> <p>⑭ コンクリートミキサの過積載防止対策等</p>	<p>フレッシュコンクリートの試験 省略する</p> <p>常時土又は水に直接接する部分の使用 可 不可</p> <p>種類 1種 2種</p> <p>施工箇所 _____</p> <p>気乾単位容積質量 _____ t/m<sup>3</sup></p> <p>予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節 (寒中コンクリート)による。</p> <p>暑中における構造体強度補正值 (S)</p> <table border="1"> <tr> <th>地 域</th> <th>日平均気温が25度を超える期間(打設日)</th> <th>補 正 値</th> </tr> <tr> <td>北 部 地 域</td> <td>7月11日 ~ 8月31日</td> <td>6N/mm<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>中 部 地 域</td> <td>7月21日 ~ 8月31日</td> <td>3N/mm<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>南 部 地 域</td> <td>7月1日 ~ 9月10日</td> <td></td> </tr> </table> <p>施工箇所 _____</p> <p>セメントの種類 中熟ポルトランドセメント シリカセメント 低熟ポルトランドセメント フライアッシュセメントB種 普通ポルトランドセメント</p> <p>混和材料 混和剤 AE減水剤又は高性能AE減水剤 (JIS A 6204)</p> <p>混和材 フライアッシュの種 (JIS A 6201) 高炉スラグ微粉末の3000若しくは4000 (JIS A 6206)</p> <p>スラブ 15cm</p> <p>コンクリートの種類 普通コンクリート</p> <p>受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。</p>	地 域	日平均気温が25度を超える期間(打設日)	補 正 値	北 部 地 域	7月11日 ~ 8月31日	6N/mm <sup>2</sup>	中 部 地 域	7月21日 ~ 8月31日	3N/mm <sup>2</sup>	南 部 地 域	7月1日 ~ 9月10日		7	<p>7</p>	<p>高力ボルト、普通ボルトの「ゲージ」及び「アキ等」 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)</p> <p>実施する 部位 ( )</p> <p>溶接作業者の技量付加試験 行わない</p> <p>行う 試験の要領 図示による ( )</p> <p>開先の形状 図示による</p> <p>鋼製エンドタブの切断 有 無</p> <p>適用箇所 図示による</p> <p>断面の仕上げ グラインダ-により、粗さ100µmRz程度以下及びワグ深さ1mm程度以下</p> <p>スカラップの形状 図示による</p> <p>完全溶込溶接部の超音波探傷試験 行う 行わない</p> <p>工場溶接 AOQL 4.0% 2.5% 検査水準 第6水準(節全て) 工事現場溶接</p> <p>H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強」(独立行政法人 建築研究所) 3.5.2による受入検査 抜き取り検査 抜き取り検査</p> <p>JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付則「溶接」に関する試験方法等 JASS 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>材 料 ・ 工 法</th> <th>適用箇所 (部位・部分)</th> </tr> <tr> <td>耐火材吹付け</td> <td>乾式吹付ロックウール 半乾式吹付ロックウール 湿式ロックウール</td> <td>昇降口屋根根骨</td> </tr> <tr> <td>耐火板張り</td> <td>繊維混入ケイ酸カルシウム板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火材巻付け</td> <td>高断熱ロックウール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5張り目外塗り</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火塗料</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">性能</th> <th colspan="2">適用箇所 (部 位 ・ 部 分)</th> </tr> <tr> <td>30分耐火</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1時間耐火</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2時間耐火</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3時間耐火</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>適用 構造用アンカーボルト (7.2.4) 種類 SNR400B アンカーフレームの形状及び寸法 図示による</p> <p>建方用アンカーボルト 種類 SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表7.10.1) 種類 A種 B種 柱底均しモルタルの厚さ 5.0mm 3.0mm</p> <p>モルタルの種類 無収縮モルタル 材料・調合等 標仕 7.2.9 (2)(7)から(1)による 厚さ 図示による 工法 A種 B種</p>	種 別	材 料 ・ 工 法	適用箇所 (部位・部分)	耐火材吹付け	乾式吹付ロックウール 半乾式吹付ロックウール 湿式ロックウール	昇降口屋根根骨	耐火板張り	繊維混入ケイ酸カルシウム板		耐火材巻付け	高断熱ロックウール		5張り目外塗り	-		耐火塗料			性能		適用箇所 (部 位 ・ 部 分)		30分耐火				1時間耐火				2時間耐火				3時間耐火				<p>株式会社 類設計室 本社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06・6305・2222 東京事務所 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-38-3 蒲田朝日ビル4 F 03・5713・1010 大阪事務所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06・6305・6666</p> <p>設計 一級建築士 大臣登録第311846号 構造設計一級建築士 第5621号 一級建築士 大臣登録第235240号 設備設計一級建築士 第4707号 一級建築士 大臣登録第358739号</p> <p>担当 齊藤 直 廣重 圭一 鈴木 邦彦</p> <p>第 1 回 . . 第 2 回 . . 第 3 回 . . 第 4 回 . .</p> <p>工事名称 宇治西小倉学園東門周辺整備工事 図面名称 特記仕様書 ( 2 ) 縮尺 A1: - A3: -</p> <p>図面NO. A-002</p>
打設部位	F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	スラブ厚(cm)	備 考																																																																																																																																																																				
構造体	基礎 2.4	3.0	1.5 1.8																																																																																																																																																																				
(スタールサポーター控室) 上部	2.4	3.0	1.5 1.8 土間スラブを含む																																																																																																																																																																				
土間コンクリート	1.8	1.5	1.8																																																																																																																																																																				
捨てコンクリート	1.8	1.5	1.8																																																																																																																																																																				
軽量コンクリート	2.1	2.1	1.8																																																																																																																																																																				
無筋コンクリート	1.8	1.5	1.8 標仕6.14.1による																																																																																																																																																																				
構造体	2.4	○1.5	○1.8																																																																																																																																																																				
予想平均気温 ( )	補正值 (S)	期 間 (打 設 日)																																																																																																																																																																					
普通	早強	南部地域	中部地域	北部地域																																																																																																																																																																			
8以上	5以上	3	3/16 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10																																																																																																																																																																		
		N/mm <sup>2</sup>	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31																																																																																																																																																																		
0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10	11/ 1 ~ 3/10																																																																																																																																																																		
8未満	5未満	N/mm <sup>2</sup>																																																																																																																																																																					
種 別	板 面 の 品 質	施 工 箇 所																																																																																																																																																																					
A種	6.8.2(2)(7)																																																																																																																																																																						
B種	6.8.2(2)(4)																																																																																																																																																																						
C種	6.8.2(2)(4)																																																																																																																																																																						
種 別	コンクリートの内外装仕上げ	平たんさ	柱・梁・壁	床																																																																																																																																																																			
a種	コンクリートが見え掛かりとなる場合又は仕上げ厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な平たんさ及び表面状態が必要な場合	3mにつき 7mm以下	塗装仕上げ 接着剤による 陶磁器質タイル張り	合成樹脂塗料材ビニル系床材張り床 コンクリート直均し仕上げ フロアアクセス																																																																																																																																																																			
b種	仕上げ厚さが7mm未満の場合その他良好な平たんさが必要な場合	3mにつき 10mm以下	仕上げ塗料塗り 材塗り	セルフレベリング 材塗り																																																																																																																																																																			
c種	仕上げ厚さが7mm以上の場合又は下地の影響を受けにくい仕上げの場合	3mにつき 10mm以下	セメントモルタル 磁器質タイル張り	タイル張り モルタル塗り																																																																																																																																																																			
適用箇所	材 種 (規 格 そ の 他)																																																																																																																																																																						
水密を要する地中部分等	つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管に厚さ6mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)																																																																																																																																																																						
水密を要しない地中部分等	硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 のVU)																																																																																																																																																																						
上記以外の円形スリーブ	溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上)																																																																																																																																																																						
地 域	日平均気温が25度を超える期間(打設日)	補 正 値																																																																																																																																																																					
北 部 地 域	7月11日 ~ 8月31日	6N/mm <sup>2</sup>																																																																																																																																																																					
中 部 地 域	7月21日 ~ 8月31日	3N/mm <sup>2</sup>																																																																																																																																																																					
南 部 地 域	7月1日 ~ 9月10日																																																																																																																																																																						
種 別	材 料 ・ 工 法	適用箇所 (部位・部分)																																																																																																																																																																					
耐火材吹付け	乾式吹付ロックウール 半乾式吹付ロックウール 湿式ロックウール	昇降口屋根根骨																																																																																																																																																																					
耐火板張り	繊維混入ケイ酸カルシウム板																																																																																																																																																																						
耐火材巻付け	高断熱ロックウール																																																																																																																																																																						
5張り目外塗り	-																																																																																																																																																																						
耐火塗料																																																																																																																																																																							
性能		適用箇所 (部 位 ・ 部 分)																																																																																																																																																																					
30分耐火																																																																																																																																																																							
1時間耐火																																																																																																																																																																							
2時間耐火																																																																																																																																																																							
3時間耐火																																																																																																																																																																							

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																					
7	鉄骨工事	18 錆止め塗料 (7.8.4) (18.3.2)	塗料の種類 鉄鋼面の錆止め塗料 表18.3.1による A種 B種				9	防水工事	1 アスファルト防水 (9.2.2) ~ (9.2.5)	(表9.2.3) ~ (表9.2.9)	種別	防水層	施工箇所	9	防水工事	可塑性移行防止用シート 発泡ポリエチレンシート	脱気装置(接着工法) 設ける 材種 ( ) 設置数量 ( 1箇所 / ㎡ )	固定金具の材質及び寸法形状	防錆処理した鋼板、スチール鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの	接着工法の場合でP Cコンクリート部材下地の場合の処理 目地処理 図示による	入隅部の増張り ( S-F 1、S-I-F 1 の場合 ) 図示による	建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	10	石工事	内壁石張り 工法 内壁空積工法 ( あと施工アンカー横筋流し工法 あと施工アンカー工法 ) 乾式工法 ( スライド方式 ロッキング方式 )	石の厚さ _____ mm	浸透性吸水防止剤 専門工事業者の指定	裏面及び裏打ち処理 行わない 行う	目地 一般目地幅 _____ mm	伸縮調整目地位置 _____ mm	シーリング材の目地寸法 _____ mm	あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 材質 寸法									
		亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 表18.3.2による A種 B種 C種	鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) 表18.3.1による A種 B種	耐火被覆材の接着する面への塗装 行わない 行う ( 範囲 図示による )	耐火被覆材の接着する面以外への塗装 行わない 行う ( 範囲 図示による )	断熱材 (屋根保護防水断熱工法) 厚さ _____ mm			断熱材 (屋根露出防水断熱工法) 厚さ _____ mm 種類 _____	ルーフトレンドリ回り及び立上り部周辺の断熱材及び絶縁用シートの張りじまい位置 図示による	絶縁用シート ポリエチレンフィルム厚0.15 (保護防水工法) フラットヤークロス (70g/㎡程度) (保護防水断熱工法)	押え金物 アルミニウム製 L-30×15×2.0	立上り部の保護 乾式保護材 ( ) 普通れんが 化粧れんが モルタル押え (屋内) コンクリート (工法 _____)			保護層 平場のコンクリート厚さ _____ mm こて仕上げ _____ mm 床タイル張り等仕上げ _____ mm	屋上排水溝 図示による	脱気装置 (露出防水絶縁 (断熱)工法) 設ける 材種 ( ) 設置数量 (1箇所 / ㎡)	水張り試験を行う ( 屋内 屋外 )	7 保証書 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限は工事的物引渡しより10年間以上とする。)	8 施工標識 工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 真鍮製エッチング仕上げ 150×100 設置数量 _____ 箇所	9 シーリング シーリング材の種類 表9.7.1による 施工箇所 図示による 仕上げを行わない施工箇所 ( 図示による 全て ) 目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びびび割れ誘発目地 幅20mm以上、深さ10mm以上 ガラス回りの目地 幅5mm以上、深さ5mm以上 その他の目地 幅10mm以上、深さ10mm以上			シーリングの試験 簡易接着性試験 (部位 _____ コンクリート打継目地) 引張接着性試験 (部位 _____)	材質 _____ 形状 差込式 据置式 壁張り式 適用範囲 _____	5 床及び階段の石張り (10.6.2) (10.6.3)	石の厚さ _____ mm	浸透性吸水防止剤 (床石張り) 適用する 適用しない	石裏面処理 (床石張り) 適用する 適用しない	裏打ち処理 (階段石張り) 適用する 適用しない	目地 一般目地幅 _____ mm	伸縮調整目地位置 _____ mm	シーリング材の目地寸法 _____ mm	あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 材質 寸法						
8	コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1 補強コンクリートブロック造 (8.2.2) ~ (8.2.8)	ブロックの種類 16 ( C種 ) 普通ブロック 16-W ( C種 ) 防水ブロック モジュール呼び寸法及び正味厚さ 図示による コンクリートの設計基準強度 F <sub>o</sub> (N/mm <sup>2</sup> ) 充填用及びまくさ 21 以上 上記以外 21 以上 各部の配筋 図示による 目地仕上げ 押し目地仕上げ 化粧目地仕上げ モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲 図示による				9	防水工事	2 改質アスファルトシート防水 (9.3.2) ~ (9.3.4)	(表9.3.1) ~ (表9.3.3)	種別	防水層	施工箇所	10	石工事	1 天然石張り (10.2.1)	石の種類・表面仕上げ (表10.2.1)	施工箇所 種類 (産地、名称、形状、寸法) 表面仕上げの種類	ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げ あり なし	2 テラゾ張り (10.2.1)	(表10.2.2)	施工箇所 種類の種類 種類の大きさ 形状・寸法等 表面仕上げ	3 壁の石張り工法 (10.2.2) (10.2.3) (10.3.2) (10.3.3) (10.4.2) (10.4.3) (10.5.2) (10.5.3)	外壁石張り 工法 外壁湿式工法 ( 流し工法 あと施工アンカー工法 あと施工アンカー横筋流し工法 ) 受金物の材質、形状及び寸法 _____ 外壁乾式工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 金物の種類、形状、寸法等 _____ スライド方式 ロッキング方式 _____	石の厚さ _____ mm	浸透性吸水防止剤 専門工事業者の指定	裏面及び裏打ち処理 行わない 行う (表面処理の場合小口共)	ドレンパイプ ステンレス SUS304 _____	目地 一般目地幅 _____ mm	伸縮調整目地位置 _____ mm	シーリング材の目地寸法 _____ mm										
		2 コンクリートブロック壁及び塀 (8.3.2) ~ (8.3.4)	ブロックの種類 (表8.3.1)	適用箇所 種類 の 記号	間仕切壁、地下二重壁、外壁、塀 空洞ブロック 16	外壁の化粧積み 空洞ブロック 16-W			モジュール呼び寸法及び正味厚さ 図示による	塀の厚さ 図示による	壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 図示による	各部の配筋 図示による	塀化粧ブロック 有 ( )			ブロック塀の基礎及び控壁のコンクリートの設計基準強度 F <sub>o</sub> (N/mm <sup>2</sup> ) 18 21	パネルの種類 (表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)	区分 単位荷重 (N/㎡) 厚さ (mm) 構法 耐火性能	外壁A' 裨 1180 1960 100 A種 有り ( 時間 ) B種 無し	間仕切A' 裨 640 100 C種 E種 有り ( 時間 ) D種 無し	屋根A' 裨 980 100 F種 有り ( 時間 ) 無し	床A' 裨 2350 3530 100 F種 有り ( 時間 ) 150 無し	パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 図示による	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨の出隅及び入隅のA' 裨接合部並びにA' 裨と他部材との取り合い部の目地幅 _____ mm	伸縮目地への耐火目地材の充填 適用する 適用しない	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____
3	ALCパネル・押出成形セメント板工事	3 ALCパネル (8.4.2) ~ (8.4.5)	パネルの種類 (表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)	区分 単位荷重 (N/㎡) 厚さ (mm) 構法 耐火性能	外壁A' 裨 1180 1960 100 A種 有り ( 時間 ) B種 無し	間仕切A' 裨 640 100 C種 E種 有り ( 時間 ) D種 無し	屋根A' 裨 980 100 F種 有り ( 時間 ) 無し	床A' 裨 2350 3530 100 F種 有り ( 時間 ) 150 無し	パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 図示による	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨の出隅及び入隅のA' 裨接合部並びにA' 裨と他部材との取り合い部の目地幅 _____ mm	伸縮目地への耐火目地材の充填 適用する 適用しない	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける場合 短辺 _____	長辺 _____	長辺 _____								
		4 押出成形セメント板 (ECP) (8.5.2) ~ (8.5.5)	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける場合 短辺 _____	長辺 _____	長辺 _____							
9	コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	3 ALCパネル (8.4.2) ~ (8.4.5)	パネルの種類 (表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)	区分 単位荷重 (N/㎡) 厚さ (mm) 構法 耐火性能	外壁A' 裨 1180 1960 100 A種 有り ( 時間 ) B種 無し	間仕切A' 裨 640 100 C種 E種 有り ( 時間 ) D種 無し	屋根A' 裨 980 100 F種 有り ( 時間 ) 無し	床A' 裨 2350 3530 100 F種 有り ( 時間 ) 150 無し	パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 図示による	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨の出隅及び入隅のA' 裨接合部並びにA' 裨と他部材との取り合い部の目地幅 _____ mm	伸縮目地への耐火目地材の充填 適用する 適用しない	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける場合 短辺 _____	長辺 _____	長辺 _____								
		4 押出成形セメント板 (ECP) (8.5.2) ~ (8.5.5)	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける場合 短辺 _____	長辺 _____	長辺 _____							
10	コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	3 ALCパネル (8.4.2) ~ (8.4.5)	パネルの種類 (表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)	区分 単位荷重 (N/㎡) 厚さ (mm) 構法 耐火性能	外壁A' 裨 1180 1960 100 A種 有り ( 時間 ) B種 無し	間仕切A' 裨 640 100 C種 E種 有り ( 時間 ) D種 無し	屋根A' 裨 980 100 F種 有り ( 時間 ) 無し	床A' 裨 2350 3530 100 F種 有り ( 時間 ) 150 無し	パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 図示による	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨の出隅及び入隅のA' 裨接合部並びにA' 裨と他部材との取り合い部の目地幅 _____ mm	伸縮目地への耐火目地材の充填 適用する 適用しない	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける場合 短辺 _____	長辺 _____	長辺 _____								
		4 押出成形セメント板 (ECP) (8.5.2) ~ (8.5.5)	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける場合 短辺 _____	長辺 _____	長辺 _____							
11	コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	3 ALCパネル (8.4.2) ~ (8.4.5)	パネルの種類 (表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)	区分 単位荷重 (N/㎡) 厚さ (mm) 構法 耐火性能	外壁A' 裨 1180 1960 100 A種 有り ( 時間 ) B種 無し	間仕切A' 裨 640 100 C種 E種 有り ( 時間 ) D種 無し	屋根A' 裨 980 100 F種 有り ( 時間 ) 無し	床A' 裨 2350 3530 100 F種 有り ( 時間 ) 150 無し	パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 図示による	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨の出隅及び入隅のA' 裨接合部並びにA' 裨と他部材との取り合い部の目地幅 _____ mm	伸縮目地への耐火目地材の充填 適用する 適用しない	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける場合 短辺 _____	長辺 _____	長辺 _____								
		4 押出成形セメント板 (ECP) (8.5.2) ~ (8.5.5)	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける場合 短辺 _____	長辺 _____	長辺 _____							
12	コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	3 ALCパネル (8.4.2) ~ (8.4.5)	パネルの種類 (表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)	区分 単位荷重 (N/㎡) 厚さ (mm) 構法 耐火性能	外壁A' 裨 1180 1960 100 A種 有り ( 時間 ) B種 無し	間仕切A' 裨 640 100 C種 E種 有り ( 時間 ) D種 無し	屋根A' 裨 980 100 F種 有り ( 時間 ) 無し	床A' 裨 2350 3530 100 F種 有り ( 時間 ) 150 無し	パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 図示による	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨の出隅及び入隅のA' 裨接合部並びにA' 裨と他部材との取り合い部の目地幅 _____ mm	伸縮目地への耐火目地材の充填 適用する 適用しない	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける場合 短辺 _____	長辺 _____	長辺 _____								
		4 押出成形セメント板 (ECP) (8.5.2) ~ (8.5.5)	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	種類 無縁タイプ (タイプ )	施工箇所 表面形状 厚さ (mm) 工法 耐火性能	外壁 フラットパネル 3 5 A種 有り	外壁 デザインパネル (図示) 5 0 B種 ( 時間 )	外壁 タイルベースパネル 6 0 無し	間仕切り フラットパネル 3 5 B種 有り	間仕切り デザインパネル (図示) 5 0 C種 ( 時間 )	間仕切り タイルベースパネル 6 0 無し	外壁A' 裨の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。	パネル幅の最小限度 300 mm _____ mm	A' 裨相互の目地幅 図示による _____ mm	出隅及び入隅のA' 裨接合部目地の目地幅 15 mm _____ mm	外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 _____	やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。	孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のA' 裨の残り部分の幅	A' 裨に孔あけを設ける場合 短辺 _____	A' 裨に欠き込みを設ける									

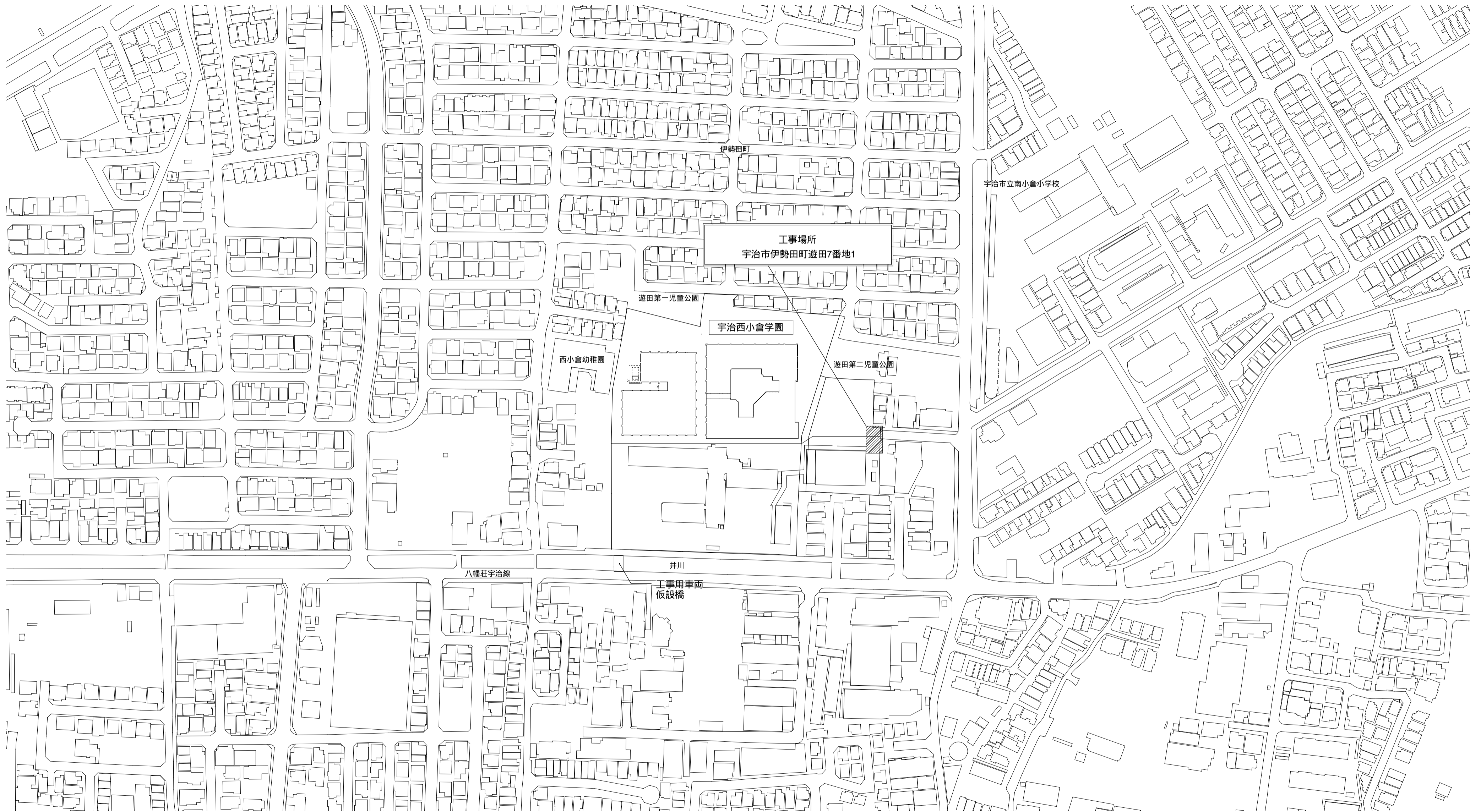
章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																									
12 木 工 事	<p>1 揮発性有機化合物対策 (12.2.1) (12.2.2) (12.2.3)</p> <p>2 含水率 (12.2.1)</p> <p>3 製材 (12.2.1)</p> <p>4 樹種 (12.2.1)</p>	<p>12 木 工 事</p> <p>5 集成材 (12.2.1)</p> <p>6 合板等 (12.2.1)</p>	<p>12 木 工 事</p> <p>7 接合具等 (12.2.2)</p> <p>8 防腐、防蟻及び防虫処理 (12.3.1) ~ (12.3.2)</p> <p>13 屋根及びとい工事</p> <p>3 折板葺 (13.3.2) (13.3.3)</p> <p>4 粘土瓦葺 (13.4.2) (13.4.3)</p> <p>⑤ とい(雨水) (13.5.2) (13.5.3)</p> <p>⑥ 保証書</p>	<p>14 金 属 工 事</p> <p>① 一般事項 (14.1.3)</p> <p>2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)</p> <p>③ 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2)</p> <p>④ 軽量鉄骨天井地下 (14.4.2) (14.4.4)</p> <p>5 軽量鉄骨壁下地 (14.5.3)</p> <p>6 金属成形板張り (14.6.2) (14.6.3)</p> <p>7 アルミニウム製 笠木 (14.7.2) (14.7.3)</p> <p>⑧ 天井点検口</p> <p>9 床点検口</p> <p>10 屋上点検口</p>	<p>あと施工アンカーの引張試験 ○ 行う ( 〃箇所以上、 〃箇所 ) 行わない</p> <p>(表14.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>施 工 箇 所 (手すり、成形板、笠木、建具以外)</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>陽極酸化皮膜の着色方法 二次電解着色 三次電解着色 色合等</p> <p>(表14.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>表面処理方法</th> <th>種 別</th> <th>試 験</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>溶融亜鉛めっき</td> <td>A種 B種 C種</td> <td>行う</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>電気亜鉛めっき</td> <td>D種 E種 F種</td> <td>行う</td> <td> </td> </tr> </table> <p>(表14.4.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>野縁等の種類</th> <th>屋内</th> <th>19型</th> <th>25型</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>屋外の野縁受け・吊りボルト・インサートの間隔 900 mm 屋外の周辺部の端からの寸法 100 mm 屋外の野縁の間隔 303 mm 屋外のはずれ留め補強 有り 無し 開口補強 吊りボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 図示による 天井のふところの補強 (1.5m以上3m以下) 行う (3mを超える) 行う ( 図示による )</p> <p>天井下地材における耐震性を考慮した補強 行う 行わない 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 行う 行わない</p> <p>(表14.5.1)</p> <p>スタッド、ランナー等の種類 A-134図におけるｽﾀｯﾄﾞの高さによる区分に応じた種類 スタッドの高さが5mを超える場合 図示による</p> <p>(表14.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>形 状</th> <th>製 法</th> <th>材 種</th> <th>寸 法 (mm)</th> <th>表面処理(種別)</th> </tr> <tr> <td>スパンドレル形</td> <td>押出し ロール</td> <td>アルミニウム製</td> <td>板厚 板幅</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>パネル形</td> <td>プレス</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>伸縮調整継手 設けない 設ける ( 施工箇所は図示 )</p> <p>(表14.7.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>板厚(mm)</th> <th>表面処理(種別)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>250 形</td> <td>1.6</td> <td> </td> <td>コーナ部及び突当たり部等の役物は 本体製造所の仕様による。</td> </tr> <tr> <td>300 形</td> <td>1.8</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>350 形</td> <td>2.0</td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>建築基準法に基づき風圧力に対応した工法 図示による</p> <p>アルミニウム製既製品 ( 450 × 450 ) 1 箇所 アルミニウム製既製品 ( 600 × 600 ) 〃箇所</p> <p>〇アルミニウム製既製品 ( 600 × 600 ) 〃箇所 ステンレス製既製品 ( 600 × 600 ) 〃箇所 鋳鉄製マンホール蓋 〃型 〃箇所</p> <p>寸法 (mm) 600 500角 断熱材 有り 無し</p>	種 別	施 工 箇 所 (手すり、成形板、笠木、建具以外)			表面処理方法	種 別	試 験	施 工 箇 所	溶融亜鉛めっき	A種 B種 C種	行う		電気亜鉛めっき	D種 E種 F種	行う		野縁等の種類	屋内	19型	25型									形 状	製 法	材 種	寸 法 (mm)	表面処理(種別)	スパンドレル形	押出し ロール	アルミニウム製	板厚 板幅		パネル形	プレス				種 類	板厚(mm)	表面処理(種別)	備 考	250 形	1.6		コーナ部及び突当たり部等の役物は 本体製造所の仕様による。	300 形	1.8			350 形	2.0		
種 別	施 工 箇 所 (手すり、成形板、笠木、建具以外)																																																															
表面処理方法	種 別	試 験	施 工 箇 所																																																													
溶融亜鉛めっき	A種 B種 C種	行う																																																														
電気亜鉛めっき	D種 E種 F種	行う																																																														
野縁等の種類	屋内	19型	25型																																																													
形 状	製 法	材 種	寸 法 (mm)	表面処理(種別)																																																												
スパンドレル形	押出し ロール	アルミニウム製	板厚 板幅																																																													
パネル形	プレス																																																															
種 類	板厚(mm)	表面処理(種別)	備 考																																																													
250 形	1.6		コーナ部及び突当たり部等の役物は 本体製造所の仕様による。																																																													
300 形	1.8																																																															
350 形	2.0																																																															
株式会社 類設計室 一級建築士事務所	<p>本 社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル</p> <p>東京事務所 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-38-3 蒲田朝日ビル4 F</p> <p>大阪事務所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル</p> <p>06・6305・2222 03・5713・1010 06・6305・6666</p>	<p>設 計</p> <p>一級建築士 大臣登録第311846号</p> <p>構造設計一級建築士 第5621号 一級建築士 大臣登録第235240号</p> <p>齊藤 直 廣重 圭一</p>	<p>設備設計一級建築士 第4707号</p> <p>一級建築士 大臣登録第358739号</p> <p>鈴木 邦彦</p>	<p>担 当</p> <table border="1"> <tr> <th>第 1 回</th> <td> </td> </tr> <tr> <th>第 2 回</th> <td> </td> </tr> <tr> <th>第 3 回</th> <td> </td> </tr> <tr> <th>第 4 回</th> <td> </td> </tr> </table>	第 1 回		第 2 回		第 3 回		第 4 回		<p>工事名称 宇治西小倉学園東門周辺整備工事</p> <p>図面名称 特記仕様書 ( 4 )</p> <p>縮尺 A1: 〃 A3: 〃</p>	<p>図面NO. A-004</p>																																																		
第 1 回																																																																
第 2 回																																																																
第 3 回																																																																
第 4 回																																																																



章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
16	12 建具用金物 (16.8.2) ~ (16.8.4)	マスターキーの製作 作成する (グループ、各グループ 個) 作成しない 在来マスターキーに合わせる 鍵の製作本数 各室 3本 1組 (表16.8.1)	16	13 自動ドア開閉装置 (16.9.2) ~ (16.9.3)	駆動装置及び検出装置の性能 引き戸用駆動装置性能値 標仕 表16.9.1による (SSLD-1 SSLD-2 DSLD-1 DSLD-2)	16	19 ガラスブロック (16.14.5)	寸法(mm) 厚さ(mm) 色調 パターン 防火認定 x 図示 クリア カラー( ) なし 乳白 熱線反射 あり 品質規格はJIS A 5212による 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 壁用金属枠及び補強材 力骨 材質 SUS304 寸法・形状 径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋 化粧目地モルタルの色 シーリング 金属製化粧カバー 材質 SUS304 寸法・形状 図示による 目地幅の寸法 平積み 8mm以上、15mm以下 曲面積み 外側 15mm以下、内側 6mm以上 (曲率半径はガラスブロック幅寸法の10倍以上とする) 伸縮調整目地の位置 6mm以下ごとに幅10~25mmの伸縮目地を設ける。	18	① 塗装材料 (18.1.3)	塗料のホルムアルデヒド等の放散量 F (表18.2.1)~(表18.2.7)
		金物の種類 見え掛り部の材質 その他 シリンドラ箱錠 握り玉: ステンレス レール: アルミ合金、 (ステンレス、黄銅) シリンドラ-カ-: ステンレス 実用性能項目 グレード 3以上 (鋼製建具、鋼製軽量 建具、ステンレス建具) 耐じん性能のグレード			車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置性能値 標仕 表16.9.2による 耐電圧 温度上昇 耐久性(サイクル) 防錆 電源			19 ガラスブロック (16.14.5)			② 素地ごしらえ (18.2.2) ~ (18.2.7)
16	建具工事	本締り錠 シリンドラ-カ-: ステンレス 実用性能項目 グレード 3以上 (鋼製建具、鋼製軽量 建具、ステンレス建具) 耐じん性能のグレード	16	14 自閉式上吊り 引戸装置(16.10.3)	引き戸検出装置性能値 標仕 表16.9.3による 放射無線周波数 電磁界耐性 耐電圧 防錆 防滴 電源	17	1 性能 (17.1.3)	本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 耐風圧性 S4 S5 S6 耐震性 水平方向(KH) 1.0 鉛直方向(KV) 0.5 水密性 W1 W2 W3 W4 W5 気密性 A1 A2 A3 A4 耐火性 図示 30分 1時間 耐温度差性( ) 80 70 60 遮音性 T1 T2 T3 T4 断熱性 H1 H2 H3 H4 H5	18	③ 錆止め塗料塗り (18.3.2) (18.3.3)	下地面 塗料の種類別 錆止め塗料の種類別 錆止め塗料塗りの工程 鉄鋼面 SOP A種 見え掛け: A種 見え隠れ: B種 DP C種及びD種 表18.3.4 EP-G A種 B種 見え掛け: A種 見え隠れ: B種 亜鉛めっき鋼面 SOP A種 B種 鋼製建具等: A種 A種 B種 上記以外: B種 DP B種 表18.3.6 EP-G C種 鋼製建具等: A種 上記以外: B種
		空錠 握り玉: ステンレス レール: アルミ合金、 (ステンレス、黄銅)			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	グレモン錠 レール: アルミ合金、 (ステンレス)	16	15 重量シャッター (16.11.2) ~ (16.11.4)	種別 管理用シャッター(シャッターケース 設ける) 耐風圧強度 外壁用防火シャッター(シャッターケース 設ける) 耐風圧強度 屋内用防火シャッター(シャッターケース 設ける) 屋内用防煙シャッター(シャッターケース 設ける) 開閉方式 電動式(手動併用) 手動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 図示による 管理用シャッターのシャッターケース 設ける 設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 材質 めっきの付着量 JIS G 3302 Z12又はF12を満足するもの JIS G 3312 Z12又はF12を満足するもの	17	2 メタルカーテン ウォール (17.2.2) ~ (17.2.3) (17.2.5)	材料 アルミ合金材 鋼材 ステンレス鋼材 形状・寸法 図示による 断熱材 図示による 見え掛け仕上げ アルミ合金材の場合 BB-2 (標仕16.2.3) 鋼材及びステンレス鋼材の場合 製品の寸法許容差 表17.2.1による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	コンクリート 種類 品質 SD295 補強鉄線 径 網目寸法 耐火目地材 断熱材 仕上げ 仕上げ材、建具枠、ゴンドラ用ガイドレール等 図示による
		ケースハンドル錠 ステンレス 点検口錠 亜鉛合金程度、(ステンレス) 丁番 ステンレス、(黄銅) ピボットヒンジ カ-部: ステンレス、(亜鉛合金) 亜鉛合金は木製建具用のみ 点検口軸吊りヒンジ 建具製作所の仕様による 自閉装置付き フロアヒンジ カ-部: ステンレス、(本体は鋼) ドアクローザー ヒンジクローザー(丁番型) 鋼(焼付け塗装) 遅延閉り機能付き ヒンジクローザー(ビル外型) カ-部: ステンレス、(本体は鋼) ドアクローザー 本体: アルミ合金 アルミ部: 鋼(焼付け塗装)			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	閉鎖順位調整器 ステンレス、(鋼)	16	16 軽量シャッター (16.12.2) ~ (16.12.4)	開閉方式 電動式(手動併用) 手動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 図示による 耐風圧強度 スラット 材質 めっきの付着量 形状 JIS G 3312 Z06又はF06を満足するもの インターロック型 JIS G 3322 AZ90を満足するもの オーバーラッピング型	17	3 PCカーテン ウォール (17.3.2) ~ (17.3.5)	セクション材 アルミ合金 アルミ合金 アルミ合金 耐風圧性能 開閉方式 バランス式 チェーン式 電動式 電動式には保護装置を設ける 設置箇所 図示による 収納形式 スタンダード型 ローヘッド型 ハイリフト型 パーチル型 ガイドレール等 溶融亜鉛めっき鋼板 ステンレス鋼板 材料 種類 種類等 種類 種類等 加工板ガラス 強化ガラス 型板ガラス 熱線吸収ガラス 網入型板ガラス 複層ガラス 線入板ガラス 熱線反射ガラス 合わせガラス 倍強度ガラス	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。
		押棒・押板 (ステンレス、黄銅、合成樹脂) 取付位置 ( )			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	上げ落し (フランス落し) 亜鉛合金程度、(ステンレス)	16	17 オーバーヘッド ドア (16.13.2) ~ (16.13.4)	セクション材 アルミ合金 アルミ合金 アルミ合金 耐風圧性能 開閉方式 バランス式 チェーン式 電動式 電動式には保護装置を設ける 設置箇所 図示による 収納形式 スタンダード型 ローヘッド型 ハイリフト型 パーチル型 ガイドレール等 溶融亜鉛めっき鋼板 ステンレス鋼板 材料 種類 種類等 種類 種類等 加工板ガラス 強化ガラス 型板ガラス 熱線吸収ガラス 網入型板ガラス 複層ガラス 線入板ガラス 熱線反射ガラス 合わせガラス 倍強度ガラス	17	4 シーリング材及び ガラス取付材料 (17.2.2)(17.3.2)	表9.7.1による ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法 4辺支持	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用 適用しない 適用する(着色剤: 溶剤系着色剤 油性染料着色剤) ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用 適用する 適用しない オイルステイン塗りの工程等
		戸当り 亜鉛合金程度、(ステンレス、黄銅) あり止め付き			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	引き戸 (表16.8.1)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		金物の種類 見え掛り部の材質 その他 引戸用錠 木製建具の場合 シリンドラ-カ-等はステンレス 取付位置 ( ) クレセント 建具製作所の仕様による。 引手類 木製建具の場合: ステンレス (黄銅) 戸車 (上吊りの場合を除く) レール ステンレス、 (アルミ合金 黄銅) 黄銅は木製建具用のみ 金属製建具用丁番 表16.8.2による 樹脂製建具用丁番 表16.8.3による 木製建具用丁番 表16.8.4による 戸車及びレール 表16.8.5による			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	グレモン錠 レール: アルミ合金、 (ステンレス)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		押棒・押板 (ステンレス、黄銅、合成樹脂) 取付位置 ( )			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	上げ落し (フランス落し) 亜鉛合金程度、(ステンレス)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		戸当り 亜鉛合金程度、(ステンレス、黄銅) あり止め付き			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	引き戸 (表16.8.1)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		金物の種類 見え掛り部の材質 その他 引戸用錠 木製建具の場合 シリンドラ-カ-等はステンレス 取付位置 ( ) クレセント 建具製作所の仕様による。 引手類 木製建具の場合: ステンレス (黄銅) 戸車 (上吊りの場合を除く) レール ステンレス、 (アルミ合金 黄銅) 黄銅は木製建具用のみ 金属製建具用丁番 表16.8.2による 樹脂製建具用丁番 表16.8.3による 木製建具用丁番 表16.8.4による 戸車及びレール 表16.8.5による			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	上げ落し (フランス落し) 亜鉛合金程度、(ステンレス)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		戸当り 亜鉛合金程度、(ステンレス、黄銅) あり止め付き			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	引き戸 (表16.8.1)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		金物の種類 見え掛り部の材質 その他 引戸用錠 木製建具の場合 シリンドラ-カ-等はステンレス 取付位置 ( ) クレセント 建具製作所の仕様による。 引手類 木製建具の場合: ステンレス (黄銅) 戸車 (上吊りの場合を除く) レール ステンレス、 (アルミ合金 黄銅) 黄銅は木製建具用のみ 金属製建具用丁番 表16.8.2による 樹脂製建具用丁番 表16.8.3による 木製建具用丁番 表16.8.4による 戸車及びレール 表16.8.5による			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	上げ落し (フランス落し) 亜鉛合金程度、(ステンレス)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		戸当り 亜鉛合金程度、(ステンレス、黄銅) あり止め付き			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	引き戸 (表16.8.1)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		金物の種類 見え掛り部の材質 その他 引戸用錠 木製建具の場合 シリンドラ-カ-等はステンレス 取付位置 ( ) クレセント 建具製作所の仕様による。 引手類 木製建具の場合: ステンレス (黄銅) 戸車 (上吊りの場合を除く) レール ステンレス、 (アルミ合金 黄銅) 黄銅は木製建具用のみ 金属製建具用丁番 表16.8.2による 樹脂製建具用丁番 表16.8.3による 木製建具用丁番 表16.8.4による 戸車及びレール 表16.8.5による			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	上げ落し (フランス落し) 亜鉛合金程度、(ステンレス)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		戸当り 亜鉛合金程度、(ステンレス、黄銅) あり止め付き			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)
16	建具工事	引き戸 (表16.8.1)	16	18 ガラス (16.14.2) ~ (16.14.4) (9.7.1~5)	ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材の種類 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 鋼製及び鋼製軽量建具 シーリング材 建具製造所の仕様による ステンレス製建具 シーリング材 建具製造所の仕様による 樹脂製建具 グレージングガスケット 建具製造所の仕様による 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。	17	5 構造用ガスケット (17.2.2)(17.3.2)	材質 図示による 形状 図示による 寸法 図示による	18	④ 塗装工程 (18.4.1) ~ (18.4.2)	ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 F 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 F 施工面所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類別 図示による
		金物の種類 見え掛り部の材質 その他 引戸用錠 木製建具の場合 シリンドラ-カ-等はステンレス 取付位置 ( ) クレセント 建具製作所の仕様による。 引手類 木製建具の場合: ステンレス (黄銅) 戸車 (上吊りの場合を除く) レール ステンレス、 (アルミ合金 黄銅) 黄銅は木製建具用のみ 金属製建具用丁番 表16.8.2による 樹脂製建具用丁番 表16.8.3による 木製建具用丁番 表16.8.4による 戸車及びレール 表16.8.5による			性能値等の区分 (表16.10.1) 適用戸の総質量(kg) 40以下 40を越えるもの 手動開き力(N) 15以下 20以下 手動閉じ力(N) 15以下 20以下 性能等 品質・規格			17			④

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																								
19 内装工事	4 帯電防止床シート、床タイル (19.2.2)	帯電防止床シート 種 類 性 能 厚 さ (mm) 体積抵抗値 1×10 <sup>7</sup> - 1×10 <sup>10</sup> 程度	19 内装工事	複合フローリング 図示による 種 別 樹 種 厚 さ(mm) 工 法 種 別 備 考 1×6タイプ フローリング ポードタイプ なら 8 釘留め工法 A種 15 根太張り工法 B種 18 直張り工法 C種 12 10 接着工法	20 ユニット及びその他の工事	1 家具、工材等の揮発性有機化合物対策 収納家具その他ユニットに使用する材料で、合板、化粧合板、MDF等のホルムアルデヒド等の放散量 F 収納家具その他ユニットに使用する合板等の接着剤 ホルムアルデヒド等の放散量 F 含まれる可塑剤 フォスゲン等を含有しない、難揮発性のもの	20 ユニット及びその他の工事	2 フリーアクセスフロア (20.2.2)	建設技術評価制度「耐震型カーペット」の技術評価を取得した製品とする。 施 工 箇 所 寸法 (mm) フロア 高さ(mm) 耐震性能 所定荷重 帯電防止性能 漏えい抵抗 スロープ及びポーター 製造所の標準仕様 図示による コンセント等の取付け 製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設備工事) 配線用取出し用開口 対応品又は工場加工品 (施工箇所は図示) 空調用吹出しパネル あり ( 固定式 可変式 施工箇所は図示 ) 表面仕上げ材の品質、規模等は、標仕 1 章内装工事による。 フリーアクセスフロアの試験方法 耐荷重性能 耐衝撃性能 ローリングロード性能 耐燃焼性能	3 可動間仕切 (20.2.3)	種 類 構 造 形 式 構成基材 表面 仕 上 遮音性 寸法・形状 パネル式 スタッド式 カーペット式 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	4 移動間仕切 (20.2.4)	パネル操作による種類/パネル表面材・仕上/パネル圧接装置の操作方法 遮音性 あと施工アンカー 材質 寸法 引抜耐力試験 行う	5 トイレブース (20.2.5)	表面材 メラミン樹脂系化粧板 ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 幅木型 足金物型 ドアエッジの材質 トイレブース製造所の仕様による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	6 てすり (20.2.6)	材料及び表面処理 施工箇所 ステンレス製 SUS304 HL程度 鋼製 亜鉛めっき 外部 内部 アルミニウム製 手すりの握り部分 ステンレス製 ( SUS304 H L 仕上 ) 径 mm (仕様は金属工事参照) 集成材 径 mm クリアラッカー仕上げ ビニル製ハンドレール 丸型 径 mm 平型 幅 mm	7 階段滑り止め (20.2.7)	材質 ステンレス製 ( SUS304 ) 幅 約35mm 形状 ビニルタイプ入り 両端フック付 あり ( ビニル SUS304 ) 取付工法 接着工法 埋込み工法	8 黒板及びホワイトボード (20.2.9)	区分 種類 色彩 備考 黒板 焼付け 鋼製黒板 緑 曲面 ほうろう黒板 黒 スクリーン付引分け 約10mm ほうろう白板 白 曲面 スクリーン付引分け 額縁金属 アルミ製 ( 表面処理の種類 B - 2 B - 1 ) 品質・規格	9 鏡 (20.2.10)	厚さ (mm) 5	衝突防止表示 図示による ( 市販品 ステンレス製 径 30 mm ) なし 法令に基づく表示 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。 室名札 厚さ(mm) 材 質 色 書 体 印刷等の種別 取付け形式 5 アクリル板 アルミ板 角太ゴシック 丸 シルク印刷 平付型 持出型 外国語表現 行う ( 英語 ) 寸法 (mm) 50×250 60×250 図示による	10 表示・標識 (20.2.11)	ビクトグラフ ( 便所、車いす、階段等 ) 厚さ(mm) 材 質 印刷等の種別 取付け形式 備考 5 アクリル板 アルミ板 シルク印刷 平付型 持出型 寸法 (mm) 150×150 図示による	11 黒板等 (20.2.12)	材質 ステンレス製 SUS04 ( 表面処理 研磨なし ) 亜鉛めっき ( 表面処理 C種 )	12 煙突ライニング (20.2.13)	適用安全使用温度 4 0 0 6 5 0 工法	13 ブラインド (20.2.14)	形式 種類 スロットの材質 スロット幅 (mm) ガラス・レールの材質 横形 キヤ式 7mm铝合金 25 鋼製 コード式 35 縦形 2本操作コード式 7mmスロット 80 7mm铝合金製 1本操作コード式 加2スロット 100	14 ロールスクリーン (20.2.15)	操作方法 スプリング式 コード 電動式 幅及び高さ スクリーンの材質 合成、天然繊維製 ガラス繊維製 木製 品質・規格	15 カーテン (20.2.16)	取付箇所 形式 開閉操作方法 カーテン用きれ地のひだの種類 シャッター式 引分 電動 ひも引 手引 種類・品質・特殊加工等 つまみ 糊付 プレツ 消防法で定める防火性能の表示があるもの 暗幕用のカーテンの両端、上部及び召合わせの重なり 300mm以上 材質 アルミニウム製又はアルミニウム合金の押し出し成形材製 ステンレス製 形状 C型 D型 角型 強さによる区分 10-90 仕上げ アルマイト 溝幅×深さ(mm) 90×150 120×80 120×150 150×80 図示 材質 集成材 ( 仕上げ ) アルミニウム製 押し出し型材 ( 市販品 ) 種類 ( 表14.2.1 ) による種別 BC-1種 BC-2種 色合い 標準色 ( 特注色 ( ) ) 鋼製 ( 仕上げ : SOP )	16 カーテンレール (20.2.16)	材質 アルミニウム製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	17 ブラインドボックスカーテンボックス	品質・規格	18 くつふきマット	材質 塩化ビニル製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	19 鋼製書架及び棚	品質・規格	20 収納家具(木製)	品質・規格	21 掲示板	枠 の 材 質 表面の材質 照明器具 施 錠 品質・規格 屋内 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) 屋外 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) あり なし あり なし	22 カウンター	品質・規格	23 洗面カウンター	材 種 メラミン樹脂化粧板張り ( 芯材 : 集成材 ) 人工大理石 ( 品質 図示 ) 奥行き (mm) 約450 約600	24 流し台ユニット	種 類 部品寸法 (mm) 規 格 仕 様 流し台 優良住宅部品 トラップ付き コンロ台 優良住宅部品 バックガード有り 吊戸棚 優良住宅部品 高さ 約500 mm 水切り棚 優良住宅部品 ステンレス製 1段式	25 非常用救助袋等	垂直降下式下機は消防法に基づく国家検定に合格したものである。 形式 傾斜式 垂直式 品質・規格	26 鍵箱	市販品 形式 釣下式 差込式 ( 30 60 120 ) 組用 ( ) 個	27 定礎	定礎石 御影石 文字掘込 寸法 450×600×30 定礎銘板 鋼板製 両面文字掘込 寸法 B 4 版 厚さ 5mm 定礎箱 鋼板製 寸法 400×300×60	28 旗竿受金物	材質 ステンレス鋼 ( SUS304 ) ( 市販品 1箇所 箇所 ) 品質・規格	図面NO. A-007
	5 視覚障害者用床タイル (19.2.2)	帯電防止床タイル 種 類 性 能 寸法 厚 さ (mm) 体積抵抗値 1×10 <sup>7</sup> - 1×10 <sup>10</sup> 程度		13 線甲板張り (19.5.1)	種 類 樹 種 等 級 仕上程度 施工箇所	3 移動間仕切 (20.2.3)		種 類 構 造 形 式 構成基材 表面 仕 上 遮音性 寸法・形状 パネル式 スタッド式 カーペット式 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	4 移動間仕切 (20.2.4)	パネル操作による種類/パネル表面材・仕上/パネル圧接装置の操作方法 遮音性 あと施工アンカー 材質 寸法 引抜耐力試験 行う	5 トイレブース (20.2.5)	表面材 メラミン樹脂系化粧板 ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 幅木型 足金物型 ドアエッジの材質 トイレブース製造所の仕様による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	6 てすり (20.2.6)	材料及び表面処理 施工箇所 ステンレス製 SUS304 HL程度 鋼製 亜鉛めっき 外部 内部 アルミニウム製 手すりの握り部分 ステンレス製 ( SUS304 H L 仕上 ) 径 mm (仕様は金属工事参照) 集成材 径 mm クリアラッカー仕上げ ビニル製ハンドレール 丸型 径 mm 平型 幅 mm	7 階段滑り止め (20.2.7)	材質 ステンレス製 ( SUS304 ) 幅 約35mm 形状 ビニルタイプ入り 両端フック付 あり ( ビニル SUS304 ) 取付工法 接着工法 埋込み工法	8 黒板及びホワイトボード (20.2.9)	区分 種類 色彩 備考 黒板 焼付け 鋼製黒板 緑 曲面 ほうろう黒板 黒 スクリーン付引分け 約10mm ほうろう白板 白 曲面 スクリーン付引分け 額縁金属 アルミ製 ( 表面処理の種類 B - 2 B - 1 ) 品質・規格	9 鏡 (20.2.10)	厚さ (mm) 5	衝突防止表示 図示による ( 市販品 ステンレス製 径 30 mm ) なし 法令に基づく表示 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。 室名札 厚さ(mm) 材 質 色 書 体 印刷等の種別 取付け形式 5 アクリル板 アルミ板 角太ゴシック 丸 シルク印刷 平付型 持出型 外国語表現 行う ( 英語 ) 寸法 (mm) 50×250 60×250 図示による	10 表示・標識 (20.2.11)	ビクトグラフ ( 便所、車いす、階段等 ) 厚さ(mm) 材 質 印刷等の種別 取付け形式 備考 5 アクリル板 アルミ板 シルク印刷 平付型 持出型 寸法 (mm) 150×150 図示による	11 黒板等 (20.2.12)	材質 ステンレス製 SUS04 ( 表面処理 研磨なし ) 亜鉛めっき ( 表面処理 C種 )	12 煙突ライニング (20.2.13)	適用安全使用温度 4 0 0 6 5 0 工法	13 ブラインド (20.2.14)	形式 種類 スロットの材質 スロット幅 (mm) ガラス・レールの材質 横形 キヤ式 7mm铝合金 25 鋼製 コード式 35 縦形 2本操作コード式 7mmスロット 80 7mm铝合金製 1本操作コード式 加2スロット 100	14 ロールスクリーン (20.2.15)	操作方法 スプリング式 コード 電動式 幅及び高さ スクリーンの材質 合成、天然繊維製 ガラス繊維製 木製 品質・規格	15 カーテン (20.2.16)	取付箇所 形式 開閉操作方法 カーテン用きれ地のひだの種類 シャッター式 引分 電動 ひも引 手引 種類・品質・特殊加工等 つまみ 糊付 プレツ 消防法で定める防火性能の表示があるもの 暗幕用のカーテンの両端、上部及び召合わせの重なり 300mm以上 材質 アルミニウム製又はアルミニウム合金の押し出し成形材製 ステンレス製 形状 C型 D型 角型 強さによる区分 10-90 仕上げ アルマイト 溝幅×深さ(mm) 90×150 120×80 120×150 150×80 図示 材質 集成材 ( 仕上げ ) アルミニウム製 押し出し型材 ( 市販品 ) 種類 ( 表14.2.1 ) による種別 BC-1種 BC-2種 色合い 標準色 ( 特注色 ( ) ) 鋼製 ( 仕上げ : SOP )	16 カーテンレール (20.2.16)	材質 アルミニウム製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	17 ブラインドボックスカーテンボックス	品質・規格	18 くつふきマット	材質 塩化ビニル製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	19 鋼製書架及び棚	品質・規格	20 収納家具(木製)	品質・規格	21 掲示板	枠 の 材 質 表面の材質 照明器具 施 錠 品質・規格 屋内 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) 屋外 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) あり なし あり なし	22 カウンター	品質・規格	23 洗面カウンター	材 種 メラミン樹脂化粧板張り ( 芯材 : 集成材 ) 人工大理石 ( 品質 図示 ) 奥行き (mm) 約450 約600	24 流し台ユニット	種 類 部品寸法 (mm) 規 格 仕 様 流し台 優良住宅部品 トラップ付き コンロ台 優良住宅部品 バックガード有り 吊戸棚 優良住宅部品 高さ 約500 mm 水切り棚 優良住宅部品 ステンレス製 1段式	25 非常用救助袋等	垂直降下式下機は消防法に基づく国家検定に合格したものである。 形式 傾斜式 垂直式 品質・規格	26 鍵箱	市販品 形式 釣下式 差込式 ( 30 60 120 ) 組用 ( ) 個	27 定礎	定礎石 御影石 文字掘込 寸法 450×600×30 定礎銘板 鋼板製 両面文字掘込 寸法 B 4 版 厚さ 5mm 定礎箱 鋼板製 寸法 400×300×60	28 旗竿受金物	材質 ステンレス鋼 ( SUS304 ) ( 市販品 1箇所 箇所 ) 品質・規格	図面NO. A-007			
	6 耐動荷重性床シート (19.2.2)	帯電防止床シート 種 類 厚 さ (mm) 備 考		14 畳敷き (19.6.2)	種別 A種 B種 C種 D種 (KT- ) (表19.6.1) 衝撃緩和畳 (畳表 C1 C2) 種別 表19.7.1による J I S 規格品とする (表19.7.1)	3 移動間仕切 (20.2.3)		種 類 構 造 形 式 構成基材 表面 仕 上 遮音性 寸法・形状 パネル式 スタッド式 カーペット式 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	4 移動間仕切 (20.2.4)	パネル操作による種類/パネル表面材・仕上/パネル圧接装置の操作方法 遮音性 あと施工アンカー 材質 寸法 引抜耐力試験 行う	5 トイレブース (20.2.5)	表面材 メラミン樹脂系化粧板 ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 幅木型 足金物型 ドアエッジの材質 トイレブース製造所の仕様による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	6 てすり (20.2.6)	材料及び表面処理 施工箇所 ステンレス製 SUS304 HL程度 鋼製 亜鉛めっき 外部 内部 アルミニウム製 手すりの握り部分 ステンレス製 ( SUS304 H L 仕上 ) 径 mm (仕様は金属工事参照) 集成材 径 mm クリアラッカー仕上げ ビニル製ハンドレール 丸型 径 mm 平型 幅 mm	7 階段滑り止め (20.2.7)	材質 ステンレス製 ( SUS304 ) 幅 約35mm 形状 ビニルタイプ入り 両端フック付 あり ( ビニル SUS304 ) 取付工法 接着工法 埋込み工法	8 黒板及びホワイトボード (20.2.9)	区分 種類 色彩 備考 黒板 焼付け 鋼製黒板 緑 曲面 ほうろう黒板 黒 スクリーン付引分け 約10mm ほうろう白板 白 曲面 スクリーン付引分け 額縁金属 アルミ製 ( 表面処理の種類 B - 2 B - 1 ) 品質・規格	9 鏡 (20.2.10)	厚さ (mm) 5	衝突防止表示 図示による ( 市販品 ステンレス製 径 30 mm ) なし 法令に基づく表示 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。 室名札 厚さ(mm) 材 質 色 書 体 印刷等の種別 取付け形式 5 アクリル板 アルミ板 角太ゴシック 丸 シルク印刷 平付型 持出型 外国語表現 行う ( 英語 ) 寸法 (mm) 50×250 60×250 図示による	10 表示・標識 (20.2.11)	ビクトグラフ ( 便所、車いす、階段等 ) 厚さ(mm) 材 質 印刷等の種別 取付け形式 備考 5 アクリル板 アルミ板 シルク印刷 平付型 持出型 寸法 (mm) 150×150 図示による	11 黒板等 (20.2.12)	材質 ステンレス製 SUS04 ( 表面処理 研磨なし ) 亜鉛めっき ( 表面処理 C種 )	12 煙突ライニング (20.2.13)	適用安全使用温度 4 0 0 6 5 0 工法	13 ブラインド (20.2.14)	形式 種類 スロットの材質 スロット幅 (mm) ガラス・レールの材質 横形 キヤ式 7mm铝合金 25 鋼製 コード式 35 縦形 2本操作コード式 7mmスロット 80 7mm铝合金製 1本操作コード式 加2スロット 100	14 ロールスクリーン (20.2.15)	操作方法 スプリング式 コード 電動式 幅及び高さ スクリーンの材質 合成、天然繊維製 ガラス繊維製 木製 品質・規格	15 カーテン (20.2.16)	取付箇所 形式 開閉操作方法 カーテン用きれ地のひだの種類 シャッター式 引分 電動 ひも引 手引 種類・品質・特殊加工等 つまみ 糊付 プレツ 消防法で定める防火性能の表示があるもの 暗幕用のカーテンの両端、上部及び召合わせの重なり 300mm以上 材質 アルミニウム製又はアルミニウム合金の押し出し成形材製 ステンレス製 形状 C型 D型 角型 強さによる区分 10-90 仕上げ アルマイト 溝幅×深さ(mm) 90×150 120×80 120×150 150×80 図示 材質 集成材 ( 仕上げ ) アルミニウム製 押し出し型材 ( 市販品 ) 種類 ( 表14.2.1 ) による種別 BC-1種 BC-2種 色合い 標準色 ( 特注色 ( ) ) 鋼製 ( 仕上げ : SOP )	16 カーテンレール (20.2.16)	材質 アルミニウム製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	17 ブラインドボックスカーテンボックス	品質・規格	18 くつふきマット	材質 塩化ビニル製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	19 鋼製書架及び棚	品質・規格	20 収納家具(木製)	品質・規格	21 掲示板	枠 の 材 質 表面の材質 照明器具 施 錠 品質・規格 屋内 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) 屋外 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) あり なし あり なし	22 カウンター	品質・規格	23 洗面カウンター	材 種 メラミン樹脂化粧板張り ( 芯材 : 集成材 ) 人工大理石 ( 品質 図示 ) 奥行き (mm) 約450 約600	24 流し台ユニット	種 類 部品寸法 (mm) 規 格 仕 様 流し台 優良住宅部品 トラップ付き コンロ台 優良住宅部品 バックガード有り 吊戸棚 優良住宅部品 高さ 約500 mm 水切り棚 優良住宅部品 ステンレス製 1段式	25 非常用救助袋等	垂直降下式下機は消防法に基づく国家検定に合格したものである。 形式 傾斜式 垂直式 品質・規格	26 鍵箱	市販品 形式 釣下式 差込式 ( 30 60 120 ) 組用 ( ) 個	27 定礎	定礎石 御影石 文字掘込 寸法 450×600×30 定礎銘板 鋼板製 両面文字掘込 寸法 B 4 版 厚さ 5mm 定礎箱 鋼板製 寸法 400×300×60	28 旗竿受金物	材質 ステンレス鋼 ( SUS304 ) ( 市販品 1箇所 箇所 ) 品質・規格	図面NO. A-007			
	7 防滑性床シート、床タイル (19.2.2)	防滑性床シート 種 類 厚 さ (mm) 備 考		15 せっこうボード、その他ボード及び合板張り (19.7.2)	種別 A種 B種 C種 D種 (KT- ) (表19.6.1) 衝撃緩和畳 (畳表 C1 C2) 種別 表19.7.1による J I S 規格品とする (表19.7.1)	3 移動間仕切 (20.2.3)		種 類 構 造 形 式 構成基材 表面 仕 上 遮音性 寸法・形状 パネル式 スタッド式 カーペット式 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	4 移動間仕切 (20.2.4)	パネル操作による種類/パネル表面材・仕上/パネル圧接装置の操作方法 遮音性 あと施工アンカー 材質 寸法 引抜耐力試験 行う	5 トイレブース (20.2.5)	表面材 メラミン樹脂系化粧板 ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 幅木型 足金物型 ドアエッジの材質 トイレブース製造所の仕様による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	6 てすり (20.2.6)	材料及び表面処理 施工箇所 ステンレス製 SUS304 HL程度 鋼製 亜鉛めっき 外部 内部 アルミニウム製 手すりの握り部分 ステンレス製 ( SUS304 H L 仕上 ) 径 mm (仕様は金属工事参照) 集成材 径 mm クリアラッカー仕上げ ビニル製ハンドレール 丸型 径 mm 平型 幅 mm	7 階段滑り止め (20.2.7)	材質 ステンレス製 ( SUS304 ) 幅 約35mm 形状 ビニルタイプ入り 両端フック付 あり ( ビニル SUS304 ) 取付工法 接着工法 埋込み工法	8 黒板及びホワイトボード (20.2.9)	区分 種類 色彩 備考 黒板 焼付け 鋼製黒板 緑 曲面 ほうろう黒板 黒 スクリーン付引分け 約10mm ほうろう白板 白 曲面 スクリーン付引分け 額縁金属 アルミ製 ( 表面処理の種類 B - 2 B - 1 ) 品質・規格	9 鏡 (20.2.10)	厚さ (mm) 5	衝突防止表示 図示による ( 市販品 ステンレス製 径 30 mm ) なし 法令に基づく表示 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。 室名札 厚さ(mm) 材 質 色 書 体 印刷等の種別 取付け形式 5 アクリル板 アルミ板 角太ゴシック 丸 シルク印刷 平付型 持出型 外国語表現 行う ( 英語 ) 寸法 (mm) 50×250 60×250 図示による	10 表示・標識 (20.2.11)	ビクトグラフ ( 便所、車いす、階段等 ) 厚さ(mm) 材 質 印刷等の種別 取付け形式 備考 5 アクリル板 アルミ板 シルク印刷 平付型 持出型 寸法 (mm) 150×150 図示による	11 黒板等 (20.2.12)	材質 ステンレス製 SUS04 ( 表面処理 研磨なし ) 亜鉛めっき ( 表面処理 C種 )	12 煙突ライニング (20.2.13)	適用安全使用温度 4 0 0 6 5 0 工法	13 ブラインド (20.2.14)	形式 種類 スロットの材質 スロット幅 (mm) ガラス・レールの材質 横形 キヤ式 7mm铝合金 25 鋼製 コード式 35 縦形 2本操作コード式 7mmスロット 80 7mm铝合金製 1本操作コード式 加2スロット 100	14 ロールスクリーン (20.2.15)	操作方法 スプリング式 コード 電動式 幅及び高さ スクリーンの材質 合成、天然繊維製 ガラス繊維製 木製 品質・規格	15 カーテン (20.2.16)	取付箇所 形式 開閉操作方法 カーテン用きれ地のひだの種類 シャッター式 引分 電動 ひも引 手引 種類・品質・特殊加工等 つまみ 糊付 プレツ 消防法で定める防火性能の表示があるもの 暗幕用のカーテンの両端、上部及び召合わせの重なり 300mm以上 材質 アルミニウム製又はアルミニウム合金の押し出し成形材製 ステンレス製 形状 C型 D型 角型 強さによる区分 10-90 仕上げ アルマイト 溝幅×深さ(mm) 90×150 120×80 120×150 150×80 図示 材質 集成材 ( 仕上げ ) アルミニウム製 押し出し型材 ( 市販品 ) 種類 ( 表14.2.1 ) による種別 BC-1種 BC-2種 色合い 標準色 ( 特注色 ( ) ) 鋼製 ( 仕上げ : SOP )	16 カーテンレール (20.2.16)	材質 アルミニウム製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	17 ブラインドボックスカーテンボックス	品質・規格	18 くつふきマット	材質 塩化ビニル製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	19 鋼製書架及び棚	品質・規格	20 収納家具(木製)	品質・規格	21 掲示板	枠 の 材 質 表面の材質 照明器具 施 錠 品質・規格 屋内 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) 屋外 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) あり なし あり なし	22 カウンター	品質・規格	23 洗面カウンター	材 種 メラミン樹脂化粧板張り ( 芯材 : 集成材 ) 人工大理石 ( 品質 図示 ) 奥行き (mm) 約450 約600	24 流し台ユニット	種 類 部品寸法 (mm) 規 格 仕 様 流し台 優良住宅部品 トラップ付き コンロ台 優良住宅部品 バックガード有り 吊戸棚 優良住宅部品 高さ 約500 mm 水切り棚 優良住宅部品 ステンレス製 1段式	25 非常用救助袋等	垂直降下式下機は消防法に基づく国家検定に合格したものである。 形式 傾斜式 垂直式 品質・規格	26 鍵箱	市販品 形式 釣下式 差込式 ( 30 60 120 ) 組用 ( ) 個	27 定礎	定礎石 御影石 文字掘込 寸法 450×600×30 定礎銘板 鋼板製 両面文字掘込 寸法 B 4 版 厚さ 5mm 定礎箱 鋼板製 寸法 400×300×60	28 旗竿受金物	材質 ステンレス鋼 ( SUS304 ) ( 市販品 1箇所 箇所 ) 品質・規格	図面NO. A-007			
	8 ビニル幅木 (19.2.2)	種 類 高 さ (mm) 厚 さ (mm) 軟質 硬質 60 75 100 1.5 2.0		16 壁紙張り (19.8.2)	天井のボード類 (吸音板を除く)の重ね張りを行う場合 図示による 合板類の張付け A種 B種 (表19.7.3) せっこうボードの目地処理 目透かし 突付け 継目処理 (表19.7.5) 突付け工法及び目透かし工法のエッジの種類 ベベルエッジ スクエアエッジ	3 移動間仕切 (20.2.3)		種 類 構 造 形 式 構成基材 表面 仕 上 遮音性 寸法・形状 パネル式 スタッド式 カーペット式 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	4 移動間仕切 (20.2.4)	パネル操作による種類/パネル表面材・仕上/パネル圧接装置の操作方法 遮音性 あと施工アンカー 材質 寸法 引抜耐力試験 行う	5 トイレブース (20.2.5)	表面材 メラミン樹脂系化粧板 ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 幅木型 足金物型 ドアエッジの材質 トイレブース製造所の仕様による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F	6 てすり (20.2.6)	材料及び表面処理 施工箇所 ステンレス製 SUS304 HL程度 鋼製 亜鉛めっき 外部 内部 アルミニウム製 手すりの握り部分 ステンレス製 ( SUS304 H L 仕上 ) 径 mm (仕様は金属工事参照) 集成材 径 mm クリアラッカー仕上げ ビニル製ハンドレール 丸型 径 mm 平型 幅 mm	7 階段滑り止め (20.2.7)	材質 ステンレス製 ( SUS304 ) 幅 約35mm 形状 ビニルタイプ入り 両端フック付 あり ( ビニル SUS304 ) 取付工法 接着工法 埋込み工法	8 黒板及びホワイトボード (20.2.9)	区分 種類 色彩 備考 黒板 焼付け 鋼製黒板 緑 曲面 ほうろう黒板 黒 スクリーン付引分け 約10mm ほうろう白板 白 曲面 スクリーン付引分け 額縁金属 アルミ製 ( 表面処理の種類 B - 2 B - 1 ) 品質・規格	9 鏡 (20.2.10)	厚さ (mm) 5	衝突防止表示 図示による ( 市販品 ステンレス製 径 30 mm ) なし 法令に基づく表示 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。 室名札 厚さ(mm) 材 質 色 書 体 印刷等の種別 取付け形式 5 アクリル板 アルミ板 角太ゴシック 丸 シルク印刷 平付型 持出型 外国語表現 行う ( 英語 ) 寸法 (mm) 50×250 60×250 図示による	10 表示・標識 (20.2.11)	ビクトグラフ ( 便所、車いす、階段等 ) 厚さ(mm) 材 質 印刷等の種別 取付け形式 備考 5 アクリル板 アルミ板 シルク印刷 平付型 持出型 寸法 (mm) 150×150 図示による	11 黒板等 (20.2.12)	材質 ステンレス製 SUS04 ( 表面処理 研磨なし ) 亜鉛めっき ( 表面処理 C種 )	12 煙突ライニング (20.2.13)	適用安全使用温度 4 0 0 6 5 0 工法	13 ブラインド (20.2.14)	形式 種類 スロットの材質 スロット幅 (mm) ガラス・レールの材質 横形 キヤ式 7mm铝合金 25 鋼製 コード式 35 縦形 2本操作コード式 7mmスロット 80 7mm铝合金製 1本操作コード式 加2スロット 100	14 ロールスクリーン (20.2.15)	操作方法 スプリング式 コード 電動式 幅及び高さ スクリーンの材質 合成、天然繊維製 ガラス繊維製 木製 品質・規格	15 カーテン (20.2.16)	取付箇所 形式 開閉操作方法 カーテン用きれ地のひだの種類 シャッター式 引分 電動 ひも引 手引 種類・品質・特殊加工等 つまみ 糊付 プレツ 消防法で定める防火性能の表示があるもの 暗幕用のカーテンの両端、上部及び召合わせの重なり 300mm以上 材質 アルミニウム製又はアルミニウム合金の押し出し成形材製 ステンレス製 形状 C型 D型 角型 強さによる区分 10-90 仕上げ アルマイト 溝幅×深さ(mm) 90×150 120×80 120×150 150×80 図示 材質 集成材 ( 仕上げ ) アルミニウム製 押し出し型材 ( 市販品 ) 種類 ( 表14.2.1 ) による種別 BC-1種 BC-2種 色合い 標準色 ( 特注色 ( ) ) 鋼製 ( 仕上げ : SOP )	16 カーテンレール (20.2.16)	材質 アルミニウム製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	17 ブラインドボックスカーテンボックス	品質・規格	18 くつふきマット	材質 塩化ビニル製 ( コイル状 ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 ) 硬質アルミニウム合金 ( 受枠とも ) ステンレス製 ( SUS304 ) ( 受枠とも ) ゴム製 ( ステンレス製 ( SUS304 ) 受枠 )	19 鋼製書架及び棚	品質・規格	20 収納家具(木製)	品質・規格	21 掲示板	枠 の 材 質 表面の材質 照明器具 施 錠 品質・規格 屋内 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) 屋外 7mm鋼製 ( B-2 ) スチール製 ( SUS304 ) あり なし あり なし	22 カウンター	品質・規格	23 洗面カウンター	材 種 メラミン樹脂化粧板張り ( 芯材 : 集成材 ) 人工大理石 ( 品質 図示 ) 奥行き (mm) 約450 約600	24 流し台ユニット	種 類 部品寸法 (mm) 規 格 仕 様 流し台 優良住宅部品 トラップ付き コンロ台 優良住宅部品 バックガード有り 吊戸棚 優良住宅部品 高さ 約500 mm 水切り棚 優良住宅部品 ステンレス製 1段式	25 非常用救助袋等	垂直降下式下機は消防法に基づく国家検定に合格したものである。 形式 傾斜式 垂直式 品質・規格	26 鍵箱	市販品 形式 釣下式 差込式 ( 30 60 120 ) 組用 ( ) 個	27 定礎	定礎石 御影石 文字掘込 寸法 450×600×30 定礎銘板 鋼板製 両面文字掘込 寸法 B 4 版 厚さ 5mm 定礎箱 鋼板製 寸法 400×300×60	28 旗竿受金物	材質 ステンレス鋼 ( SUS304 ) ( 市販品 1箇所 箇所 ) 品質・規格	図面NO. A-			

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																		
20	29	旗ポール	材	質	形	式	地上高さ (m)	操作	方法	固定	方法	22	1	路床	(22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)	路床の構成 凍上抑制層 厚さ 図示による 凍上抑制層に用いる材料 砂( 砂の粒度試験 ) 透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 図示による 150mm 歩道部 図示による 50mm 盛土に用いる材料 A種 B種 C種 D種 (表3.2.1) 路床安定処理 行う 行わない 路床安定処理用材料 添加材料による安定処理 (表22.2.2) 種類 地盤改良材 ( ) 高炉セメントB種 普通ポルトランドセメント 生石灰 特号 生石灰 1号 フライアッシュセメントB種 消石灰 特号 消石灰 1号 添加量 kg/m <sup>3</sup> (CBR 3以上 ) 路床土の支持力比(CBR)試験 行う ( 乱した土 乱さない土 ) 路床締固め度の試験 行う (埋戻し部、盛土部) 行わない	舗装 工事	22	7	ブロック系舗装	(22.8.2) (22.8.3)	コンクリート平板舗装 種類 類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 目 地 普通平板(N) カラー平板(C) 3 0 0 角 6 0 砂 洗出平板(W) 鍍石(S) モルタル 透水性平板(P) 保水性平板(M)	23	1	植栽基盤整備	(23.2.2) (23.2.3)	行う 図示による 樹木の樹高 有効土層の厚さ (cm) 工 法 整 備 範 囲 12m以上 100 120 150 A種 植込み部分 7~12m未満 80 100 B種 葉張りの範囲 3~7m未満 60 80 C種 (樹高7m以上) 3m未満 50 60 D種 図示 芝、地被類 20 B種 植栽範囲											
			品質・規格	補強鉄線 JIS G 3532 の普通鉄線 JIS G 3551 の溶接鉄線 径 (mm) 綱目寸法 x	コンクリートの設計基準強度 水セメント比 55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m <sup>3</sup> を満足する調合強度	配筋 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する	取付け方法 図示による	31	間知石及びコケ	間知石の材種 花こう岩 コケ間知ブロック 面の形状 長方形 正方形 六角形 H型 質量区分 ブロックA ブロックB 地業の材料 再生クラッシャー 練積みの工法 谷積み 布積み ( 目塗り 行う ) 伸縮目地材の材種、厚さ	2																	路盤	(22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)	路盤の厚さ 図示による 材料 再生クラッシャーラン (RC-40,30,20) クラッシャーラン (C-40,30,20) クラック/鉄網入り (CS-40) 路盤締固め度の試験 行う	3	アスファルト舗装	(22.4.2) ~(22.4.6)	舗 装 の 種 類 表面(mm) 基層(mm) カラー舗装の種類 アスファルト舗装 顔料混入加熱アスファルト混合物 アスファルト 再生アスファルト( 図示による ) ストレータアスファルト 再生加熱アスファルト混合物の種類 区分 一般地域 寒冷地域 表層 密粒度アスファルト混合物 (13) 密粒度アスファルト混合物 (13F) 細粒度アスファルト混合物 (13)	8	砂利敷き	(22.9.2)	通 路 A種 B種 図示による 建物周囲その他 A種 B種 図示による 下敷きの使用材料は再生クラッシャーランとする
			32	敷地境界石標	種別 花こう石類 (文字記号入り) コケ/ト/コケ製 (市販品)	33	車止めさく	形 式 材 質 柱径・肉厚 (mm) 高さ (mm) 上下式鎖内蔵型 スチール製 (SUS304) 76.3 t=2.0 6L+700 ( スプリング付き ) 114.3 t=2.5 6L+850 基礎 無筋コンクリート造 350×350 H250程度	4	コンクリート舗装	(22.5.2) ~(22.5.6)																	構成 コンクリートの種類 部 位 厚さ (mm) 設計基準強度 (N/m <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 普通コンクリート 歩道部 100 21 8 早強セメント 使用しない 使用する 目地 注入目地材料 低弾性タイプ 高弾性タイプ 種類 突合せ目地 収縮目地 伸縮調整目地 間隔 5m程度ごと 4m程度ごと 3m程度ごと コンクリート版厚さの試験 行う	9	白線引き	種 類 熔融式 ペイント式 幅 (cm) 15							
			34	フェンス	表 面 仕 上 等 種 類 門扉の仕様 亜鉛めっき 樹脂塗装 メッシュフェンス 1.4x1.2m フェンス 片開き ビニル被覆 合金めっき 亜鉛めっき 両開き 朝日スチール工業株式会社 同等品以上	5	屋外雨水排水	材 種 (表21.2.1) 管 の 種 類 呼び径 基床の厚さ 通心力鉄筋コンクリート管 外圧管( 1種 ) 硬質ポリ塩化ビニル管 V P V U 図示による R S - V U 硬質ポリ塩化ビニル管継手 D V V U継手 硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 接着剤 側塊の形状及び寸法 図示による 排水樹の種類 図示による 砂地業に用いる材料 シルト 山砂 川砂 砕砂 砂利地業に用いる材料 再生クラッシャーラン 切込砂利または切込砕石 現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 18N/mm <sup>2</sup> スランプ 15cm 又は 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 SD295 現場打ちの場合の足掛け金物 (21.2.2(6)(材)) 材質 ステンレス製 鋼製 合成樹脂被覆加工されたもの 凍上抑制層に用いる材料 砂( 砂の粒度試験 )	6	カラー舗装	(22.6.2) ~(22.6.4)																	種 類 部 位 配合その他 図示による 加熱系アスファルト混合物 車路 添加材 着色骨材 自然石 歩行者 結合材 アスファルト 石油樹脂 (添加量 ) 用通路 アスファルト混合物等の抽出試験 適用する 適用しない 舗装の厚さ mm 常温系ニート工法 常温系塗布工法 着色部の下部 アスファルト舗装 コンクリート舗装	6	透水性舗装	(22.7.2) ~(22.7.6)	舗装構成及び厚さ 図示による 表面の厚さの試験 行う 行わない 開粒度アスファルト混合物の抽出試験 行う 行わない						
21	排水 工事	1	2	鋼鉄製ふた	鋼鉄製マンホールふたの種類 図示による 種 類 適 用 荷 重 (安全荷重) 水封形 密閉形(テーパーバット式) T-2用(5KN) T-6用(115KN) 中蓋付密閉形 簡易密閉形(バット式) T-20用(50KN)	3	グレーチング	グレーチングふた 図示による 種 類 材 質 形 式 適用荷重 タイプ 上面形状 溝ふた用 鋼鋼製 受枠 なし 歩行用 普通目 平形 樹ふた用 スチール製 あり T-2用 細目 凹凸形 嵩上げ用 図示 T-6用 U字溝用 ポルト固定 なし T-14用 あり T-20用	4	緑石	(21.3.1) (21.3.2)	歩車道境界ブロックのJIS による呼び名 A 地先境界ブロックのJIS による呼び名 A C 砂利地業の厚さ 100mm	5	コンクリート側溝	(21.2.1) (21.3.1)	鉄筋コンクリートL形のJIS による呼び名 250A 250B コンクリートL形のJIS による呼び名 250A 250B 鉄筋コンクリートU形のJIS による呼び名 240 300A 360A 図示 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm <sup>2</sup> ) 1 8 スランプ(cm) 1 5 1 8 現場打の鉄筋 種類の記号 SD295A																						
			5	屋上緑化	(23.5.2) ~(23.5.4)	屋上緑化システム 排水層 軽量骨材 (厚さ ) 板状成形品 土壌層 改良土 (厚さ ) 人工軽量土 (厚さ ) 屋上緑化軽量システム 樹木の種類、寸法、数量等 図示による 下表による 種類 寸 法 数 量 備 考 芝・地被類の種類 図示による コウライシバ ( 目地張り ) ノシバ ( 目地張り ) セダム類 ( カット ふるい プラグ苗 ) 材料 見切り材 舗装材 排水孔 排水材 かん水装置 設置する ( ) 設置しない 支柱材 設置する 杉(焼き丸太) 竹 ひのき から松(皮はぎ) 形式 図示による 防腐処理方法 加圧式防腐処理丸太 設置しない 「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造体力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日 建設省告示第1458号)に基づく風圧力に対応した工法 図示による 6	6	新植、移植樹木、芝等の枯補償	(23.3.4) (23.3.6) (23.4.7) (23.5.5)	引渡しの日から 1年 引渡しの日から 年																												
			6	新植、移植樹木、芝等の枯補償	(23.3.4) (23.3.6) (23.4.7) (23.5.5)	引渡しの日から 1年 引渡しの日から 年																																



**株式 類設計室**  
**会社 一級建築士事務所**

本社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06・6305・2222  
 東京事務所 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-38-3 蒲田朝日ビル4F 03・5713・1010  
 大阪事務所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06・6305・6666

設計 一級建築士 大臣登録第311846号  
 齋藤 直

構造設計一級建築士 第5621号  
 一級建築士 大臣登録第235240号  
 廣重 圭一

設備設計一級建築士 第4707号  
 一級建築士 大臣登録第358739号  
 鈴木 邦彦

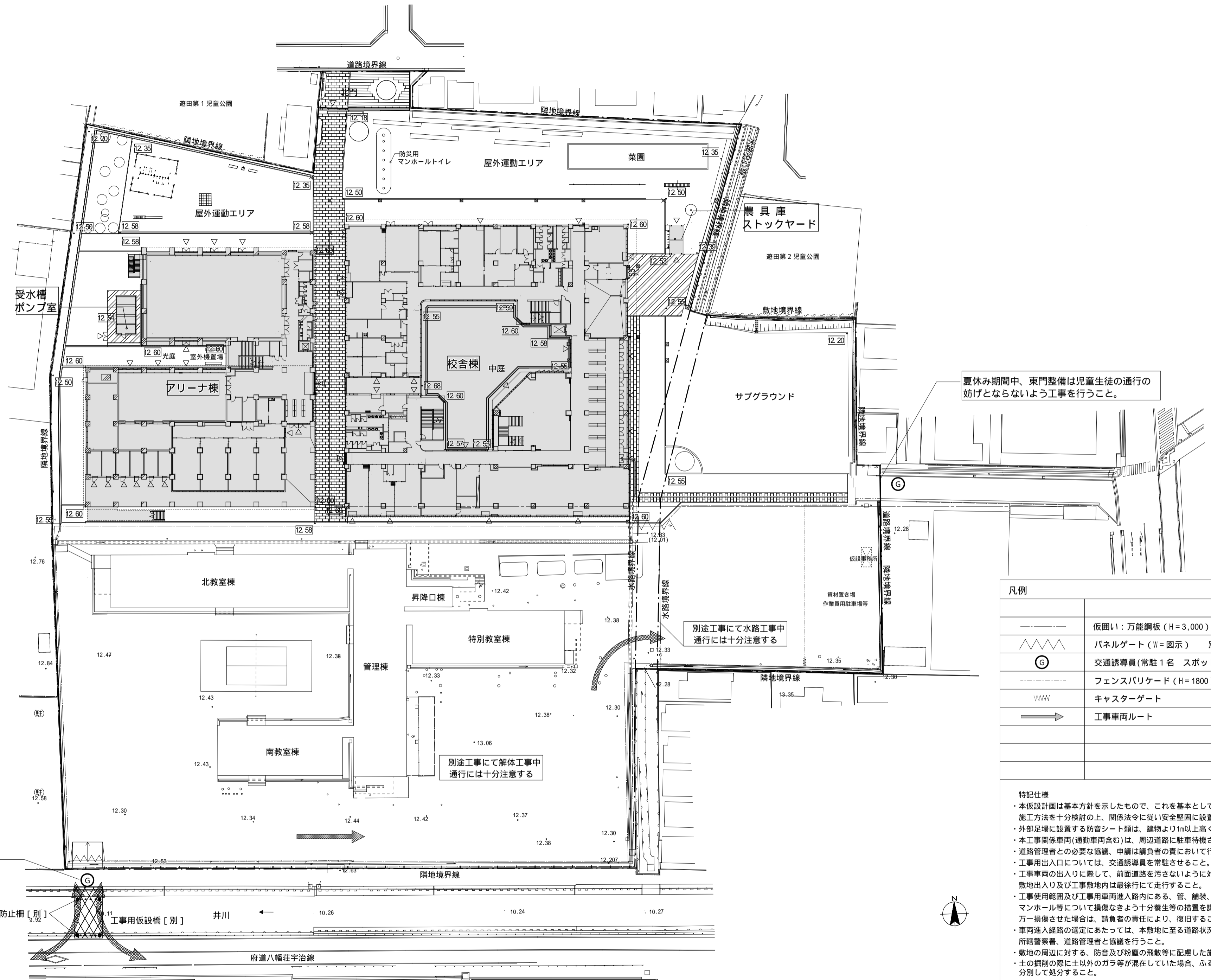
担当

作成	・	・
第1回	・	・
第2回	・	・
第3回	・	・

工事名称 宇治西小倉学園東門周辺整備工事  
 図面名称 付近見取図

縮尺 A1 : 1/1250  
 A3 : 1/2500

図面NO. A-009



夏休み期間中、東門整備は児童生徒の通行の妨げとならないよう工事を行うこと。

別途工事にて水路工事中通行には十分注意する

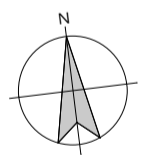
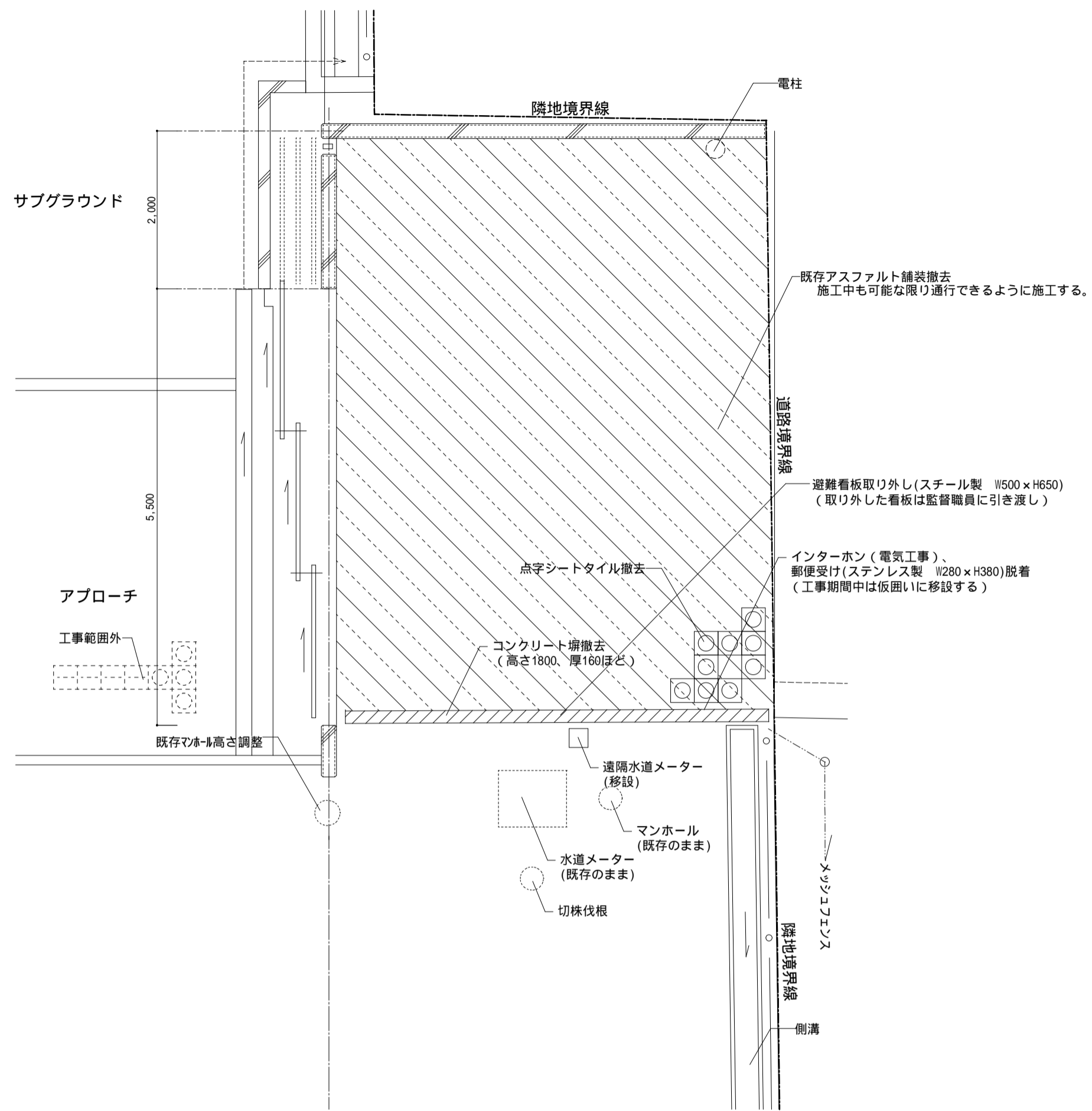
別途工事にて解体工事中通行には十分注意する

別途工事にて交通誘導員が常駐。別途工事の休日に施工を行う際は、本工事に交通誘導員を配置する事。

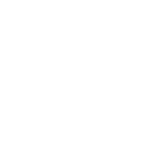
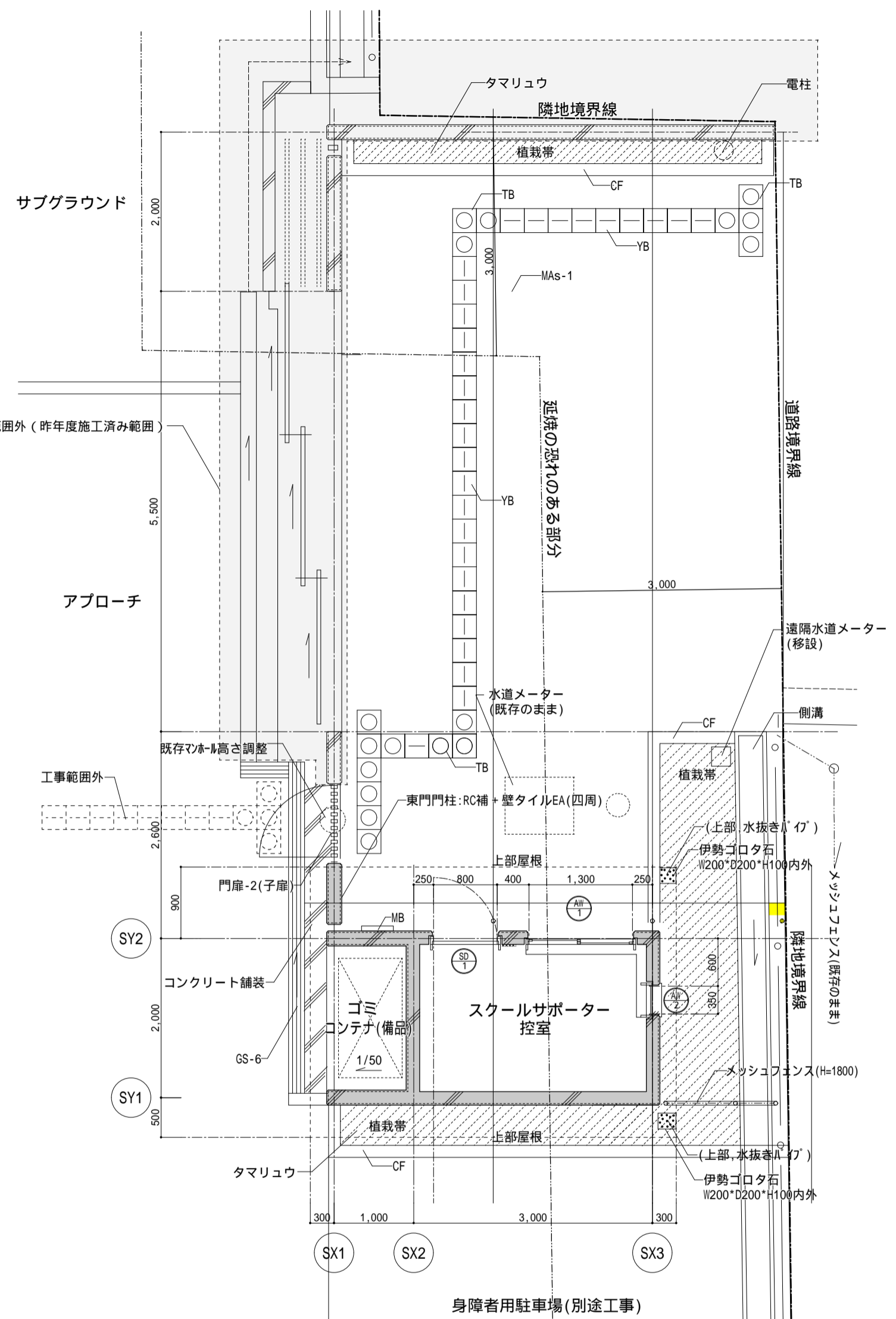
凡例	
	仮囲い：万能鋼板 (H=3,000) 別途工事にて設置
	パネルゲート (W=図示) 別途工事にて設置
	交通誘導員 (常駐1名 スポット有)
	フェンスバリケード (H=1800)
	キャストゲート
	工事車両ルート

**特記仕様**

- 本仮設計画は基本方針を示したもので、これを基本として受注者において、構造及び施工方法を十分検討の上、関係法令に従い安全堅固に設置すること。
- 外部足場に設置する防音シート類は、建物より1m以上高く設置すること。
- 本工事関係車両(通勤車含む)は、周辺道路に駐車待機させないものとする。
- 道路管理者との必要な協議、申請は請負者の責において行うこと。
- 工事用出入口については、交通誘導員を常駐させること。
- 工事車両の出入りに際して、前面道路を汚さないように対処するとともに、敷地入り及び工事敷地内は最徐行にて走行すること。
- 工事使用範囲及び工事車両進入路内にある、管、舗装、側溝、会所、マンホール等について損傷なきよう十分養生等の措置を講じること。万一損傷させた場合は、請負者の責任により、復旧すること。
- 車両進入経路の選定にあたっては、本敷地に至る道路状況を十分に調査のうえ、所轄警察署、道路管理者と協議を行うこと。
- 敷地の周辺に対する、防音及び粉塵の飛散等に配慮した施工計画とすること。
- 土の掘削の際に土以外のガラ等が混在していた場合、ふるい作業等を行い、分別して処分すること。



現況図 S=1/40(A1)



平面図 S=1/40(A1)

植栽帯					
名称	規格			単位	備考
【地被】	H	C	W		
タマリユウ	-	5芽立	7.5cmp	株	36株/m <sup>2</sup>

現況

改修後

株式会社 類設計室  
一級建築士事務所  
本社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06・6305・2222  
東京事務所 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-38-3 蒲田朝日ビル4F 03・5713・1010  
大阪事務所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06・6305・6666

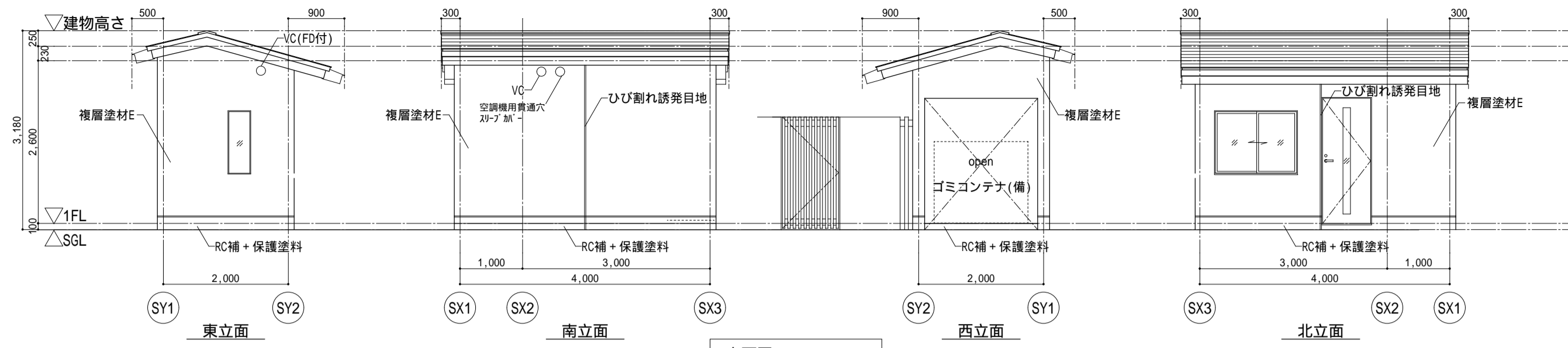
設計 一級建築士 大臣登録第311846号 齋藤 直  
構造設計一級建築士 第5621号 一級建築士 大臣登録第235240号 廣重 圭一

設備設計一級建築士 第4707号 一級建築士 大臣登録第358739号 鈴木 邦彦

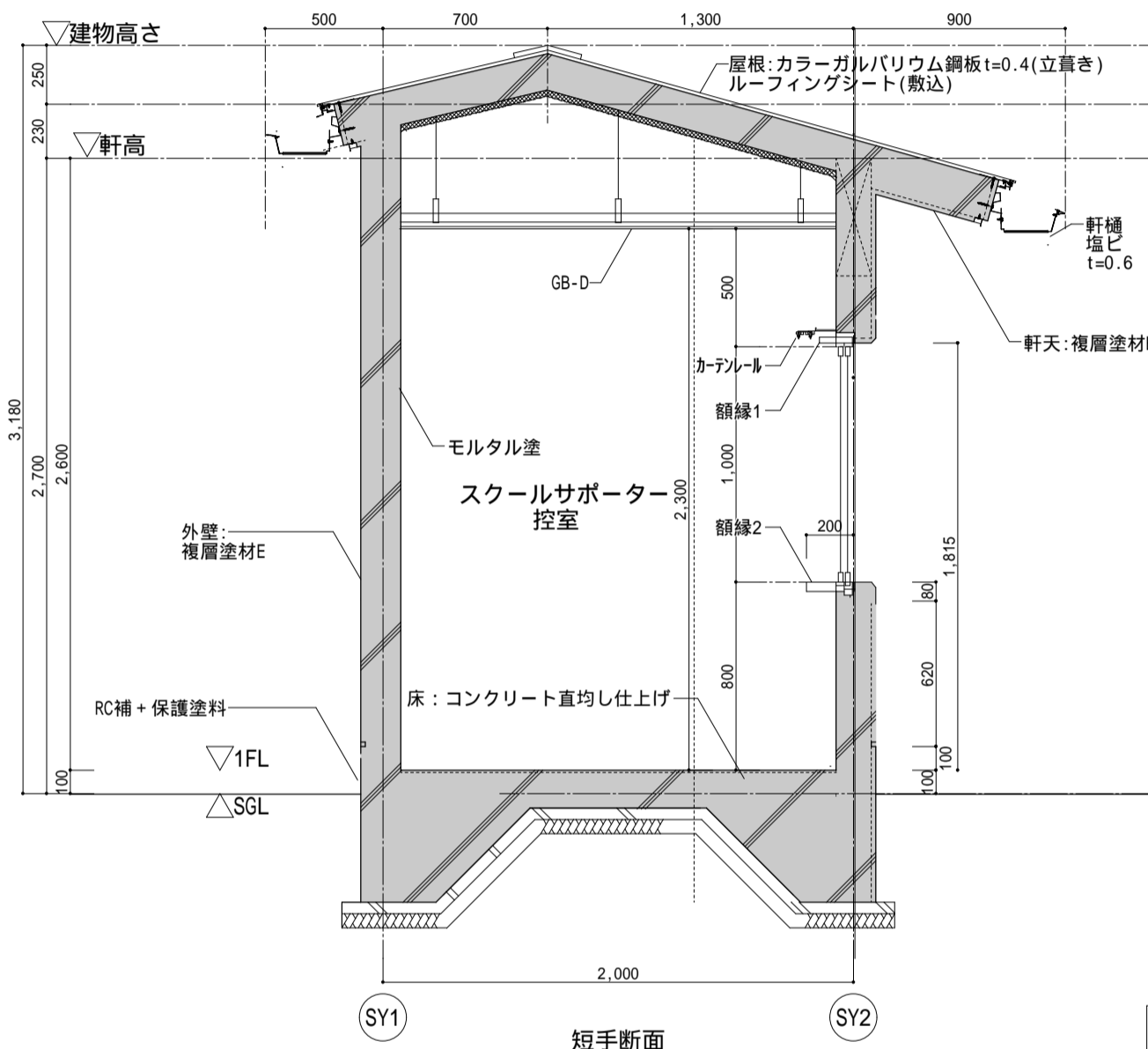
担当 作成  
第1回  
第2回  
第3回

工事名称 宇治西小倉学園東門等整備工事  
図面名称 外構・スクールサポーター控室詳細図  
縮尺 A1: 1/50  
A3: 1/100

図面NO. A-011

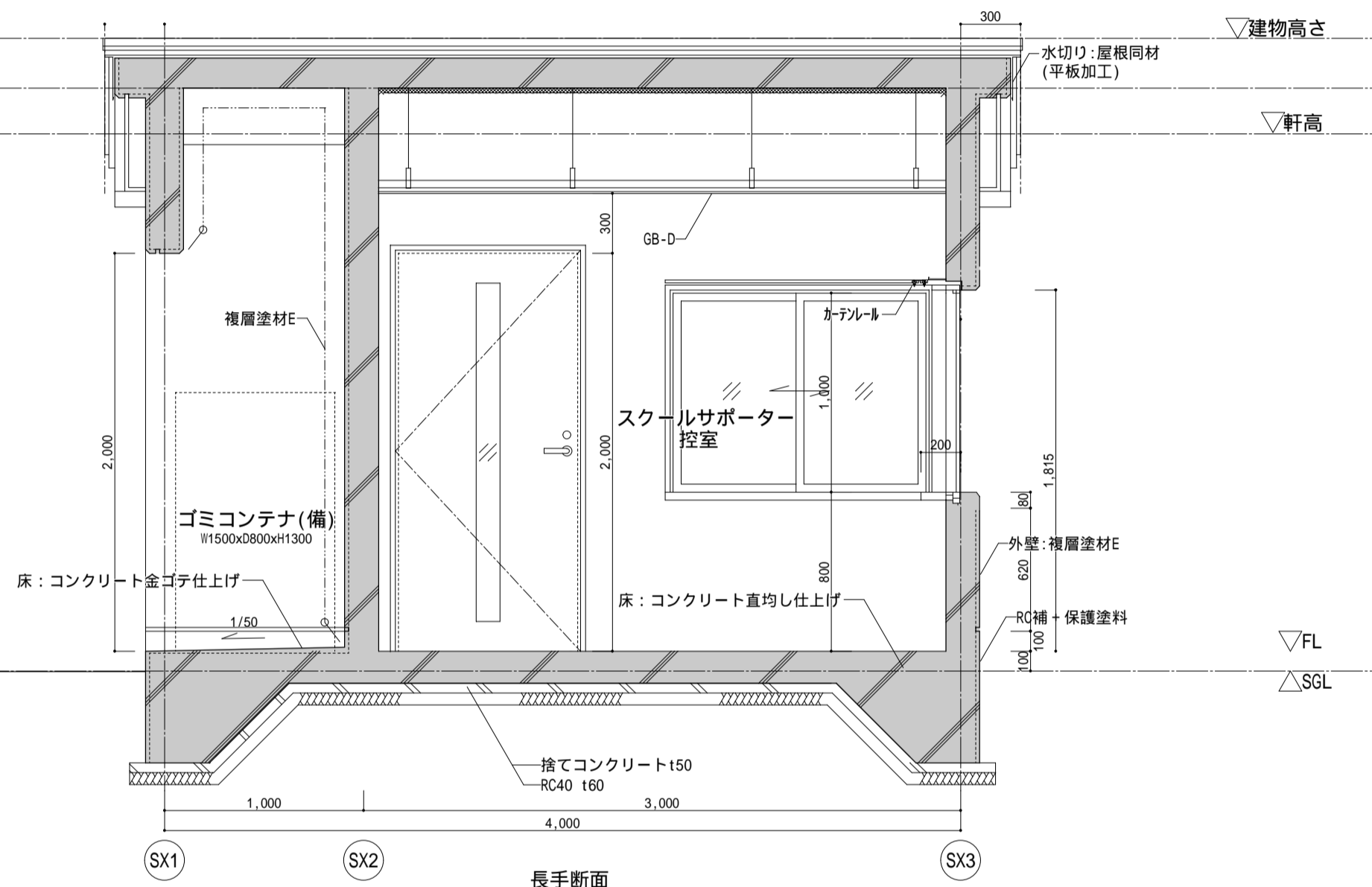


立面図 S=1/50(A1)



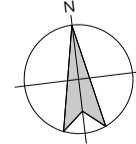
短手断面

断面図 S=1/20(A1)



長手断面

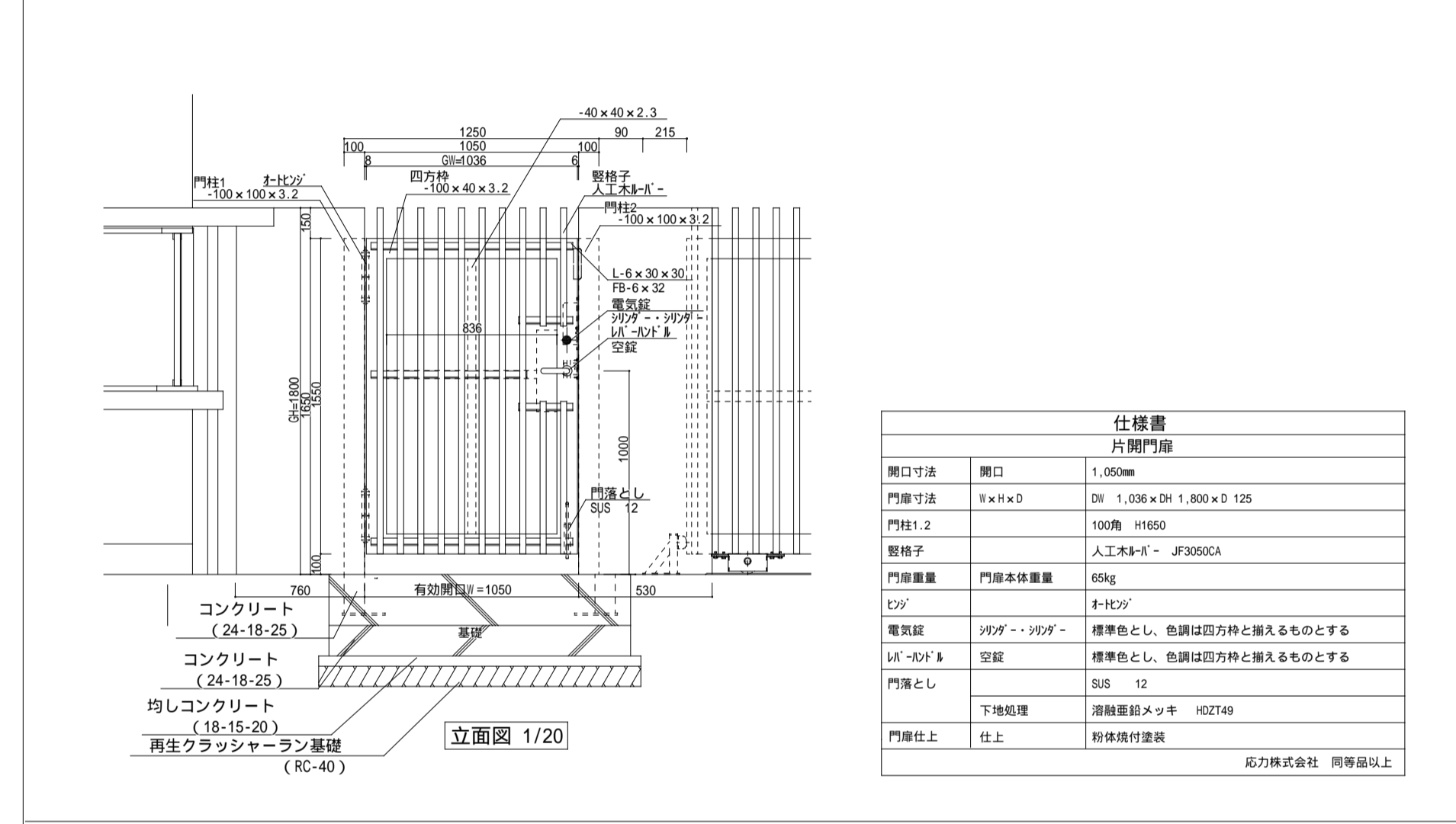
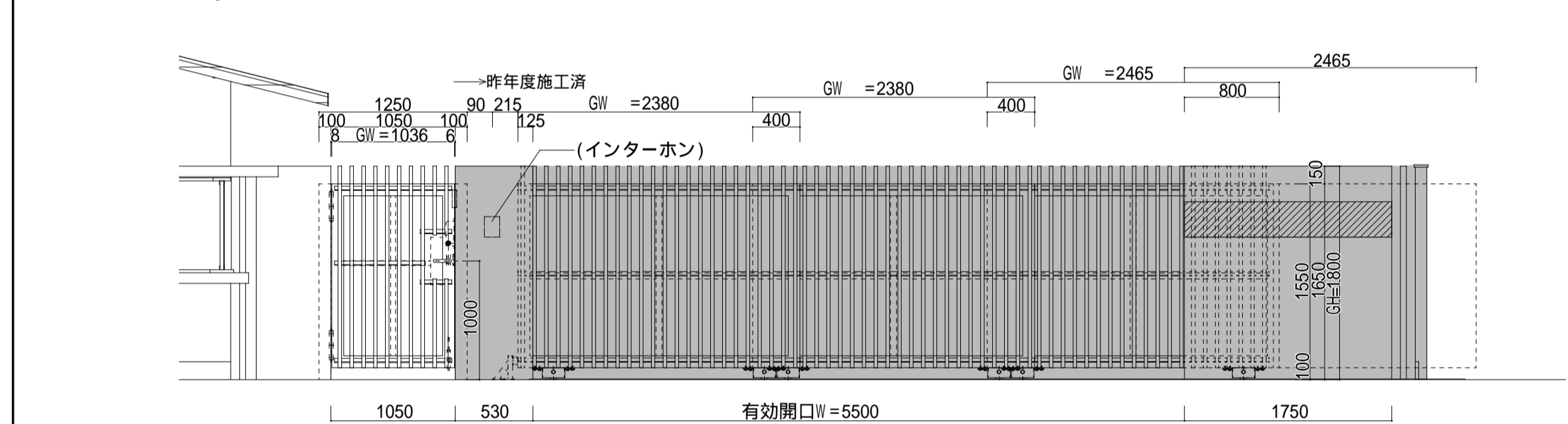
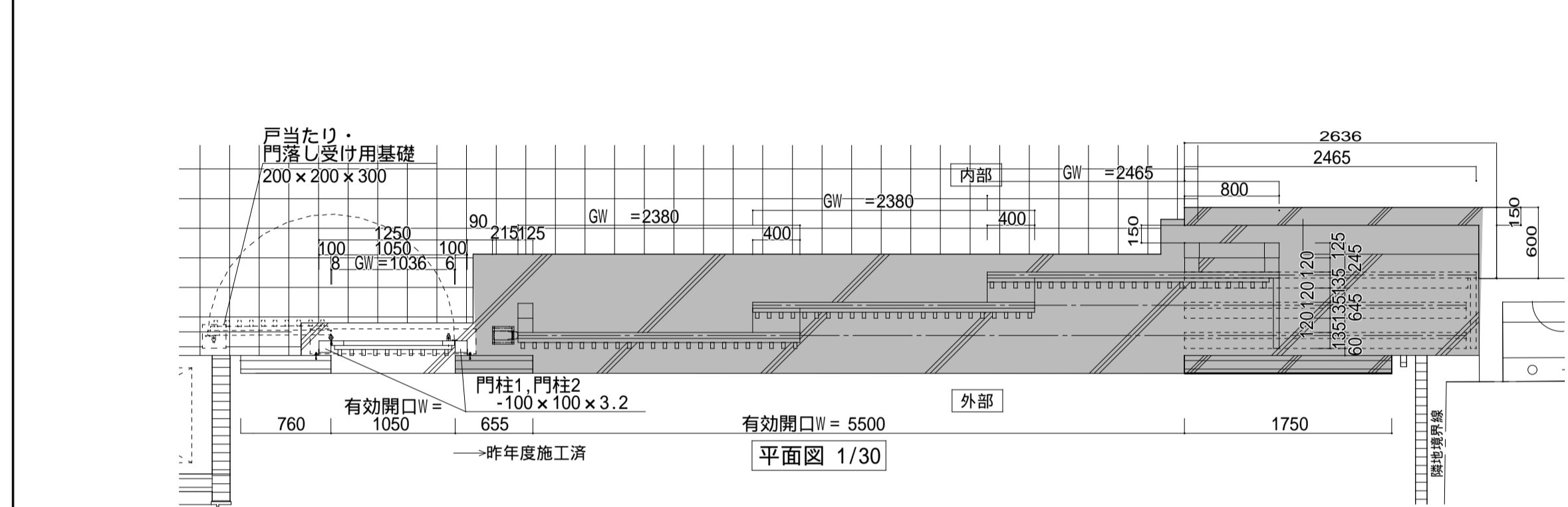
内部仕上表				建具共通事項										
室名	居室	内装制限	FL SL	CH	床	壁	廻縁	天井	備考	【外部建具】				
スクールサポーター控室			±0 -10	2,300	コンクリート直均し仕上げ	モルタル塗	ビニル	LGS GB-D 天井点検口450角	付属品 カーテン(備)	種別	700系建具	種別	鋼製建具	種別
仕上共通事項										種別	AW	種別	鋼製建具	種別
略語	名称	備考								種別	AW	種別	鋼製建具	種別
複層塗材E	複層塗材E									種別	AW	種別	鋼製建具	種別
保護塗料	保護塗料	セメントコンクリート:モルタル+ドPGシタ								種別	AW	種別	鋼製建具	種別
UC塗り	ウレタン樹脂ニス(素地ごしらえ共)	額縁1、額縁2								種別	AW	種別	鋼製建具	種別
建具表 S=1/40(A1)														
符号	① 引違い窓	② F I X窓	③ 片開き扉											
防火設備	網入型板ガラス6.8	網入型板ガラス6.8	型板ガラス6											
姿図														
ガラス	種別	建具表による	ガラス	種別										



共通仕様	GS-6	現場打ち側溝-6	1/10	MB	メールボックス	1/10	MAs-1	アスファルト舗装-1	1/10	YB/TB	誘導ブロック/点字ブロック	1/10	CF	コンクリート縁石	1/10
特記事項 ・グレーチングは特記なき限り、細目・滑り止め仕様とする。 ・コンクリート強度:Fc=18-15-25															
	特記仕様			特記仕様			特記仕様			特記仕様			特記仕様		

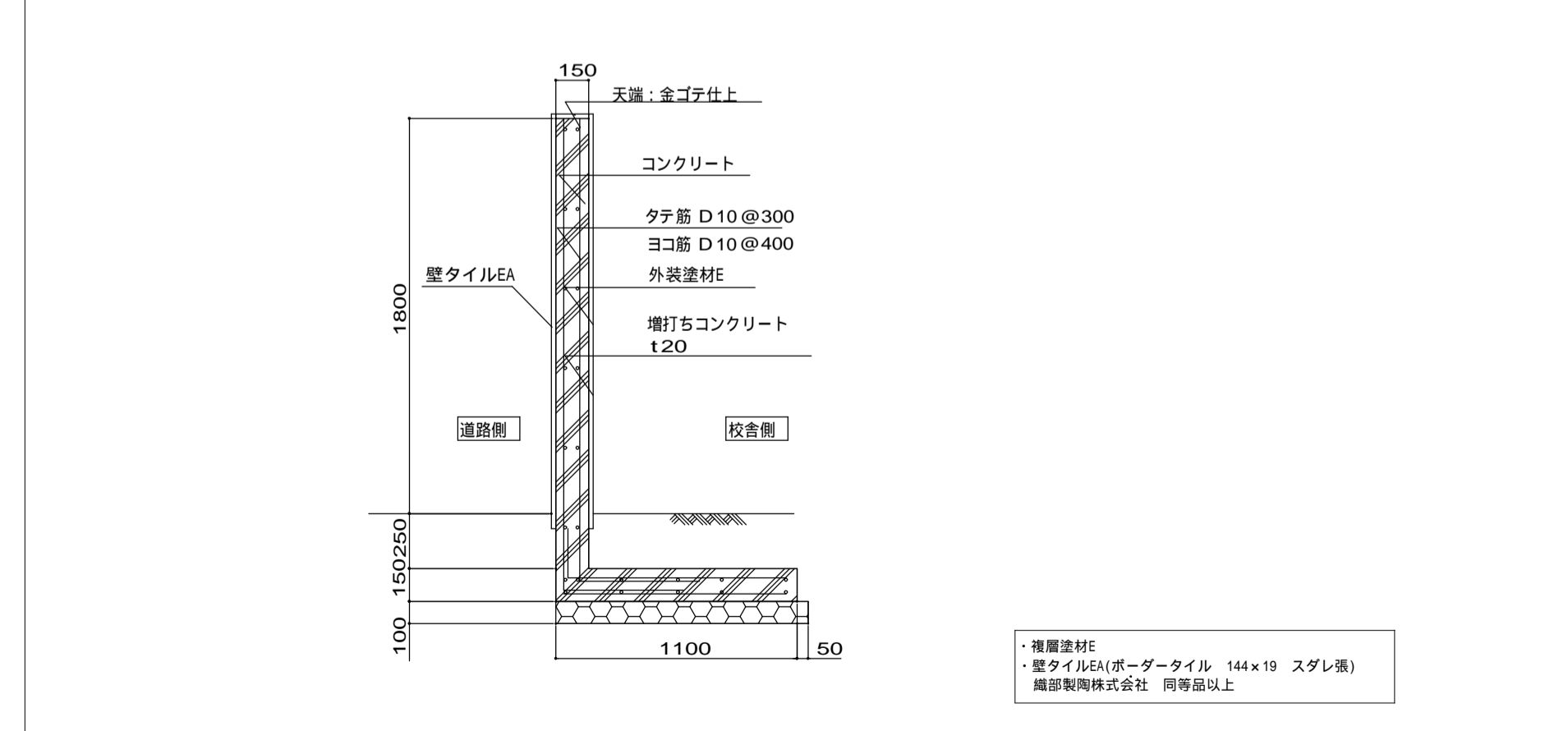
GD-2 門扉-2

門扉-2 子扉



仕様書		
片開門扉		
開口寸法	開口	1,050mm
門扉寸法	W×H×D	DW 1,036×DH 1,800×D 125
門柱1,2		100角 H1650
堅格子		人工木H-I' JF3050CA
門扉重量	門扉本体重量	65kg
ヒンジ		オヒンジ
電気錠	シリンダ - シリンダ	標準色とし、色調は四方枠と揃えるものとする
レール	空錠	標準色とし、色調は四方枠と揃えるものとする
門落とし	SUS	12
門扉仕上	下地処理	溶融亜鉛メッキ HDZT49
	仕上	粉体焼付塗装
応力株式会社 同等品以上		

東門門柱 断面図



§1 一般事項

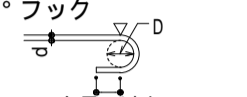
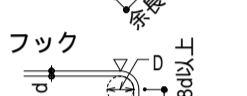
1. 本標準図は、日本建設業連合会、日本建築構造技術者協会（JSCA）の標準図を参考に作成している。
2. 構造図に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
3. この図以外に「工標仕」各部配筋参考図及び「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説（日本建築学会）」の各最新版を参照とする。
4. 記号 d：丸鋼は径、異形鉄筋は呼び径 D：部材の成 R：直径

§2 鉄筋加工共通事項

2-1 折曲げ形状・寸法

1. 鉄筋の折曲げ加工は常温加工とする。
2. 折曲げ内法直径を表2-1の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の折曲げ試験を実施するかメーカー発行の性能試験証明書を確認した上で、監理者の承認を得ること。
3. SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。

表2-1 折曲げ形状・寸法

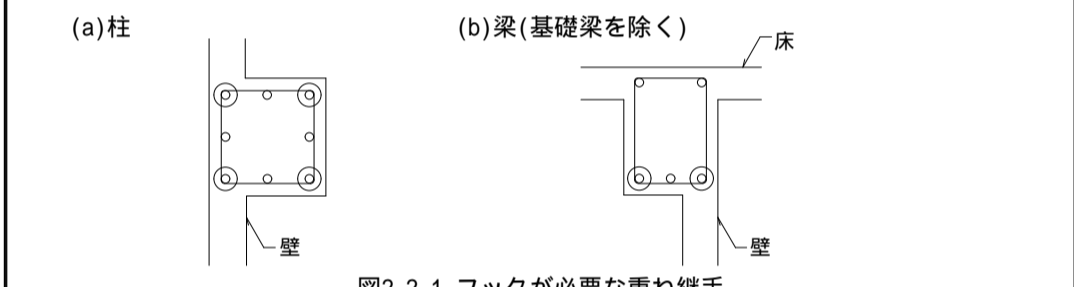
折曲げ形状	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°フック 	180°	SD295A SD295B	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
135°フック 	135° 90°	SD345	D41以下	5d以上
			D25以下	5d以上
90°フック 	90°	SD490	D29～D41	6d以上
			D25以下	5d以上

▽は折り曲げ開始点を示す。  
この開始点位置は、以下の図面において共通とする。

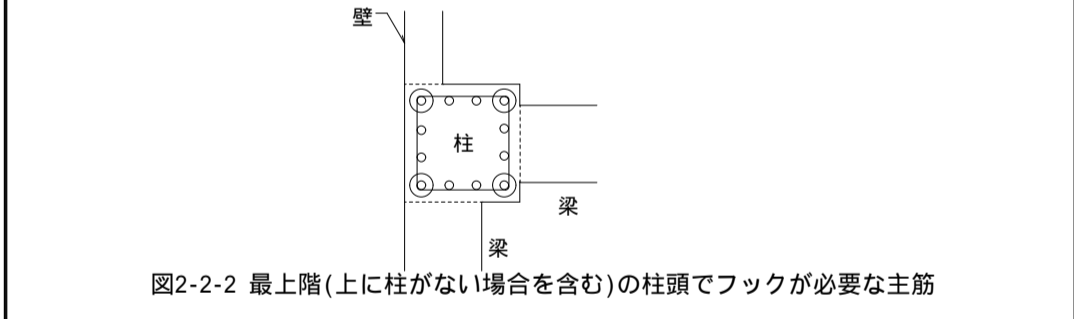
(注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは、135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。  
2. 90°未満の折曲げ内法直径は構造図による。構造図に記載のない場合は、表2-1の90°フックと同じとする。

2-2 鉄筋のフック

1. 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。(図中◎印)
- (1) 柱の四隅または梁の出隅および下端筋の両側にある主筋を重ね継手とする場合(フックの形状は180°フックとする)



(2) 柱の四隅にある主筋で最上階(中間階で上に柱のない場合を含む)の柱頭部(フックの形状は180°フックとする)

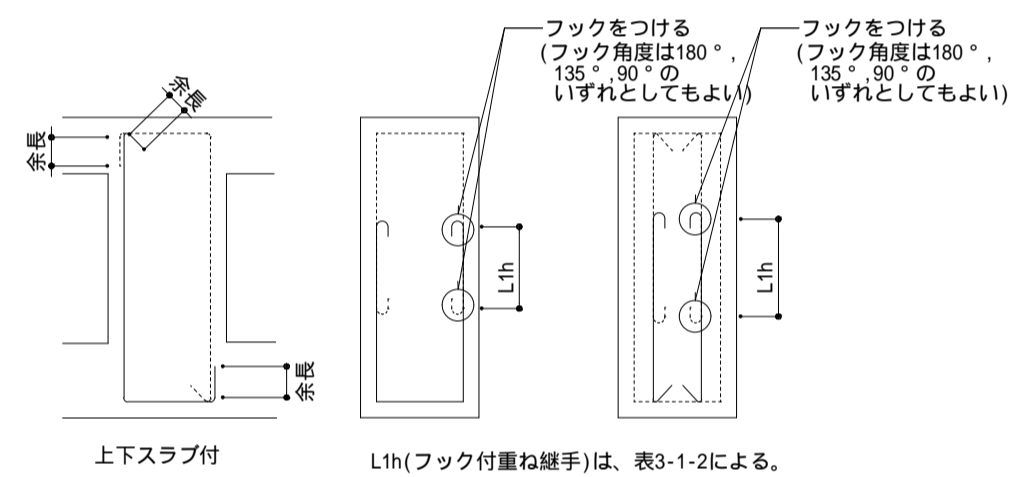
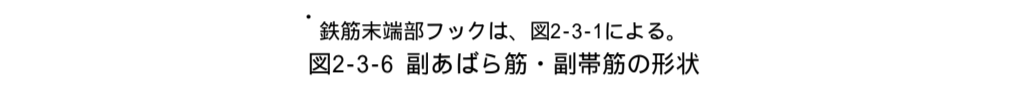
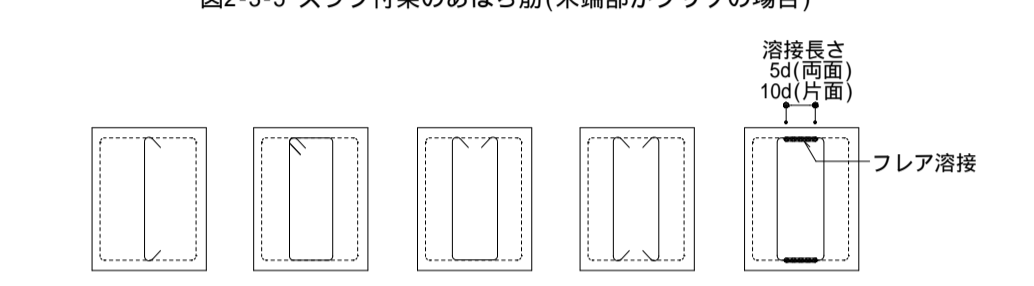
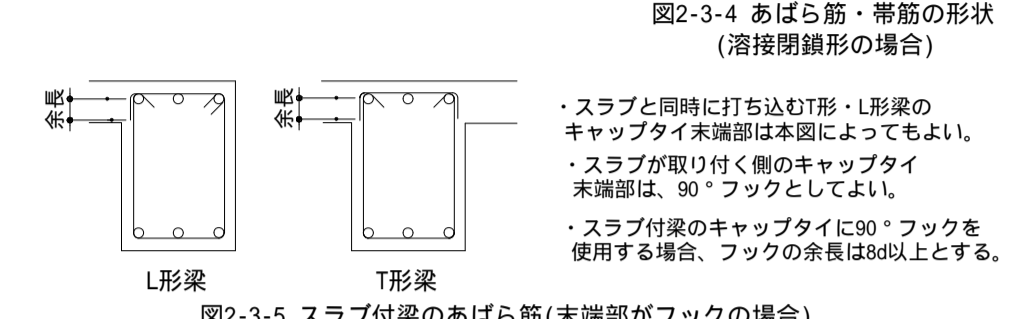
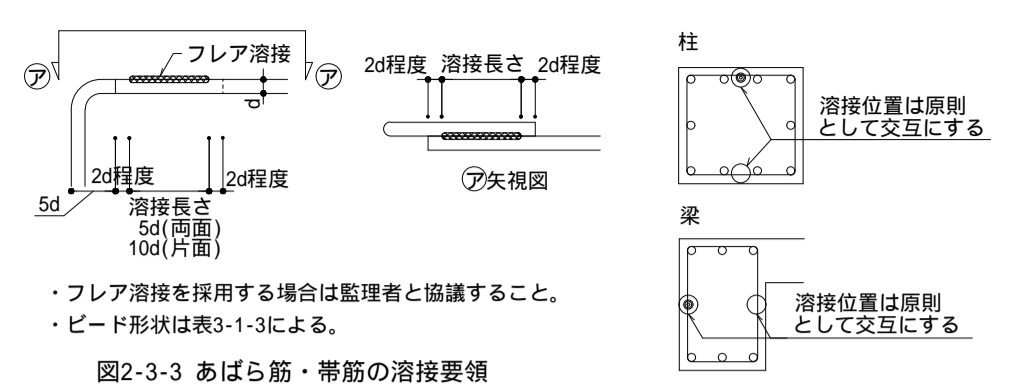
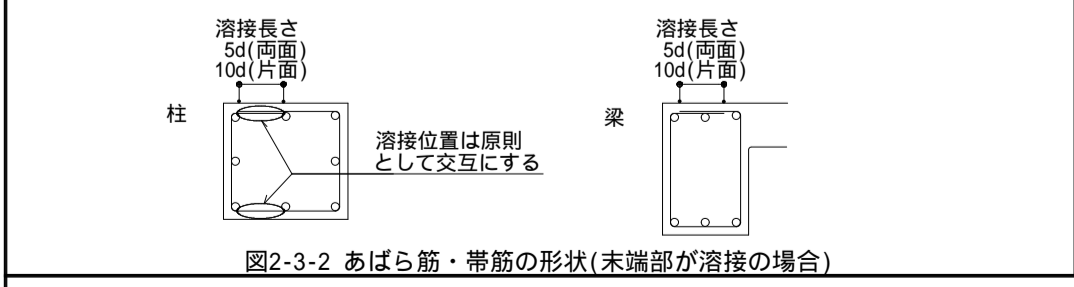
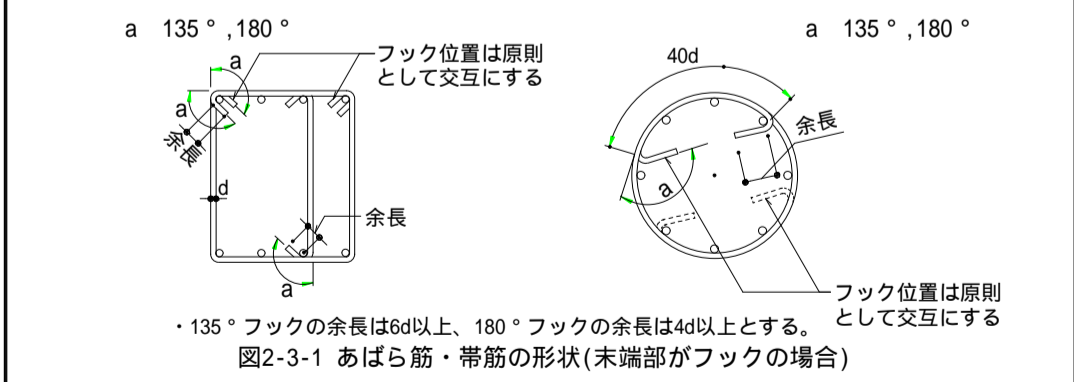


(3) 煙突の鉄筋(フックの形状は180°フックとする)

(4) 杭基礎のベース筋  
単杭の場合は、監理者と協議すること。

2-3 あばら筋および帯筋形状・寸法

1. あばら筋および帯筋のスパイラル筋形状・寸法は、図3-3-4による。

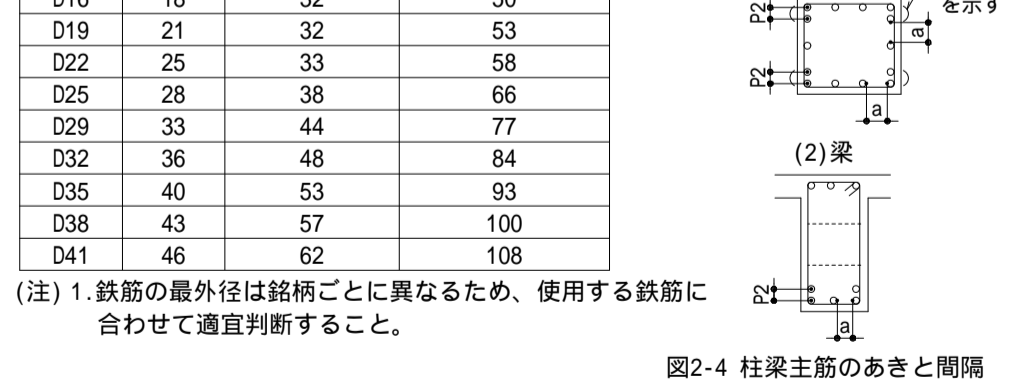
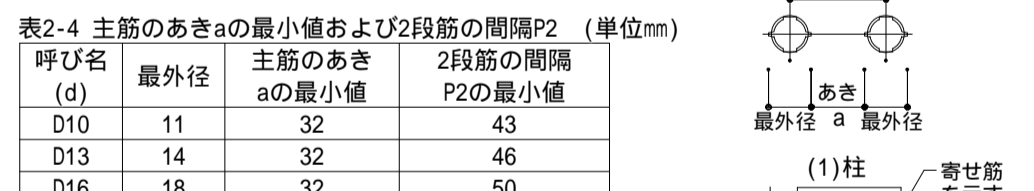


2-4 主筋のあき・2段筋の間隔

1. 主筋相互のあきaは粗骨材最大寸法の1.25倍以上、隣り合う鉄筋呼び径の平均値の1.5倍以上とする。
2. 粗骨材の最大寸法を25mmとして算出した数値を表2-4に示す。
3. 粗骨材の最大寸法が25mm以外の場合のあき寸法、2段筋の間隔の最小値は、監理者に確認すること。
4. 2段筋の間隔P2は構造図による。構造図に記載がない場合は表2-4による。
5. 2段筋の間隔P2の最大値については、監理者に確認すること。

表2-4 主筋のあきaの最小値および2段筋の間隔P2 (単位mm)

呼び名(d)	最外径	主筋のあきaの最小値	2段筋の間隔P2の最小値
D10	11	32	43
D13	14	32	46
D16	18	32	50
D19	21	32	53
D22	25	33	58
D25	28	38	66
D29	33	44	77
D32	36	48	84
D35	40	53	93
D38	43	57	100
D41	46	62	108



2-5 2段筋位置保持金物の形状および配置

2段筋がある場合は、原則として2段筋位置保持金物を図2-5-1にならいつけり付けること。

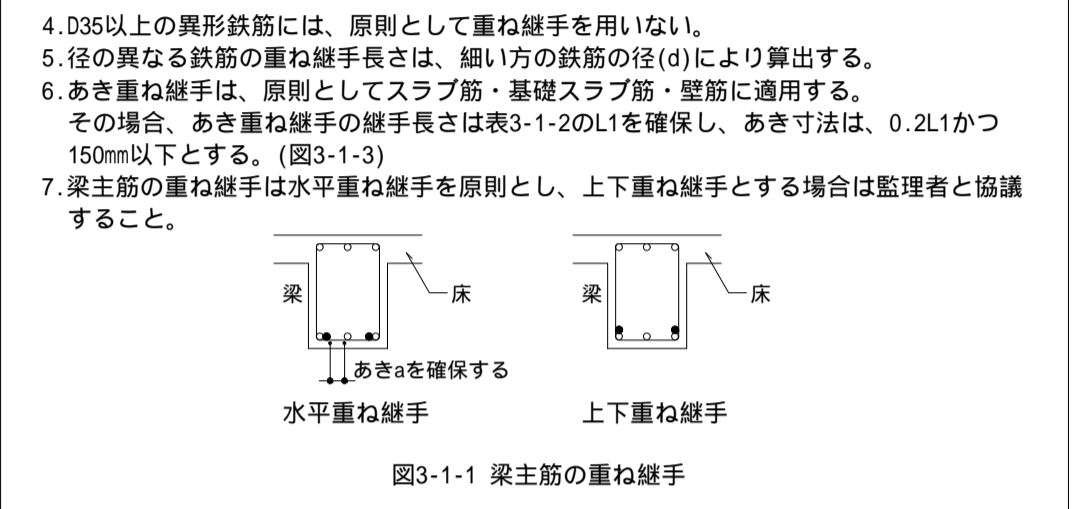
§3 継手および定着

3-1 継手

1. 対象とする継手は重ね継手・ガス圧継手・フレア溶接継手とし、その他(機械式継手突合せアーク溶接継手など)の仕様は構造図による。
2. 柱梁主筋の異形鉄筋重ね継手長さは構造図による。
3. 耐力壁主筋に直線重ね継手を使用する場合、継手長さは、表3-1-1による。(表3-1-1の記載例：採用、不採用)

表3-1-1 直線重ね継手長さの指示

指示覧	構造計算方法	直線重ね継手長さ
	構造計算を保有水平耐力計算等で実施したため、建築基準法施行令第73条の適用を除外する。	表3-1-2による。
	上記以外	表3-1-2かつ40d以上(軽量コンクリートを使用する場合は、50d)とする。

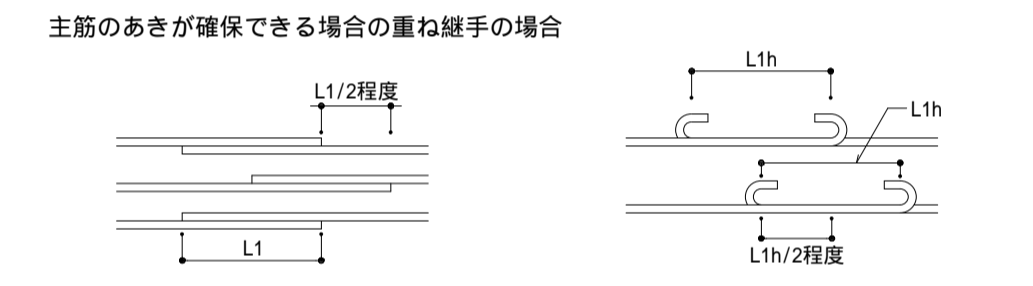
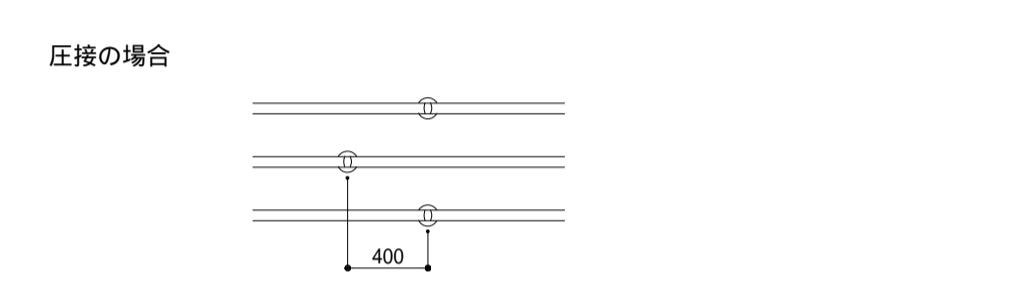
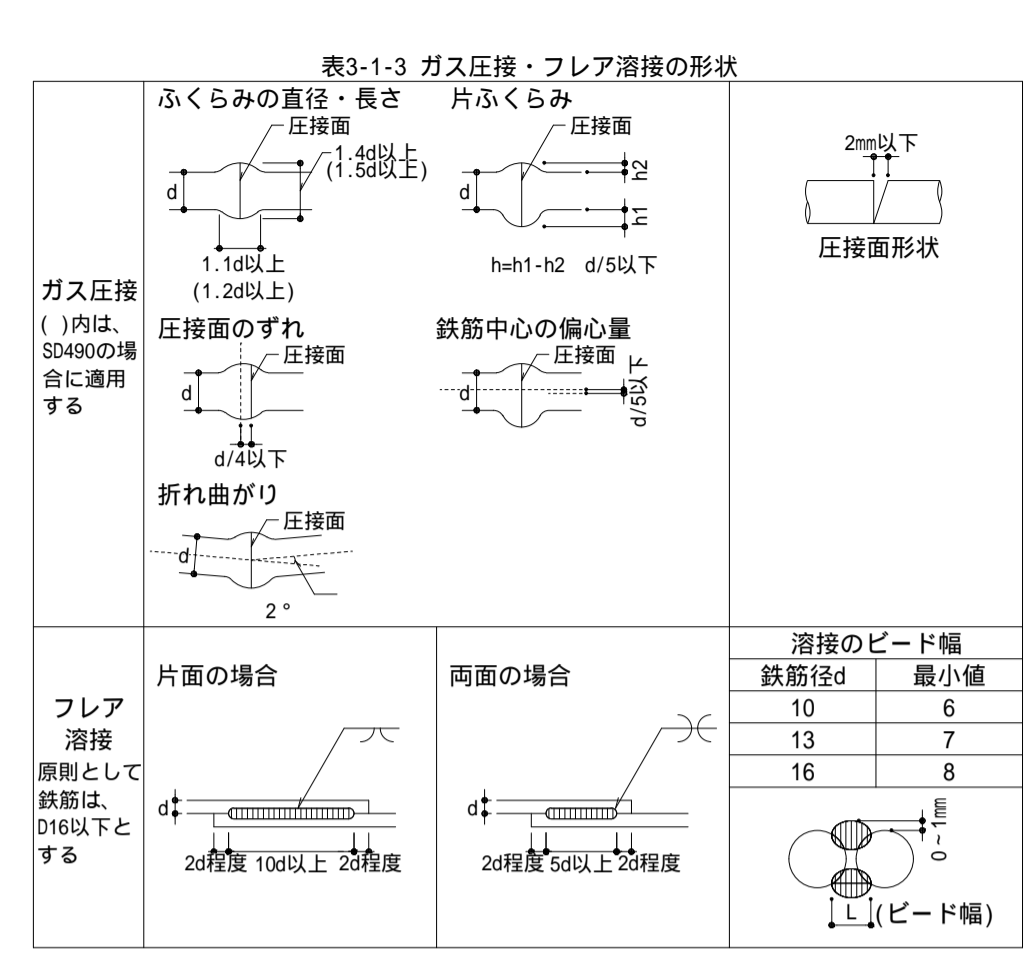


8. ガス圧接およびフレア溶接の形状は、表3-1-3による。
9. 径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。径の差は原則として、7mm以下とする。
10. 鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋の径はD16までとする。
11. フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表3-1-4による。
12. 隣り合う継手の位置は、図3-1-2による。ただし、スラブ筋(基礎スラブ筋を含む)でD16以下の場合および壁筋の場合は除く。
13. 杭に用いる鉄筋の重ね継手長さは構造図による。

表3-1-2 鉄筋の重ね継手長さ L1, L1h

重ね継手長さ L1: フックなし L1h: フック付	鉄筋の種類	Fc(N/mm <sup>2</sup> )					
		18	21	24	30	39	48
直線重ね継手の長さ L1	SD295A	45d	40d	35d	35d	30d	30d
	SD295B	45d	40d	35d	35d	30d	30d
	SD345	50d	45d	40d	35d	35d	30d
	SD390	50d	45d	40d	40d	35d	30d
フック付重ね継手の長さ L1h 180°フックの場合	SD490		55d	50d	45d	40d	40d
	SD295A	35d	30d	25d	25d	20d	20d
	SD295B	35d	30d	25d	25d	20d	20d
	SD345	35d	30d	30d	25d	25d	20d
折曲げ開始点 フックを135°フック、90°フックとする場合のフック形状は表2-1による。	SD390		35d	35d	30d	30d	25d
	SD490		40d	35d	35d	30d	30d
	<90°フックのみ>		40d	35d	35d	30d	30d

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。  
2. 継手位置は、各標準図に示す継手の好ましい位置に設けること。



3-2 定着

1. 異形鉄筋の定着長さは、表3-2-1の鉄筋の定着長さによる。  
ただし、小梁・スラブの下端筋の定着長さは、表3-2-2による。
2. 梁主筋の柱への定着は、原則として折曲げ定着とする。
3. 梁主筋の柱内定着において、定着の投影長さは原則柱せい1の3/4以上とする。
4. 柱梁仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを、表3-2-3に示す長さLa以上とする。
5. 大梁内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない小梁及びスラブの場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影長さを、表3-2-3に示す長さLbかつ、原則として、定着される梁幅の1/2倍)以上とする。

表3-2-1 鉄筋の定着長さ L2, L2h

定着長さ L2: 直線定着 L2h: フック付定着	鉄筋の種類	Fc(N/mm <sup>2</sup> )					
		18	21	24	30	39	48
直線定着長さ L2 	SD295A	40d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD295B						
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d
	SD390	40d	40d	35d	35d	30d	
SD490			45d	40d	40d	35d	
フック付定着長さ L2h 90°フックの場合 折曲げ開始点	SD295A	30d	25d	20d	20d	15d	15d
	SD295B						
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d
	SD390	30d	30d	25d	25d	20d	
SD490							
フックを135°フック、180°フックとする場合のフック形状は表2-1による。	<90°フックのみ>		35d	30d	30d	25d	

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。

表3-2-2 小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3, L3h

下端筋定着長さ L3: 直線定着 L3h: フック付定着	鉄筋の種類	部位	Fc(N/mm <sup>2</sup> )	
			18	60
直線定着長さ L3 	SD295A	小梁	20d	10dかつ 150mm
	SD295B			
	SD345			
	SD390			
SD490		スラブ	10dかつ <25d>	<25d>
フック付定着長さ L3h 	SD295A	10d	10d	10d
	SD295B			
	SD345			
	SD390			
SD490				

1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 「-」は適用範囲外を示す。
3. 「<>」は片持ち部材の場合を示す。

表3-2-3 折曲げ定着長さ La, Lb

折曲げ定着長さ	鉄筋の種類	Fc(N/mm <sup>2</sup> )					
		18	21	24	30	39	48
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La 	SD295A	20d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD295B						
	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d
	SD390	20d	20d	20d	15d	15d	15d
SD490			25d	25d	20d	20d	
小梁及びスラブの上端筋の 梁内折曲げ定着の投影長さ Lb 	SD295A	15d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD295B						
	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD390	20d	20d	15d	15d	15d	15d
SD490							

1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)

3-3 その他の継手および定着

1. 溶接金網の重ね継手は、図3-3-1による。構造図に記載のない場合は、応力伝達用とする。  
溶接金網の合わせ面は、図3-3-2タイプA、タイプBいずれとしてもよい。
2. 溶接金網の定着は、図3-3-3による。
3. 帯筋にスパイラル筋を用いる場合の定着・継手要領は、図3-3-4による。
4. 鉄筋格子については、3-1 継手、3-2 定着による。

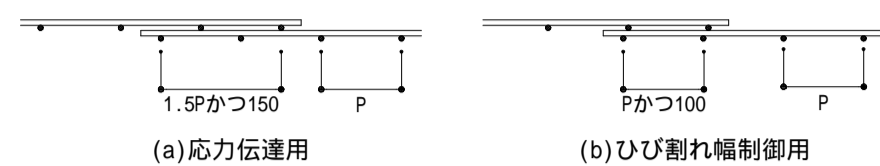


図3-3-1 溶接金網の重ね継手

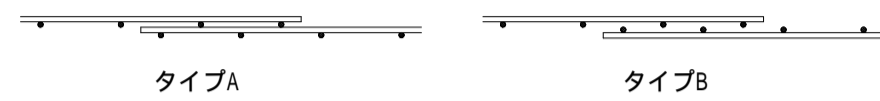


図3-3-2 溶接金網の重ね継手の合わせ面

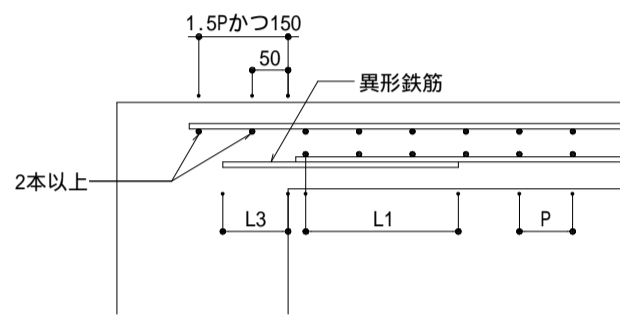
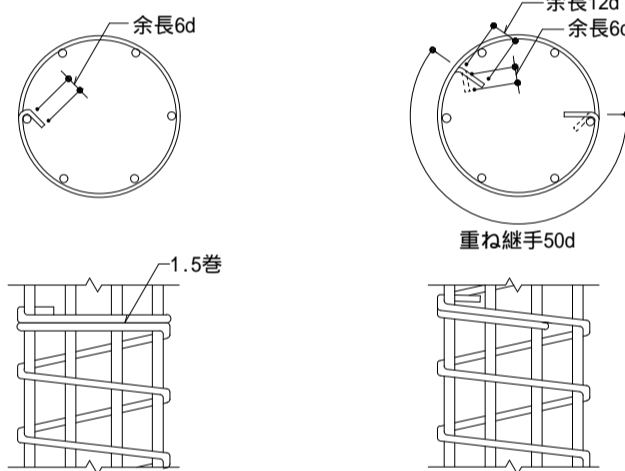


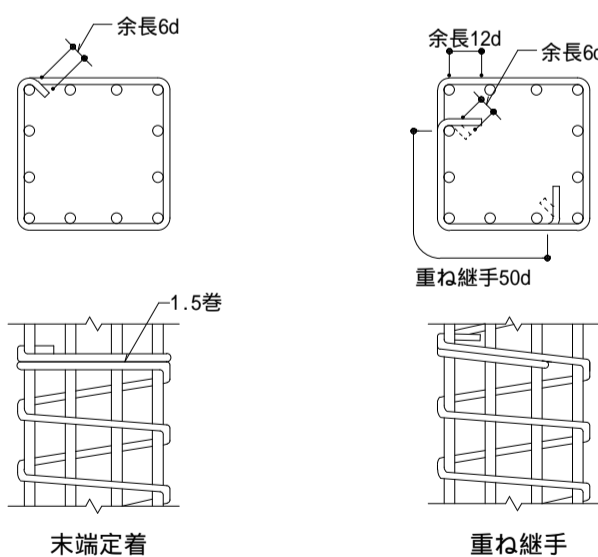
図3-3-3 溶接金網の定着

- 135°折曲げ  
余長6d
- 90°折曲げ余長12d  
または135°折曲げ余長6d



(a) 円形スパイラル筋

- 135°折曲げ  
余長6d
- 90°折曲げ余長12d  
または135°折曲げ余長6d



(b) 角形スパイラル筋

図3-3-4 スパイラル筋の末端定着・重ね継手要領

§4 かぶり厚さ

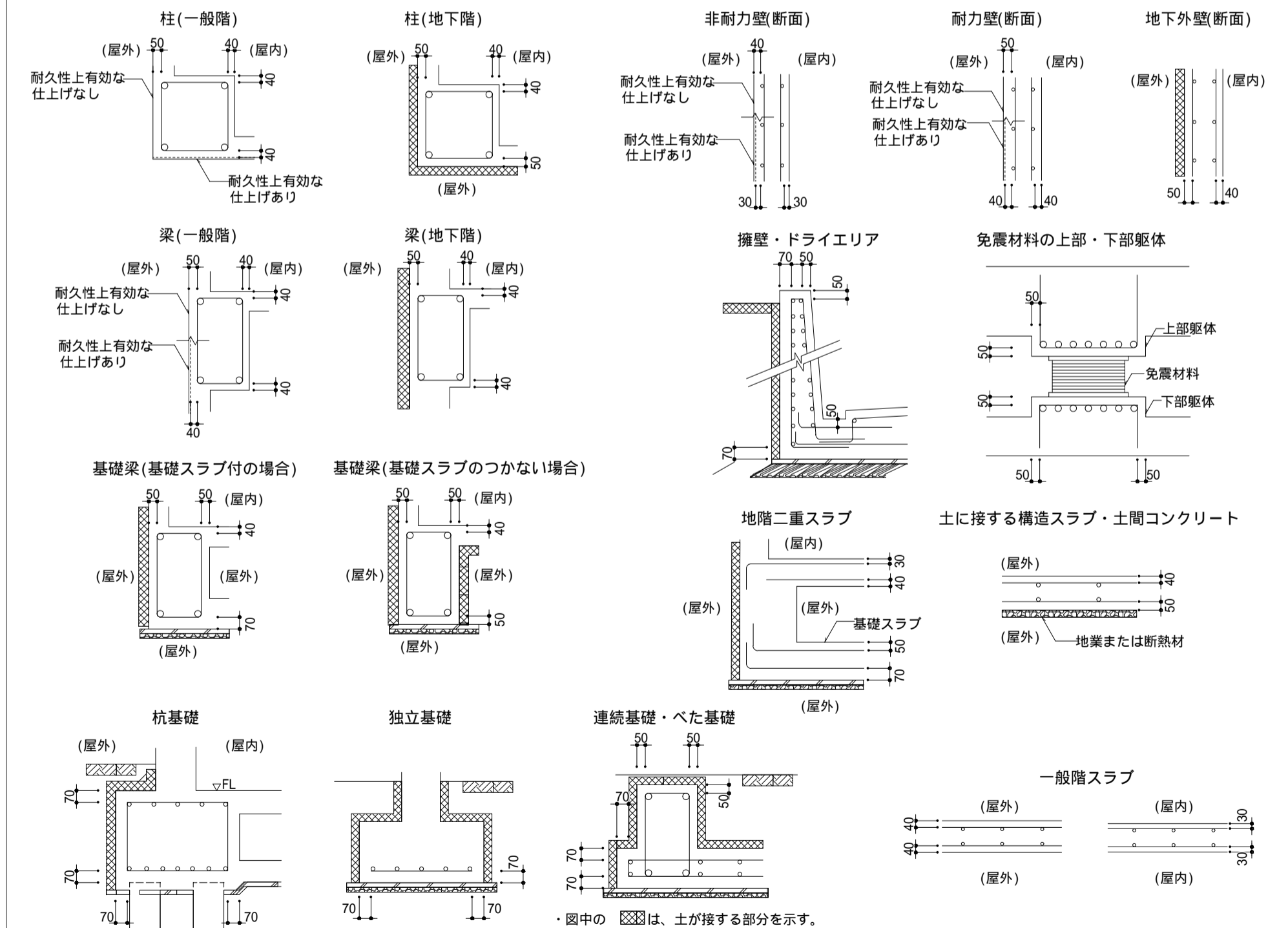
1. 鉄筋のかぶり厚さは下表による。
2. 柱・梁かぶり厚さは下表を満足し、かつ主筋に対する最小かぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上とする。D29以上の鉄筋を使用する場合は、最小かぶり厚さが下表より大きくなる部位があるため、注意すること。
3. 配筋は構造体寸法(打増しを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置にて行う。
4. 耐久性上有効な仕上げがある場合、表4-1の 1の値を10mm減じてよい。  
<耐久性上有効な仕上げの例>  
・タイル張り  
・モルタル塗り(10mm以上)  
・打増し(10mm以上)
5. ひび割れ誘発目地・打継ぎ目地・化粧目地等がある場合は、目地底からのかぶり厚さを確保する。
6. 柱・梁で打継ぎ目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さ分を打増しとする。この打増しは上記4.により、耐久性上有効な仕上げと考えることができる。
7. 土に接する部位には、打増しを20mm設け、設計かぶり厚さを、打増しを含めて確保する。
8. 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。
9. 軽量コンクリートを用いる場合は表4-1の 2の値に10mmを加えた値とする。

表4-1 鉄筋のかぶり厚さ (単位mm)

部位	設計かぶり厚さ	3	最小かぶり厚さ	4	分類記号
土に接しない部分	スラブ	屋内	30	20	a
		屋外	40	30	b
	柱・梁	屋内	40	30	c
		屋外	50	40	d
	耐力壁	屋内	30	20	e
		屋外	40	30	f
土に接する部分	煙突内面	60	50	g	
	擁壁・基礎スラブ	50	40	h	
	柱・梁・壁・スラブ 連続基礎の立上り部分	50	40	i	
	基礎スラブ・擁壁	70	60	2	j
基礎	70	60	2	k	

3 設計かぶり厚さ...施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で配慮したかぶり厚さを示す。

4 最小かぶり厚さ...建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さを示す。



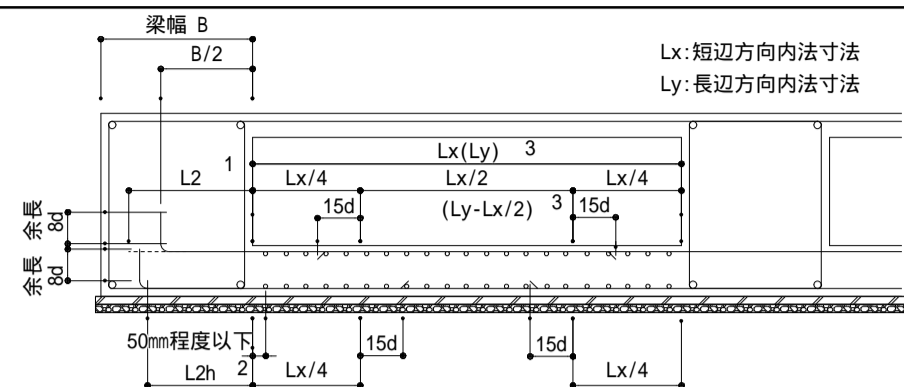
5: ピット内を屋内とする場合は監理者と協議のこと。

注) 基礎下端筋のかぶり厚さは杭先端からの寸法を示す。

§5 基礎・杭

5-4 基礎スラブの定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

【適用範囲】スクールサポーター棟

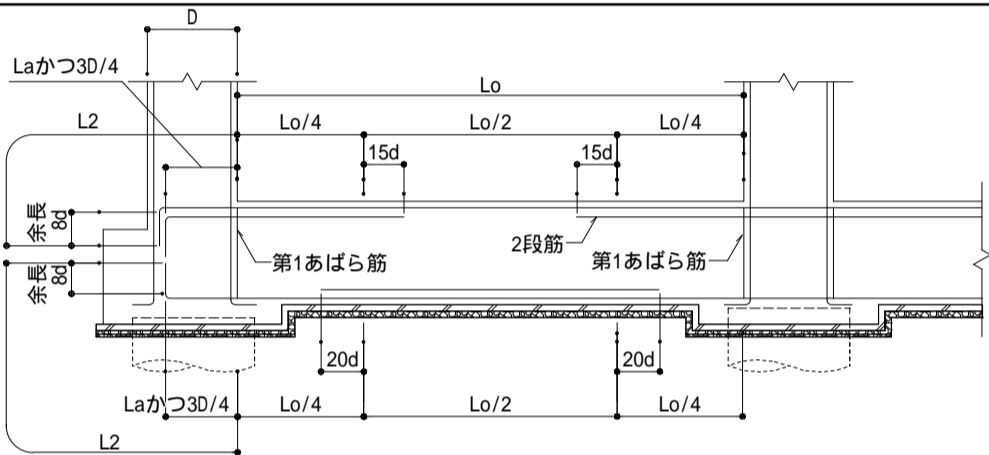


- 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。ただし、投影定着長さ(水平のみみ長さ)をB/2以上確保する。
- 下端筋の定着は、フック付定着(L2h)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみみ長さ)をB/2以上確保する。
- ( )内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(a)定着およびカットオフ筋長さ(タイプA1)

§6 基礎梁

【適用範囲】スクールサポーター棟

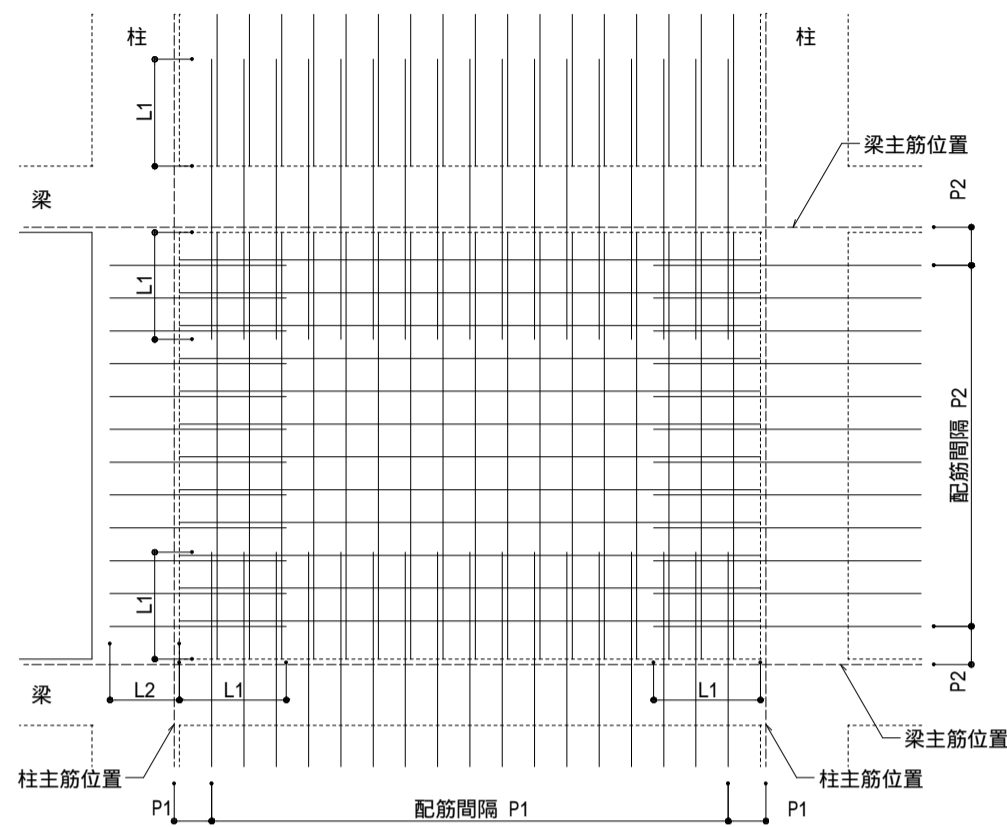


(a)定着およびカットオフ筋長さ(タイプB1)

§7 壁

7-1 壁と柱・梁とのおさまり

- 壁筋の継手は、壁内とし、柱・梁内に設けない。
- 壁筋の柱・梁内の定着方法は、図11-1-2、図11-1-3、図11-1-4による。
- 壁の第1横筋と縦筋は、柱面・梁面から100mm以下かつ柱主筋・梁主筋から設計間隔以内に配置する。



- 図中のP1, P2は、壁筋の間隔を示す。
- 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする。
- 幅止め筋は、縦横ともD10-@1000程度とする。

図11-1-1 定着と継手

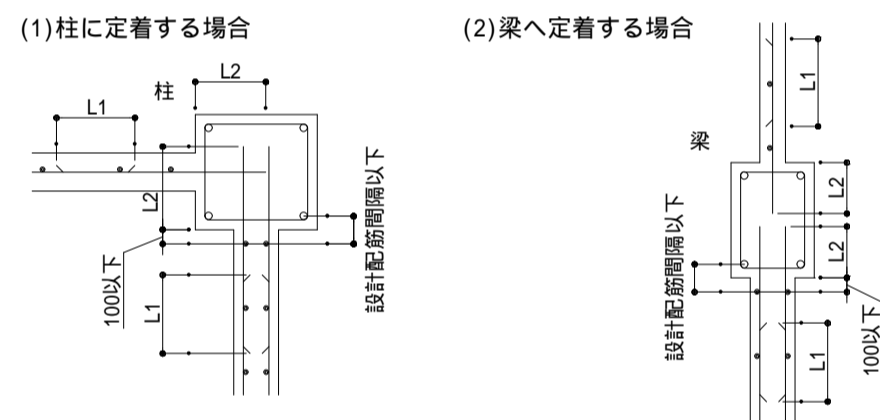


図11-1-2 帯筋、あばら筋内に配置する壁筋の定着方法

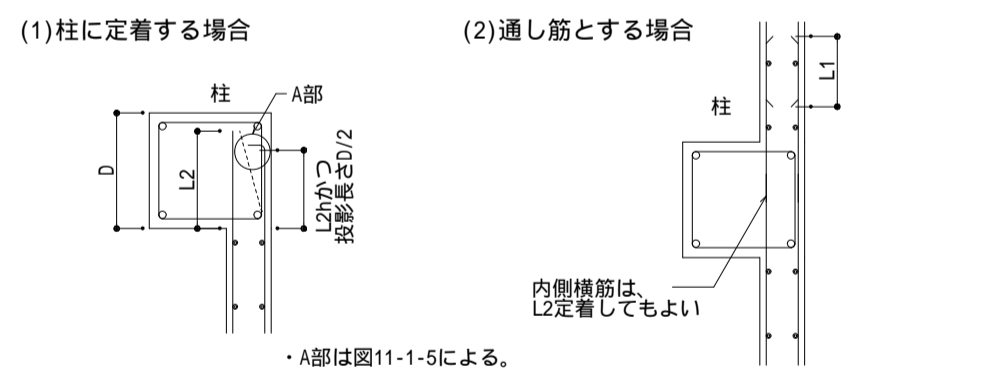


図11-1-3 柱主筋の外側を通る壁横筋の柱への定着方法

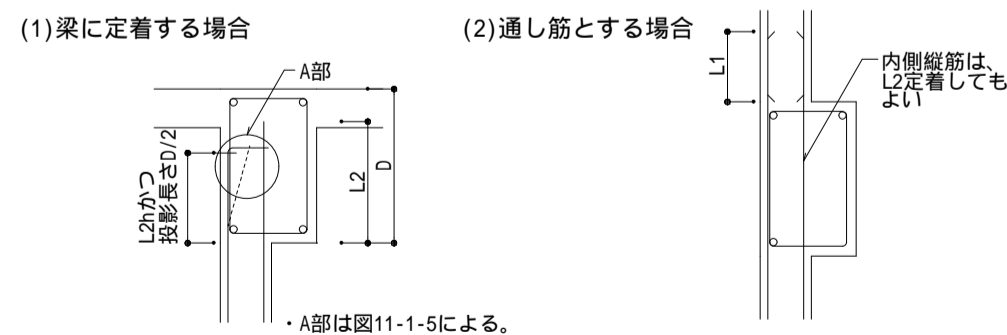
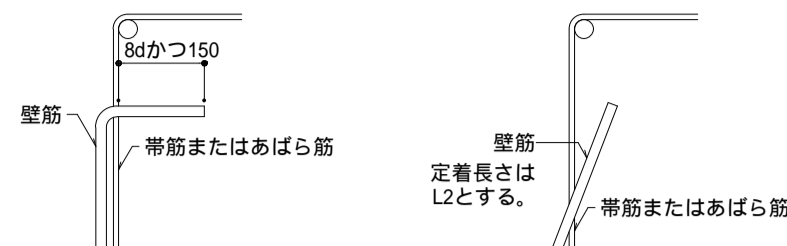


図11-1-4 梁主筋の外側を通る壁縦筋の梁への定着方法

- 先端90°フックとする場合
- 先端を斜めに折り曲げる場合



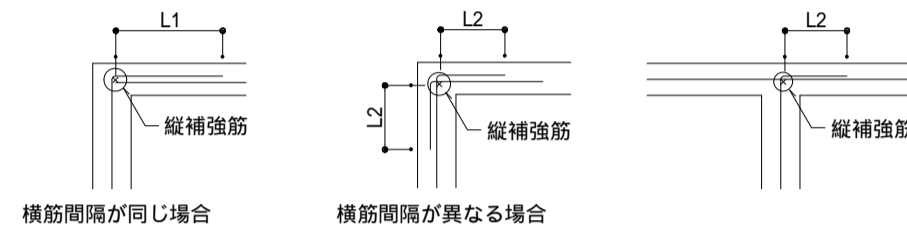
- 壁筋が帯筋・あばら筋から離れた位置となる場合は、90°フックの余長部分を8dかつ150以上、帯筋・あばら筋内に定着する

図11-1-5 A部鉄筋折曲げ形状と寸法

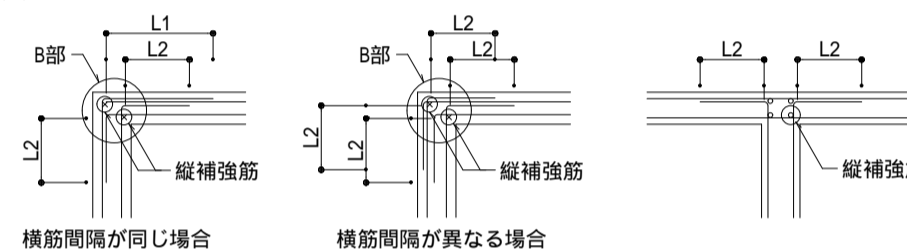
7-2 壁と壁・スラブとのおさまり

- 縦補強筋は、D13以上かつ壁縦筋最大径以上とする。
- 横補強筋は、D13以上かつ壁横筋最大径以上とする。

(1)シングル配筋の場合



(2)ダブル配筋の場合



(3)壁交差部(B部)の縦補強筋配筋要領図

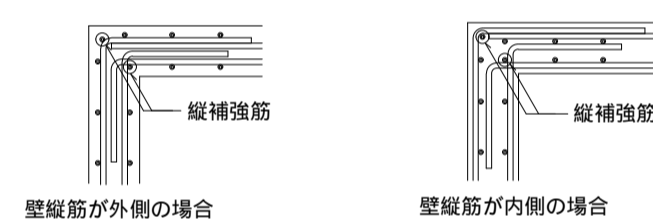
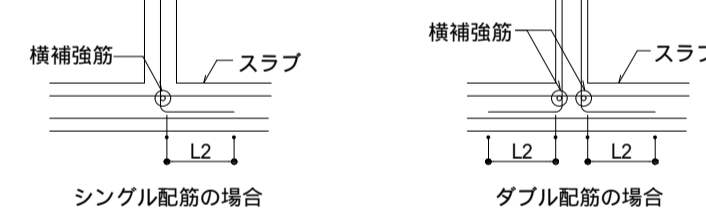


図11-2-1 壁端部と直交壁の接合部おさまり(L形・T形)

(1)壁脚部



(2)壁頂部

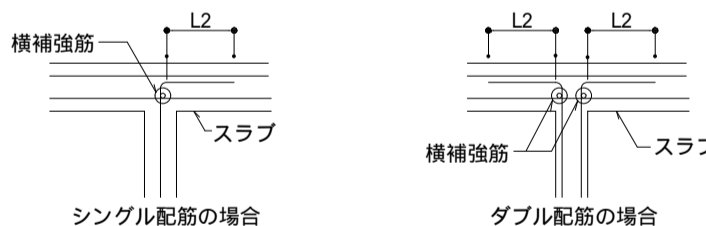


図11-2-2 壁とスラブの接合部おさまり

7-3 壁端部・開口部小口補強

	コ形補強筋が外側の場合	コ形補強筋が内側の場合	壁筋にフックを設けた場合
耐力壁			

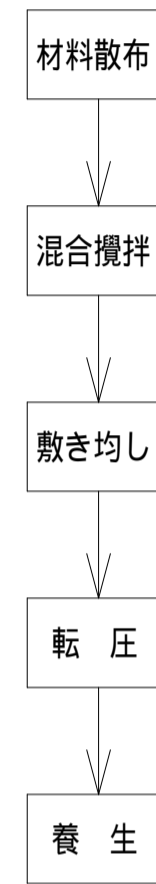
- 耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径・間隔とする。
- L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dとする。
- 壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

図11-3 壁端部・開口部小口補強

# 表層改良工法特記仕様書

## 1 工法概要

本工法は現地盤土とセメント及びセメント系固化材とをバックホウで混合し、所要の強度を有する改良体を造成する工法である。



## 2 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針 2018年11月」( (財)日本建築センター) による。

改良厚さ、土量、位置および固化材の配合等は、土質や地盤状況により変更することがある。

本工事に先立ち、施工計画書を提出し監督員の承認を得るものとする。施工計画書には次の事項を明記する。

- (1) 工事内容 (改良厚さ、土量、位置、設計基準強度等)
- (2) 工程表
- (3) 施工方法 (仕様固化材、配合量等)
- (4) 施工機械
- (5) 施工管理方法
- (6) 品質管理方法
- (7) 安全管理方法
- (8) 請負業者の本工事責任者名
- (9) 本工事施工業者名および施工責任者名

## 3 特記事項

- (1) 改良厚さ、位置等は設計図による。(各1階伏図の特記に示す)
- (2) 改良体の設計基準強度 :  $F_c=150kN/m^2$
  
- (3) 必ず事前に配合試験を行い配合量の妥当性を確認する。

## 4 固化材配合量

- (1) 固化材  
セメント系固化材 (TL-3E型同等以上)
- (2) 推定配合
  - 1) 固化材量 :  $80kg/m^3$   
(上記配合は推定値であり、実施工における配合は、室内配合試験により決定する。)
- (3) 六価クロム溶出試験  
国土交通省 国官技第16号、国営建第1号 (平成13年4月20日) 「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領 (案)」による六価クロム溶出試験を実施し、試験結果を提出するものとする。事前配合試験段階 1検体

## 5 施工機械

- (1) 施工機械本体は、改良厚さに見合った掘削、混合能力を有すること。

## 6 施工

- (1) 施工  
改良対象地盤にマーキングしできあがった升目に改良材を散布する。  
混合した改良土は、状況を見てできるだけ早期に転圧を行う。  
改良土は、転圧完了後所定の強度を得るまで養生する。  
施工に対して疑義が生じた場合は、直ちに監督員と協議し、その指示を受ける。  
施工精度を満足しない場合は、監督員と協議しその指示を受け適切な処置をする。

## 7 施工管理

施工過程における管理方法は次の通りとする。

- (1) 固化材散布量  
マーキングに基づき1tフレコンを所定面積内に均一に散布する。
- (2) 改良厚さ  
混合中に機械を止めて、改良厚さをスタッフ等により測定する。
- (3) 混合程度  
固化材と改良対象土の色むらがなくなるまで混合する。

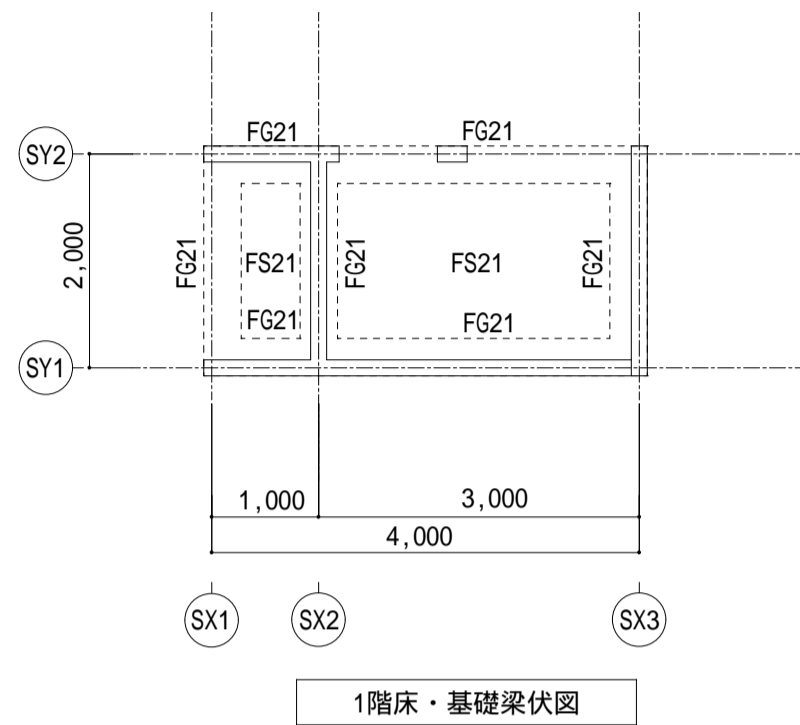
## 8 報告

工事完了後、次の事項について報告書をまとめて 部を監督員に提出する。

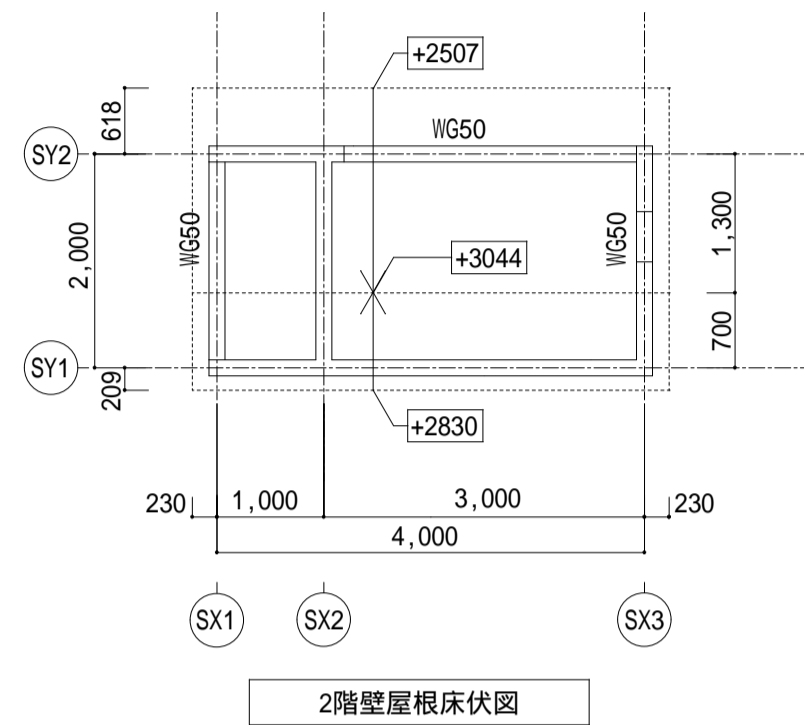
- (1) 施工日報 (改良厚さ、位置、土量、配合量、固化材使用量等)
- (2) 固化材散布量、改良厚さの状況写真
- (3) 管理試験結果

## 9 管理試験

- (1) 一軸圧縮試験
  - 1) 現場採取供試体  
改良土を採取し、寸法 5cm x 10cmの供試体を 3個/箇所作成し、一軸圧縮試験を行う。
  - 2) 材令28日で各箇所の圧縮強度の平均値が設計基準強度を上回ること。



1階床・基礎梁伏図



2階壁屋根床伏図

- 特記なき限り下記とする。
1. SGL=TP.+12.60とする。
  2. 1FL=SGL+100とする。
  3. 通り芯=壁芯とする。地中梁は、壁の外面向せとする。
  4. スラブ天端レベルは、1FL-10とする。
  5. 地中梁天端レベルは1FL-200とする。
  6. 壁はW18とする。
  7. 基礎底版下に浅層混合改良t=500を施す。

- 特記なき限り下記とする。
1. 柱芯=梁芯とする。
  2. □内数値は1FLからのスラブ天端レベルを示す。
  3. ( )内数値は1FLからの梁天端レベルを示す。
  4. 壁はW18とする。
  5. 屋根スラブはS21とする。

梁リスト

符 号	WG50
位 置	全断面
断 面	
B × D	180 × 500
上 端 筋	2-D16
下 端 筋	2-D16
スターラップ	-D10@200
腹 筋	2-D10

壁リスト

特記なき限り下記による  
1. (D)は、ダブル配筋を示す。

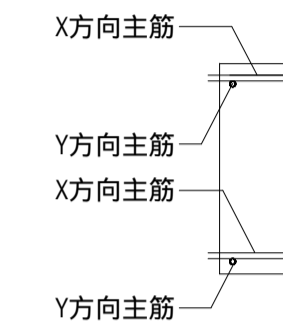
符 号	W18
壁 厚	180
断 面	
縦 筋	D13@200(D)
横 筋	D13@200(D)
開口	縦 -
補強筋	横 -
	斜め -

地中梁リスト

特記なき限り下記による  
1. 巾止筋はD10@1000とする。

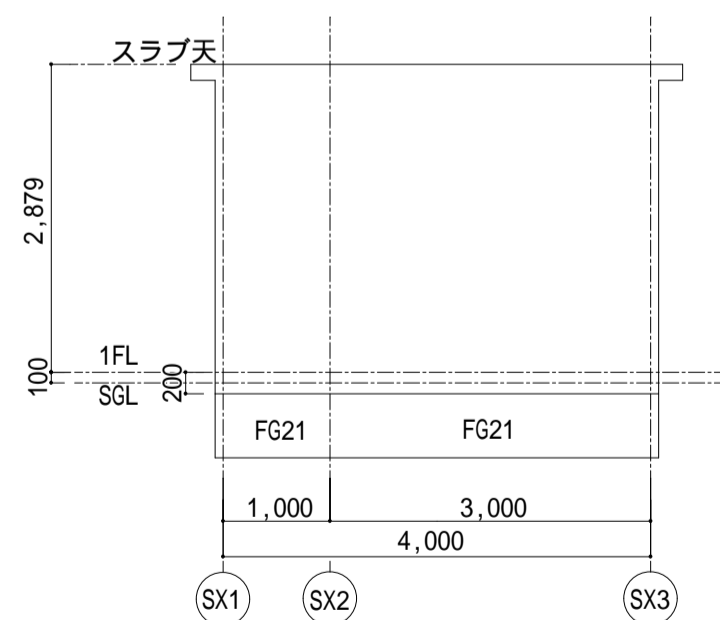
符 号	FG21
位 置	全断面
断 面	
B × D	350 × 600
上 端 筋	3-D22
下 端 筋	3-D22
スターラップ	-D10@200
腹 筋	4-D10

主筋方向要領図

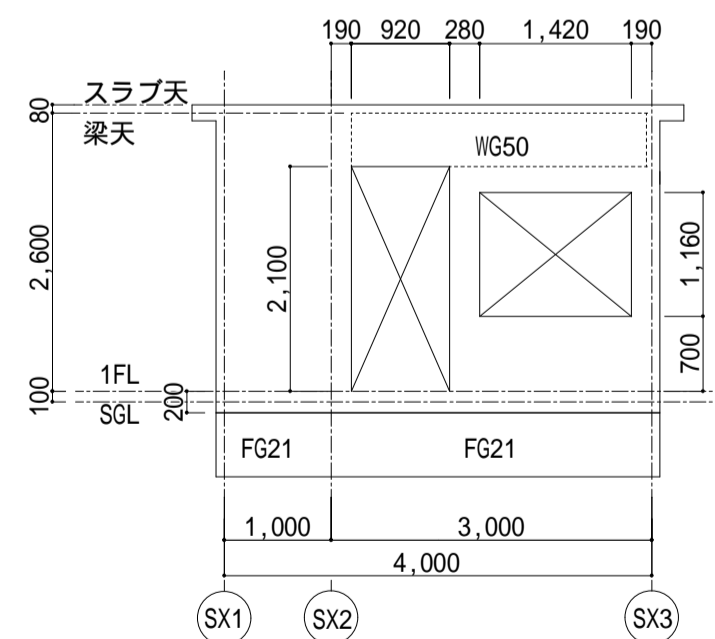


スラブリスト

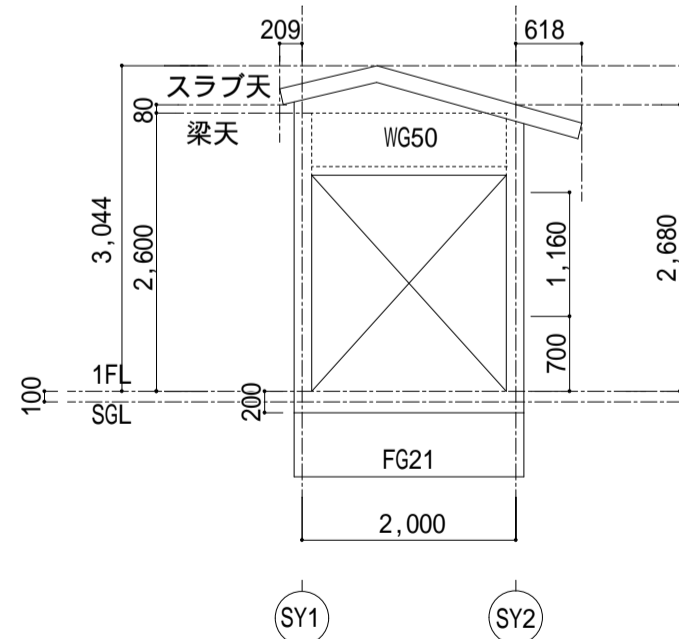
符 号	版 厚	位 置	主 筋 方 向	配 力 筋 方 向
S21	150	上端筋	D13@200	D10@200
		下端筋	D13@200	D10@200
FS21	150	上端筋	D13@100	D13@100
		下端筋	D13@100	D13@100



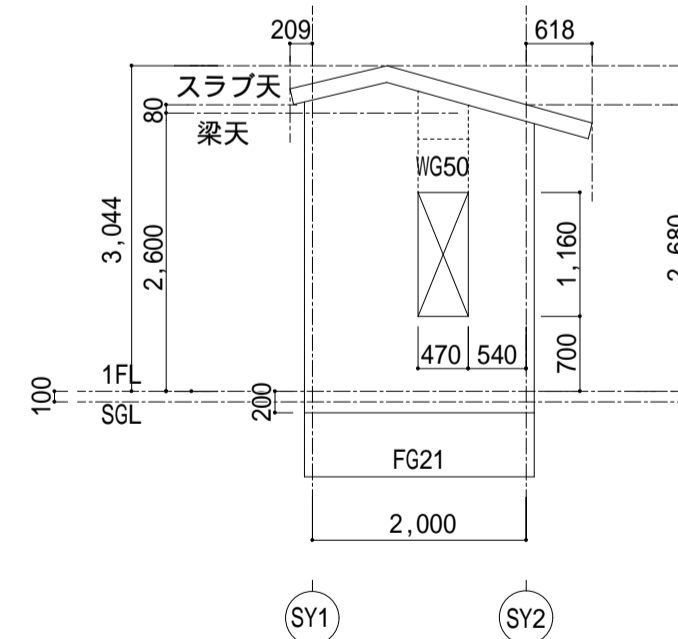
SY1通り軸組図



SY2通り軸組図



SX1通り軸組図



SX2通り軸組図

SX3通り軸組図

- 特記なき限り下記とする。
1. 壁はW18とする。
  2. スリーブは以下とする。  
SX2通り壁面：100 × 2  
SX3通り壁面：150 × 1  
SY1通り壁面：150 × 1、100 × 1

機械設備工事特記仕様書 1

【工事概要】

1 工事場所 宇治市伊勢田町遊田7番地の1
2 建物概要
建物名 構造 階数 延床面積 (m2) 消防法令別第一耐震安全性の分類 備考

3 工事科目
工事科目 建物名称 スクールサポーター控室
空調設備
換気設備
排煙設備
自動制御設備
衛生器具設備
給水設備
排水設備
給湯設備
消火設備
ガス設備
さく井設備
厨房機器設備
浄化槽設備
医療ガス設備
撤去工事

【特記事項】

- 1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書(機械設備工編)令和7年版」(以下、「標準仕様書」という。)...
2) 工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び各工事の標準仕様書による。

章 一般事項
項目 特記事項
設備機材等 本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。

章 一般事項
項目 特記事項
工事関係書類 普通工事契約関係書類提出書類式集一覧表により提出。
宇治市ホームページ参照 <http://www.city.uji.kyoto.jp>
履行報告 月報 2部 3部 毎月末にメレ、翌月の5日までに提出する。
工事写真 1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部「普通工事写真撮影要領(最新版)」による。
2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。
3) 小黑板電子化については、現場説明書による。

章 一般事項
項目 特記事項
はつり及び穴開け 1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。
2) 復旧はモルタル補修までとする。
インサート及びアンカー あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第2編第5章による。
施工後確認試験 行う(国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書(建築工編)(令和7年版)8章1節8.1.2.7による。)

章	項目	特記事項
空気調和設備	銅板製煙道 (ボイラー)	厚さ 3.2mm 4.5mm ばい煙濃度計の取付座 ばいじん量測定口 伸縮継手 掃除口
	ばい煙濃度計 (ボイラー)	送風機付き 送風機なし (電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む)
	瞬間流量計	固定形 個 着脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個)
換気設備	保温 (図面特記部分は除く)	1) 冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠ぺい部 不要 必要 露出部 保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) ・屋外 ステンレス鋼板 保温化粧ケース (樹脂製 アルミ合金製 ステンレス鋼板製) 溶融亜鉛めっき鋼板製(上部歩行タイプ) ・保温化粧ケースの下部カバー 必要 不要 2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加湿用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4) トラフ内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。
	ダクトの工法	アングルフランジ工法 コーナーボルト工法 (共板フランジ工法 スライドオンフランジ工法) スパイラルダクト アルミフレキシブルダクト
	ダクトの分岐方法	給気ダクト 割込み方式 直付け方式 排気ダクト 割込み方式 直付け方式
排煙設備	厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。
		ダクトの長辺 板厚
	排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ステンレス鋼板 (補強共) 2) 排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 別途工事 3) グリスフィルターの予備 不要 必要
衛生器具設備	小便器用節水装置	電気供給方式 AC電源 乾電池 自己発電
	自動水栓	電気供給方式 AC電源 乾電池 自己発電
	手動スイッチ	無し 有り
給水設備	給水方式	水道直結方式 高置タンク方式 水道直結増圧方式(水道用直結加圧形ポンプユニット) ポンプ直送方式(小型給水ポンプユニット) プールは直圧給水
	配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内配管 一般配管用ステンレス鋼管 (SUS304) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (HIVP) ポリエチレン粉末ライニング鋼管 (SGP-PB、SGP-FPB) 硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VA、SGP-FVA)
	配管材料 (図面特記部分は除く)	屋外配管 一般配管用ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) 水道用ポリエチレン二層管 (50A以下) (1種 2種) (接合方法 メカニカル 電気融着) 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (HIVP) ポリエチレン粉末ライニング鋼管 (SGP-PD、SGP-FPD) 硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VD、SGP-FVD)

章	項目	特記事項
給水設備	水栓柱	合成樹脂製 (70x70x1300H) ステンレス製 ( ) アルミニウム合金製 ( ) 不凍水栓柱 ( )
	管の埋設深さ	特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。 1) 一般敷地 300mm 2) 構内車両通路 600mm 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。
	埋戻し及び盛土	良質土 再生コンクリート砂 山砂
排水設備	加入金・負担金	不要 必要 (別途 本工事)
	排水方式	汚水と雑排水 [屋内] 分流式 合流式 汚水・雑排水と雨水 [屋外] 分流式 合流式 ポンプアップ排水 有り (雑排水 汚水 雨水 湧水 浄化槽2次側) 無し
	配管材料 (図面特記部分は除く)	水道用亜鉛めっき鋼管 配管用炭素鋼鋼管 (白) (ねじ接合 MDジョイント) 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ビット内 リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) 排水・通気用耐火二層管 (VP)
給湯設備	給湯方式	中央式 局部式
	配管材料	水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-HVA) 一般配管用ステンレス鋼管 鋼管 (壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。) 被覆鋼管
	保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽面所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2.3.5による。
消火設備	消火設備の種類	屋内消火栓 スプリンクラー 泡消火 不活性ガス消火 ( ) 連結送水管 屋外消火栓 ○移動式粉末 (屋上キュービクル、GHP用)
	配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管 (白) 圧力配管用炭素鋼鋼管 (白 Sch 40) 一般配管用ステンレス鋼管 地中配管 [屋内][屋外] 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) 消火用ポリエチレン管 (PE)
	保温	消火用貯水タンクの保温を 施工する (膨張タンクによる) 施工しない 消火用呼水タンクの保温を ○施工しない 施工する (膨張タンクによる) 屋外露出管の保温を 施工しない 施工する (給水管の保温仕様に準ずる) 屋内露出管の保温を 施工しない 施工する (給水管の保温仕様に準ずる) トレンチ内の保温を 施工しない 施工する (給水管の保温仕様に準ずる)
ガス設備	ガスの種類	都市ガス (発熱量 45,000kJ/Nm3 kJ/Nm3) 液化石油ガス (50kg 本立 20kg 本立)
	ガスメーター	親メーター 貸与品 購入 パルス式 (一般系統、GHP系統の2系統) 子メーター 購入 貸与品
	配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内配管 配管用炭素鋼鋼管 (白) 地中配管 [屋内][屋外] ポリエチレン被覆鋼管 ガス用ポリエチレン管
設 備	地中配管の接合方法	都市ガスの場合は、供給者仕様による。(大阪ガス株式会社) SGM工法 ネジ工法 PE工法
	ビット内施工法	溶接工法
	負担金	不要 必要 (別途 本工事)
設 備	本管接続工事	本工事 ( 舗装本復旧まで 舗装仮復旧まで ) 別途工事
	掘削工法	バーカッション式 ローター式 ダウンザホールハンマ式 回転振動式
	掘削工法	回転振動式 ローター式 ダウンザホールハンマ式 ロータリーバーカッション式
設 備	緊急遮断弁装置	必要 不要 駆動方式 電気式 機械式
	量水器	現地表示式 (直読式) 既設置量水器 遠隔表示式 (パルス式) 計量用 (プール系統、その他系統の2ヶ所)

章	項目	特記事項
浄化槽設備	形式	ユニット形 現場施工形
	処理方法	小規模合併処理 (図面による) 合併処理 (図面による)
設備		図面による。

その他	コア抜き (ダイドリル穴明け)	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 参考メーカー 日本無機機 ハンディサーチRCレーダー NJJ-85型同等品
	校正記録	試験機器類の校正記録を提出する。
	交通誘導員	機器類搬入時、撤去材搬出時、外部掘削前に配置する。
	保安器材	カラーコーン、コーンウエイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
	鉄板敷き	1,524x6,096x厚2.2mm

別表 付属品・予備品

工具箱 (ドライバー、モンキーレンチ、組スパー、ハンマー)	マンホールフック	パイプレンチ	ポンプブライヤー	ラバーカップ (大、小)
イーザーキャビネット 1箱	キーボックス			

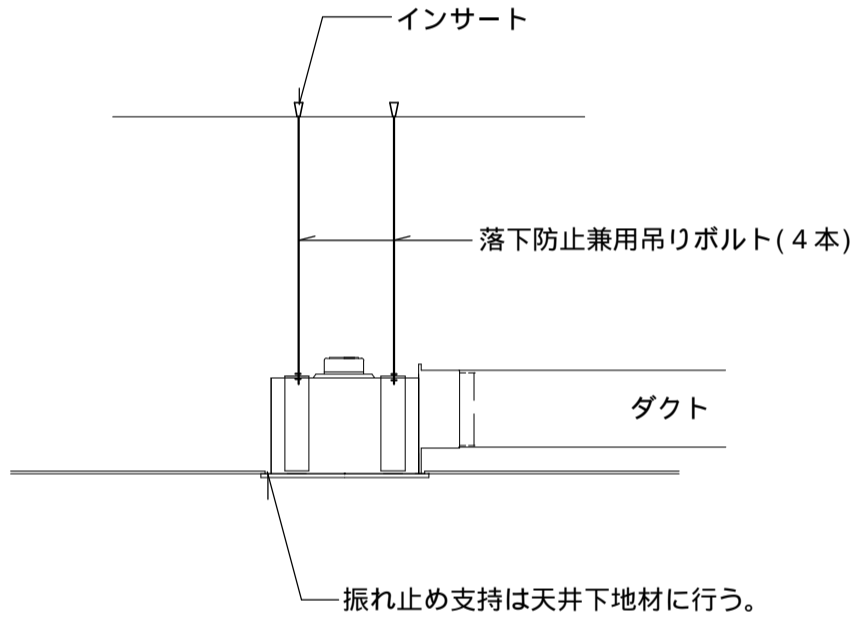
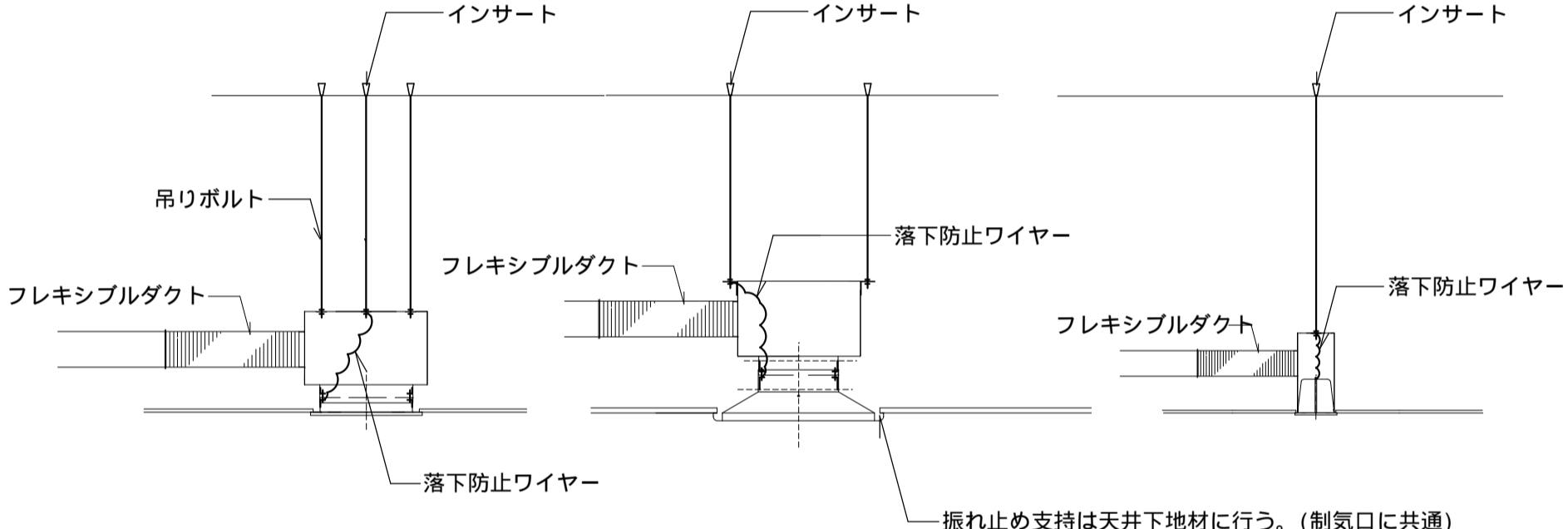
盤類予備品 (ランプ及びヒューズの100%)

試験・検査

水圧試験	排水滴水試験	排水通水試験			
気密試験	点火試験	機器類動作試験	風量測定	○吹出口温度測定	
騒音測定	振動測定	絶縁試験			
消防設備試験	水質検査	水槽水張り試験	アンカー引張試験		

NO	品目	
1	換気扇	東芝キャリア株式会社 同等品

<p><b>共通事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本標準図に記載なきものは日本建築センター「建築設備耐震設計・施工指針」(以下「指針」)による事。</li> <li>・( )内寸法は耐震クラスA又はBを示し、(( ))内寸法は耐震クラス Sを示す。</li> <li>・吊機器に含まれるものはFCU, EHP, GHP, HEX, FAN等で排気フード, 排煙口も含める。</li> <li>・機器の吊り長さが(250), ((200))を超える場合には振れ止めを設ける。</li> <li>・吊りボルトはM10を使用する。(斜材も含めウイトねじでも可。)</li> <li>・吊ボルト用振れ止め金具は外れを防止する為に包み込みネジ等の耐震金具を用いる。</li> <li>・振れ止めの取付角度は <math>45^{\circ} \pm 15^{\circ}</math> 以内とする。</li> <li>・ハンガーを用いる場合はズレ防止の為穴あけし貫通止めする。</li> <li>・RCスラブが斜めの場合は吊ボルトを曲げずに自在振金具を使用して垂直に垂らす。</li> <li>・鉄骨造の母屋や型鋼から支持する場合の吊金具には脱落防止用の補強金具を併用する。</li> <li>・鋼製架台の部材サイズ、インサート間隔等は「指針」を基に耐震計算を行い監督員の承諾を受ける事。</li> <li>・改修工事等で既設RCスラブから吊る場合は下記による。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・後施工アンカーはオネジメカニカルアンカーとし、スリーブ打ち込み式又はウエッジ式とする。</li> </ul> </li> </ul> <p>・各部材サイズは水平震度2.0で設計している。 変える場合は監督員の承諾を得ること。</p>		
---	--	--

<p><b>天井扇</b></p>  <p>インサート</p> <p>落下防止兼用吊りボルト(4本)</p> <p>ダクト</p> <p>振れ止め支持は天井地下材に行う。</p>	<p><b>制気口</b></p> <p>(ワイヤーを用いて制気口を吊りボルトに緊結する)</p>  <p>インサート</p> <p>インサート</p> <p>インサート</p> <p>吊りボルト</p> <p>落下防止ワイヤー</p> <p>フレキシブルダクト</p> <p>フレキシブルダクト</p> <p>フレキシブルダクト</p> <p>落下防止ワイヤー</p> <p>落下防止ワイヤー</p> <p>振れ止め支持は天井地下材に行う。(制気口に共通)</p>	<p><b>配管及びダクト</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>耐震振止め支持間隔</th> <th>左記の適用を出来る場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">配管</td> <td>鉛直吊支持間隔の3倍以内(但し鋼管の場合は4倍以内)に(A種支持)((SA種支持))を行う。</td> <td>・吊長さが200以下の部分。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・40A(鋼管は20A)以下の部分。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ダクト</td> <td>支持間隔1.2m以内に(A種支持)((SA種支持))を行う。</td> <td>・吊長さが200以下の部分。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・周長が1000以下の部分</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">共通事項</td> <td colspan="2">・上記に関わらず末端部には耐震支持を設ける事。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・軸方向(管材と平行方向)の振れ止めを2.5m以内に設ける事。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・他の設備(機器、配管、ダクト等)とは150以上離す事。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・PS及びDS内の縦管(ダクト)の支持は「指針」による事。</td> </tr> </tbody> </table>		耐震振止め支持間隔	左記の適用を出来る場合	配管	鉛直吊支持間隔の3倍以内(但し鋼管の場合は4倍以内)に(A種支持)((SA種支持))を行う。	・吊長さが200以下の部分。		・40A(鋼管は20A)以下の部分。	ダクト	支持間隔1.2m以内に(A種支持)((SA種支持))を行う。	・吊長さが200以下の部分。		・周長が1000以下の部分	共通事項	・上記に関わらず末端部には耐震支持を設ける事。		・軸方向(管材と平行方向)の振れ止めを2.5m以内に設ける事。		・他の設備(機器、配管、ダクト等)とは150以上離す事。		・PS及びDS内の縦管(ダクト)の支持は「指針」による事。	
	耐震振止め支持間隔	左記の適用を出来る場合																						
配管	鉛直吊支持間隔の3倍以内(但し鋼管の場合は4倍以内)に(A種支持)((SA種支持))を行う。	・吊長さが200以下の部分。																						
		・40A(鋼管は20A)以下の部分。																						
ダクト	支持間隔1.2m以内に(A種支持)((SA種支持))を行う。	・吊長さが200以下の部分。																						
		・周長が1000以下の部分																						
共通事項	・上記に関わらず末端部には耐震支持を設ける事。																							
	・軸方向(管材と平行方向)の振れ止めを2.5m以内に設ける事。																							
	・他の設備(機器、配管、ダクト等)とは150以上離す事。																							
	・PS及びDS内の縦管(ダクト)の支持は「指針」による事。																							

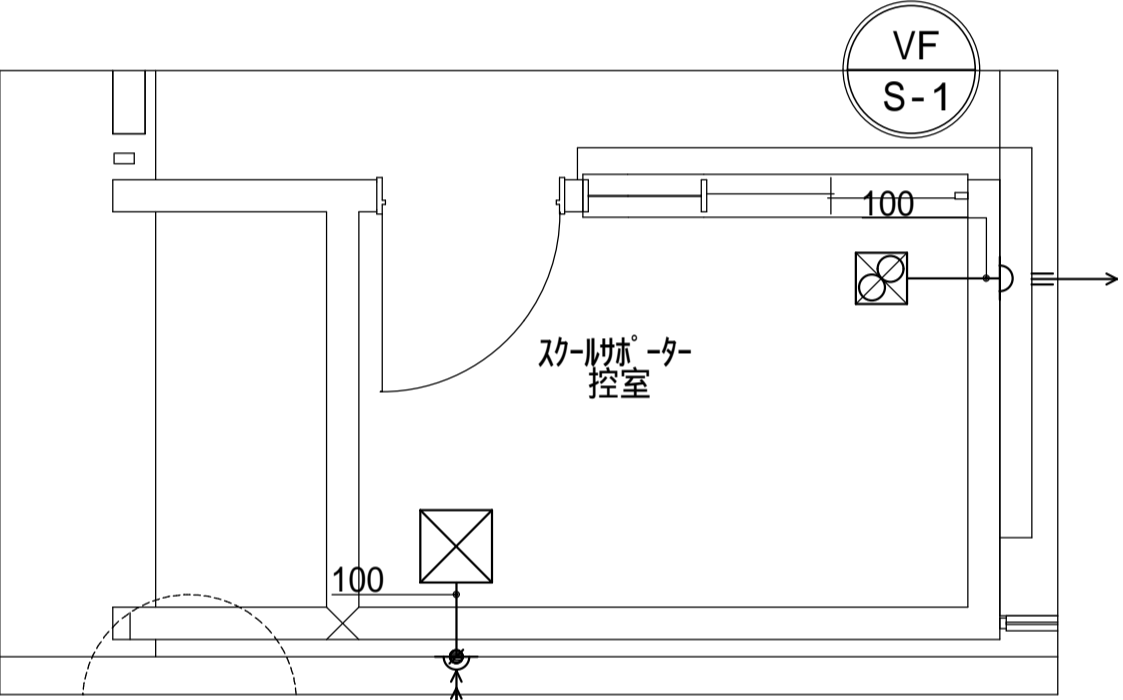
<p><b>株式会社 類設計室</b> 一級建築士事務所</p>	<p>本社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06・6305・2222</p> <p>東京事務所 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-38-3 蒲田朝日ビル4F 03・5713・1010</p> <p>大阪事務所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06・6305・6666</p>	<p>設計</p>	<p>一級建築士 大臣登録第311846号</p> <p>齊藤 直</p>	<p>構造設計一級建築士 第5621号</p> <p>一級建築士 大臣登録第235240号</p> <p>廣重 圭一</p>	<p>設備設計一級建築士 第4707号</p> <p>一級建築士 大臣登録第358739号</p> <p>鈴木 邦彦</p>	<p>担当</p>	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>2023・2・10</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>・</td> </tr> </table>	第1回	2023・2・10	第2回	・	第3回	・	第4回	・	<p>工事名称 宇治西小倉学園東門周辺整備工事</p> <p>図面名称 機械設備工事特記仕様書(3)</p> <p>縮尺 A1 - A3 -</p>	<p>図面No. M-003</p>
第1回	2023・2・10																
第2回	・																
第3回	・																
第4回	・																

送風機

記号	機器名称	形式	仕様		サイズ # or	風量 (弱運転) m3/h	静圧 Pa	騒音値 SPL dB	電気 (60Hz)						設置場所	参考型番		
			天井	標準型					-V	W	起動	制御	強弱切り替え	常時換気対応			台数	
VF-S-1	排気ファン	天井扇			100	50	50		1-100	20	直入	A			1	1階	スクールサポーター控室	
注記	<共通> : 適応を示す。 24時間換気対応 スイッチに「24時間運転」等の表示を行う。 モーターは高耐久型モーターとする。																	
	<制御> A : 現地スイッチ発停(電気工事)																	

制気口

階	室名	種別	系統	風量 (CMH)	制気口選定				
					1個当り 風量 (CMH)	仕様	ボックス	個数	備考
1	スクールサポーター控室	OA	自然給気	100	100	VHS (フィルター付) 150x150	350x350x350H	1	RW25内貼



丸型フード (SUS製・F D付)

丸型フード (SUS製・F D・防虫網付)

空調換気設備 1階平面図 S=1:25  
(スクールサポーター控室)

# 電気設備工事特記仕様書－1

## 【工事概要】

- 1 工事場所
- 2 建物概要

建物名	構造	階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	消防法令別表第一耐震安全性の分類	備考
				甲 乙	工事区分を記載
				甲 乙	例：新営
				甲 乙	全館無人改修
				甲 乙	執務並行改修

## 3 工事科目

工事科目	建物名称	スル-別-カ-控室	屋外	印をついたものを適用し、各一式とする。
電灯設備			○	
動力設備				
雷保護設備				
受変設備				
電力貯蔵設備				
発電設備				
構内情報通信網設備				
構内交換設備				
情報表示設備				
映像・音響設備				
拡声設備				
誘導支援設備				
テレビ共同受信設備				
監視カメラ設備				
駐車場管制設備				
防犯・入退室管理設備				
火災報知設備				
中央監視制御設備				
医療関係設備				
構内配電線路				
構内通信線路				
電波障害調査				
撤去工事				

## 【特記事項】

- 1 一般事項
  - 1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和7年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）令和7年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）令和7年版」による。
  - 2) 工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
- 2 特記事項  
項目及び特記事項は、印をついたものを本工事に適用する。ただし、印のない場合は、印を適用する。

章	項目	特記事項
一	設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(2)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第10条に規定する現場代理人は、主任技術者又は監視技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	電気工事士 工事用電力・水その他 官公署への手続き 工事用仮設物 足場・作業構台 監督職員事務所 監督職員事務所 監督職員事務所	契約電力500kW以上の場合も、第1種電気工事士による施工を行う。 本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時ですべて受注者の負担とする。 官公署等への手続きは速やかにを行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。 構内につくることができない 別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。 設置しない、設置する（本工事 別途）
般	建設副産物の処理及び建設発生土の処理	建設副産物の処理 右記のほか、 現場説明書による。 再生資源利用を図るもの【 特別管理産業廃棄物 P C B使用機器 S F 6ガス使用機器 構外指定地に搬出処理（一財）城陽山砂利採取地整備公社 ○ 構内指示場所に敷き均し
	再生資源利用（促進）計画・実施書の提出	詳細は現場説明書による。
	1) 「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理計画書」を監督職員に提出する。 2) 関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理報告書」により監督職員に報告する。	
事	アスベスト成形板の処理等（以下のほか、現場説明書による） 施工調査	アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認
	確認範囲	成形板の製造年等の確認 X線解析法
項	処理方法	非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針」に従いあらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。

章	項目	特記事項
一	工事関係書類	営繕工事契約関係提出書類書式集 一覧表により提出。 <http://www.city.uji.kyoto.jp> 宇治市&A^-'参照
	履行報告 工事写真	月報 2部 3部 毎月末にメ、翌月の5日までに提出する。 1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部「営繕工事写真撮影要領（最新版）」による。 2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。 3) 小黒板情報電子化については、現場説明書による。。
	完成図書	名称 内容 大きさ 部数 完成図 金文字製本 A4版 1部 完成図 背貼り製本（版） A4ファイル止め 2部 施工図 背貼り製本（版） A4ファイル止め 2部 機器完成図等 機器製作図 ファイル止め A4版 2部 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書
	諸官庁提出書類 原図 完成写真	副本 1式 1部 2部 アルバム綴り
般	電子納品については、現場説明書による。 当該建物において取得する、施工図等の著作権に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。	
	著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
事	付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表による。
	耐震施工	1) 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」により計算を行い、監督職員に報告し承諾を得る。 2) 下記の設計用水平震度（KH）により、機器製作固定を行う。 設置場所 特定の施設 ○一般の施設 設置場所 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器 上層階、屋上及び塔屋 2.0(2.0) 1.5(2.0) 1.5(2.0) 1.0(1.5) 中間階 1.5(1.5) 1.0(1.5) 1.0(1.5) 0.6(1.0) 1階及び地下階 1.0(1.0) 0.6(1.0) 0.6(1.0) 0.4(0.6)
	注1 耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設、乙類の建物は一般の施設を適用する。 注2 屋外に設置する機器は、建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。 注3 ( )内の数値は、防震支持の機器の場合に適用する。 注4 設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。 注5 上層階の定義は、6階建以下の場合は最上階、7~9階建の場合は上階2階。 注6 重要機器（水槽類含む）は、下記による。（水槽類にはオイルタンク等を含む。） 配電盤 ○直流電源装置 ○自家発電装置 ○交換機 電算用電源 中央監視装置 U P S装置 自動火災報知装置	
	注7 操作車は本体を床又は壁にアンカーボルトで固定できるように固定金具を備えたものとし、車上機器は、転倒防止用の措置を講じたものとする。	
通	○風圧力に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分 V o ( 3 0 3 2 3 4 ) 地表面粗度区分 ( )
	○風圧力（耐風力）	建築基準法施行令第87条に定めるところによる風圧力（耐風力）検討（計算）書を監督職員に提出する。なお、検討（計算）範囲には、それぞれの取付部分を含めるものとする。 受雷部システム及び引下げ導線システム ○太陽光アレイ及び接続箱 ○風力発電装置 ○テレビ共同受信用アンテナ及びアンテナマスト
	電線類	1) 特記なきものは、E M - I E とする。 2) E M電線、E Mケーブルで標準仕様書に規格等の記載のないものは、ハログン及び鉛を含まない材料で構成されたものとし、次の記号及び仕様による。 E M - アクセスフロア J C S 4 5 0 2 ( 6 0 0 V アクセスフロア用耐燃性ポリエチレンシースケーブル ) による 6 0 0 V アクセスフロア用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル ( E M - E E ) 及び 6 0 0 V アクセスフロア用架橋ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル ( E M - C E ) を示す。 E M - M E E S J C S 4 2 7 1 に準じ、絶縁材及びシースに J C S 規格による E Mケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
	電線管	電線管 P F 管 ただし、露出部分は鋼製電線管とする。 分電盤等の2次側第1ボックスまでは ( 鋼製電線管 P F 管 ) とする。 ○ねじなし電線管 1) 雨線外及び湿気の多い場所または水気のある場所に使用する露出電線管は、厚鋼電線管とする。 2) スラブ厚の1/4を越える外径の配管及び ( P F 2 2 ) 又は ( E 2 5 ) 相当を越えるものは、コンクリート埋設配管を行わない。
項	最上階の埋込配管	最上階のスラブでモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管は避けるのを原則とする。
	下記の露出配管は塗装（指定色塗装）を行う。 屋外（屋上を除く） 屋内居室 屋内 P S ・ E P S 屋内機械室・電気室 ○廊下	
	電線本数、管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。
	ボックス	樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。
般	予備配管	分電盤の予備の配線用遮断器が4個以下の場合(25)を1本、5個以上の場合(25)を2本天井内まで立上げる。ケーブルラックの床の防火貫通部に(51)を1本以上立上げる。
	フラッシュプレート	和室 ○樹脂製 金属製 ( 新金属製 ステンレス製 ) その他 樹脂製 金属製 ( 新金属製 ステンレス製 )
	○床配線器具等	床用配線器具の形式は以下による。（図面特記のあるものを除く。） 二重床 インナー形 ○飛び出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 二重床以外 飛び出し形 ○引出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 （フロアベースは水平高低調整式（空転防止リング付） 砲金製 ○アルミ製とする。）
	機器	寸法 盤その他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。 接続 電動機への接続は、本工事とする。 アンカーボルト アンカーボルト、全ネジ及びナットは、下記による。 屋外・多湿室等 ( ○溶融亜鉛メッキ S U S ) その他 ( ○一般品 S U S )

章	項目	特記事項
一	○あと施工アンカー	施工後確認試験 ○行う 行わない 試験方法 引張試験機による引張試験と、国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成三十一年度版）「8.12.7 施工確認試験」による。 確認強度 監督職員との協議による。
	機器内配線等	下記の機器内配線及びケーブルには、E M電線及びE Mケーブルを使用する。ただし、高圧主回路配線はこれ限りでない。 分電盤 ○O A盤 ○実験盤 ○開閉器箱 ○制御盤 ○キュービクル式配電盤 ○直流電源装置 ○交流無停電電源装置 ( U P S ) ( 簡易型を除く )
	○はつり	1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2) 復旧はモルタル補修までとする。
	再使用機器	取り外した上再使用する機器は、清掃し絶縁抵抗測定の上取付ける。なお照明器具等の見え掛り部分は、洗剤を使用するなどして、十分に清掃する。
事	その他	屋外の盤類・開閉器箱 S U S ○鋼板製 屋外のプルボックス S U S ○鋼板製
	工事範囲	配管 配線 機器取付
	電気方式	幹線 単相3線式 100V/200V 直流2線式 100V 分岐 単相2線式 100V 200V 直流2線式 100V
	○照明制御による効果の評価 ○照明制御装置 ○多重伝送制御システム	一般社団法人日本照明器具工業会技術資料130「照明制御装置による消費電力削減効果の評価手法」により、消費電力削減効果の評価を行い監督職員に提出する。 照明制御装置の各センサー設定は、監督職員と協議する。センサー設定器を付属させる。 多重伝送制御システムの設定は、監督職員の指示による。システム設定器を付属させる。
灯	○LED制御装置の種類	図面特記があるものを除き、LED照明器具の制御装置の種類は、調光信号線が接続された器具にあってはL X又はL Z、それ以外はL N又はL Jとする。
	R P又はM P形照明器具	標準図において、防雨形または防湿形の器具本体の材質に、S U Sを含む複数の材料が適用されている場合は、S U Sを適用する。
	○非常用照明の形式	○電池内蔵形 ○電池別置形
	○フロアコンセント	引出し形 飛び出し形 内部固定形 外部固定形 ○O Aフロア用
備	分電盤等	1) 本工事の分電盤、O A盤、実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器及び漏電遮断器の寸法は、J I S C 8 2 0 1 - 2 - 1 「回路遮断器」、同付属書 J C 「電灯分電盤用協約形回路遮断器」、J I S C 8 2 0 1 - 2 - 2 「漏電遮断器」、同付属書 J C 「電灯分電盤用協約形漏電遮断器」、による1極サイズのものとする。 2) S P D分離器（配線用遮断機）は（警報接点付 警報接点無）とする。 3) S P D分離器は、監督職員の承諾を受けて、S P D内蔵とすることができる。
	照明用ポール	○O A盤の端子盤部に 通気口 冷却ファン を設ける
	一般照明の照度測定	開閉器を設ける ( 配線用遮断器 カットアウトスイッチ ) 開閉器を設けない 実施 する しない
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
動	○電気方式	幹線 ○三相3線式 200V 分岐 ○三相3線式 200V
	○制御盤	1) 制御回路に用いる変圧器は絶縁変圧器とする。 2) インバータ発熱対策用冷却装置を扉面に取り付けた場合、開扉時に冷却装置を休止させる。 3) インバータ発熱対策用冷却装置の故障を盤面に表示 ( ○させる させない )
	○監視方法	○警報盤による代表監視 中央監視制御装置による監視
	○インターロック	自動火災報知設備の受信機、運動制御器及びガス漏れ火災警報受信機と連動して、制御盤で空調機を停止させる。
設	○インバータ装置の規約効率	三相可変性電動機用インバータ装置の規約効率は、次表の値以上とする。 電動機出力 ( kW ) 0 . 4 0 . 7 5 1 . 5 2 . 2 3 . 7 5 . 5 7 . 5 1 1 インバータ効率 ( % ) 8 6 . 0 8 8 . 5 9 2 . 0 9 3 . 0 9 4 . 0 9 4 . 0 9 4 . 5 9 4 . 5 電動機出力 ( kW ) 1 5 1 8 . 5 2 2 3 0 3 7 4 5 5 5 7 5 インバータ効率 ( % ) 9 5 . 0 9 5 . 5 9 5 . 5 9 5 . 5 9 5 . 5 9 5 . 5 9 5 . 5 9 5 . 5
	備考	1) 電動機の供給電圧は100V又は200Vとする。 2) インバータ効率は、100%負荷時の値とする。
	○工事範囲	配管 配線 機器取付
	保護レベル	突針支持管 鋼製 ステンレス製
雷	受雷部システム	鋼製 ステンレス製
	接地システム	A型接地極 ( 板状接地極 垂直接地極 放射状接地極 ) B型接地極 ( 環状接地極 網状接地極 ) 構造体利用接地極 ( 構造体底盤部の大地抵抗率測定のための大地抵抗率測定用補助接地極を○設ける 設けない )
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○電気方式	高圧 三相3線式 6kV 低圧 ○三相3線式200V ○単相3線式100V/200V 三相3線式 V 三相4線式 V / V
変	○配電盤形式	屋内キュービクル式配電盤 ○屋外キュービクル式配電盤 開放形配電盤 ○変圧器盤 ○コンデンサ盤 ○系統連系保護制御盤 高圧スイッチギア ( C X形 C W形 P W形 ) 低圧スイッチギア ( C X形 C S形 C W形 F W形 )
	○変圧器の規格 (グ)	1) 変圧器 ( スコット結線変圧器、モールド変圧器でH絶縁材料を使用するもの、一次電圧が低圧または特別高圧のものを除く。 ) は、グリーン購入法による特定調達品目の判断基準を満たすものとする。 2) ダイアル温度計は、最高温度計付とする。
	○監視方式	○警報盤による代表監視 中央監視制御装置による監視
	○基礎	○本工事 別途工事 既設
備	○付属品等	盤内に予備限流ヒューズを収納する。
	○その他	○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込みで埋込形とする。 ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。 ○低圧配電盤に内部点検空間を設ける。（幅600mm以上・高さ1,800mm以上） ○盤内照明器具はLEDとする。 ○換気扇を設ける場合は回転センサー付とする。（盤面警報ランプ共）

株式会社 類設計室 一級建築士事務所	本社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06-6305-2222 東京事務所 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-38-3 蒲田朝日ビル4F 03-5713-1010 大阪事務所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 06-6305-6666	設計 一級建築士 大臣登録第311846号 齊藤 直	構造設計一級建築士 第5621号 一級建築士 大臣登録第235240号 廣重 圭一	設備設計一級建築士 第4707号 一級建築士 大臣登録第358739号 鈴木 邦彦	担当 第1回 . . . 第2回 . . . 第3回 . . . 第4回 . . .	工事名称 宇治西小倉学園東門周辺整備工事 図面名称 電気設備工事特記仕様書（1） 縮尺 A1:- A3:-	図面No. E- 001
--------------------	---	----------------------------	---	---	--	--	--------------

電気設備工事特記仕様書-2

章	項目	特記事項			
電力貯蔵設備	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	直流電源装置	用途 その他	建築基準法用 消防法用 受変電設備専用 過放電防止保護装置(直流不足電圧継電器)の設定電圧は、90Vとする。		
	交流無停電電源装置(UPS)	用途 方式	( 一般形 簡易形		
発電機	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	形式	オープン形	簡易形	キュービクル	
	連続運転可能時間	10時間(乙)	72時間(甲)		
	発電機	電気方式 電圧 定格出力	三相3線式 210V kVA以上	6.6kV 415V 力率 0.8	
	原動機	種別 定格出力 始動方式 冷却方式 現地負荷試験	ガスタービン マイクロガスタービン kW(PS)以上 電気式 ラジエーター式 行方	ディーゼル機関 燃料電池 コージェネレーション 空気式 水槽循環式 行わない	
	燃料	種類 燃料小出槽 主燃料槽	重油 軽油	灯油 ガス( )	
	監視方式	警報盤による代表監視	中央監視盤による監視		
	太陽光発電装置	太陽電池 設置可能建築面積	アレイド 公称最大出力 m <sup>2</sup> 以下(長辺 m x 短辺 m)	kW以上 受動 能動	
	系統連系				
	パワーコンディショナ出力		相線式	V kW以上	
逆潮流		有	無		
交流出力電圧		100V	200V		
出力電気方式		三相3線式	単相3線式 単相2線式		
外部移相	有	無			
通信設備	構内情報	工事範囲	配管	配線	機器取付
	施工方法	金属管配線	ケーブル配線	合成樹脂管配線	
構内交換設備	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	保安器用接地	本工事	別途工事		
情報表示設備	形式	電子交換機	ボタン電話装置		
	工事種類	マルチサイン装置	出退表示設備	時刻表示設備	
	工事範囲	配管	配線	機器取付	
映像音響設備	親時計及び付属装置	CR-PM プログラムタイマ(カード式)	CW-P-M キー式		
	子時計	特記なきものは	SWA33-GPB2		
拡声設備	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	増幅器	用途	全館放送用(一般放送 非常放送)	ローカル放送用	
誘導支援設備	スピーカー	特記なきものは	SC6Hi-1V3-M		
	工事範囲	配管	配線	機器取付	
テレビ共同受信設備	工事内容	音声誘導装置	検出方式(磁気式 無線式 画像認識)		
	○インターホン	電話式	相互式		
	テレビインターホン	親機に子機カメラ角度調整機能(上下)を設ける。			
	トイレ等呼出し装置	1窓 3窓 5窓			
	呼出しボタン	壁付ボタン(プルスイッチの長さは0.2m程度とする)	壁付握りボタン(握りボタンの長さは1.2m程度とする)		
	通話機能	誘導音			
工事範囲	配管	配線	機器取付		
アンテナ	UHF用 AM用	B5用 FM用	C5用 CATV		
アンテナマスト	壁面取付形 配管用ステンレス鋼管	自立形 配管用ステンレス鋼管			
電界強度測定	電界強度及び画像は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。測定チャンネルは、監督職員と協議する。				

章	項目	特記事項			
監視カメラ	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	画像	カラー	白黒		
	伝送方式	ネットワーク伝送方式	デジタル同軸伝送方式		
駐車設備	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	車両検出方式	ループコイル方式	光線方式		
防犯・入退室管理	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	工事種類	機械警備用配管 防犯装置	入退室管理制御装置		
火災報知設備	自動火災報知装置	工事範囲	配管	配線	機器取付
	受信機	P形 壁掛形 単独形 副受信機	1級 120回線 自立形 複合形 窓		
	光警報装置			盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。	
	消火ポンプ始動	消火栓箱内押ボタン 発信機と連動(総合盤に始動表示灯を設ける。)			
	機器収容箱	配管	配線	機器取付	
	自動閉鎖装置	運動制御器	回線【予備電源(蓄電池)内蔵】 単独 自火報受信機と一体		
	自動閉鎖装置	防火戸用【DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式】 防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構(電動式)DC24V 0.7A以下】			
	非常警報装置	工事範囲	配管	配線	機器取付
	電気方式	DC24V			
	電源装置	非常電源(蓄電池)	自動火災報知設備と兼用		
ガス漏れ火災警報装置	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	受信機	単独形	自火報受信機と一体		
ガスの種類	都市ガス(13A)	液化石油ガス			
諸警報表示	受信機に諸警報表示窓(窓)を設ける。				
中央監視	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	監視方式	警報盤	監視制御装置		
医療関係設備	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	非接地電源用分電盤	キャビネット	鋼製	ステンレス製	
	ナースコール装置	トイレ及び浴室等の 呼出押ボタン	有線式 防滴	無線式 防湿	
	その他	オプション等の試験は、監督職員の指示による。			
	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	電気方式	高圧 低圧	三相3線式 三相3線式 単相3線式 単2線式	6kV 200V 100/200V (100V 200V)	
	ふ設方式	地中線	管路式	波付硬質合成樹脂管(FEP) ポリエチレン被覆管(PLP)	
	埋設深さ	特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装下面) から300mm以上とする。			
	架空線	電柱	速心カプレストレストコンクリートポール		
	区分開閉器	高圧負荷開閉器	7.2kV 300A		
用途	架空引込用	地中引込用			
構造	耐中埋じん用	耐重埋じん用			
形式	引外し装置付き(SOG形)	引外し装置なし	避雷器内蔵		
電線	マンホール及びハンドホール	構造・寸法 蓋の文字 ハンドホールにおいてモケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。	標準図による 蓋の用途表示は電力とする。 蓋の用途表示は通信とする。 ハンドホールにおいてモケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。	図示による。	
	高圧ケーブル	屋外に使用する高圧ケーブルはEM-高圧架橋ポリエチレンケーブルは、JCS 4395「6600V 架橋ポリエチレンケーブル(3層押出型)」に(よる ○よらない)			
	余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。			
	端子、高圧ケーブル 端未処理	一般用	耐塩用	重耐塩用	
	避雷器	屋外形	耐塩形		
	装柱材	一般用	耐塩形		
	外灯	基礎 外灯ボールの材質が鋼製(SPC)の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。	本工事	別途工事	
	工事範囲	配管	配線	機器取付	
	ふ設方式	地中線	管路式	波付硬質合成樹脂管(FEP) ポリエチレン被覆管(PLP)	
	埋設深さ	特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装(表層)下面) から300mm以上とする。			
架空線	電柱	速心カプレストレストコンクリートポール			
構内通信線	マンホール及びハンドホール	構造・寸法 蓋の文字 ハンドホールにおいてモケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。	標準図による 蓋の用途表示は電力とする。 蓋の用途表示は通信とする。 ハンドホールにおいてモケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。	図示による。	

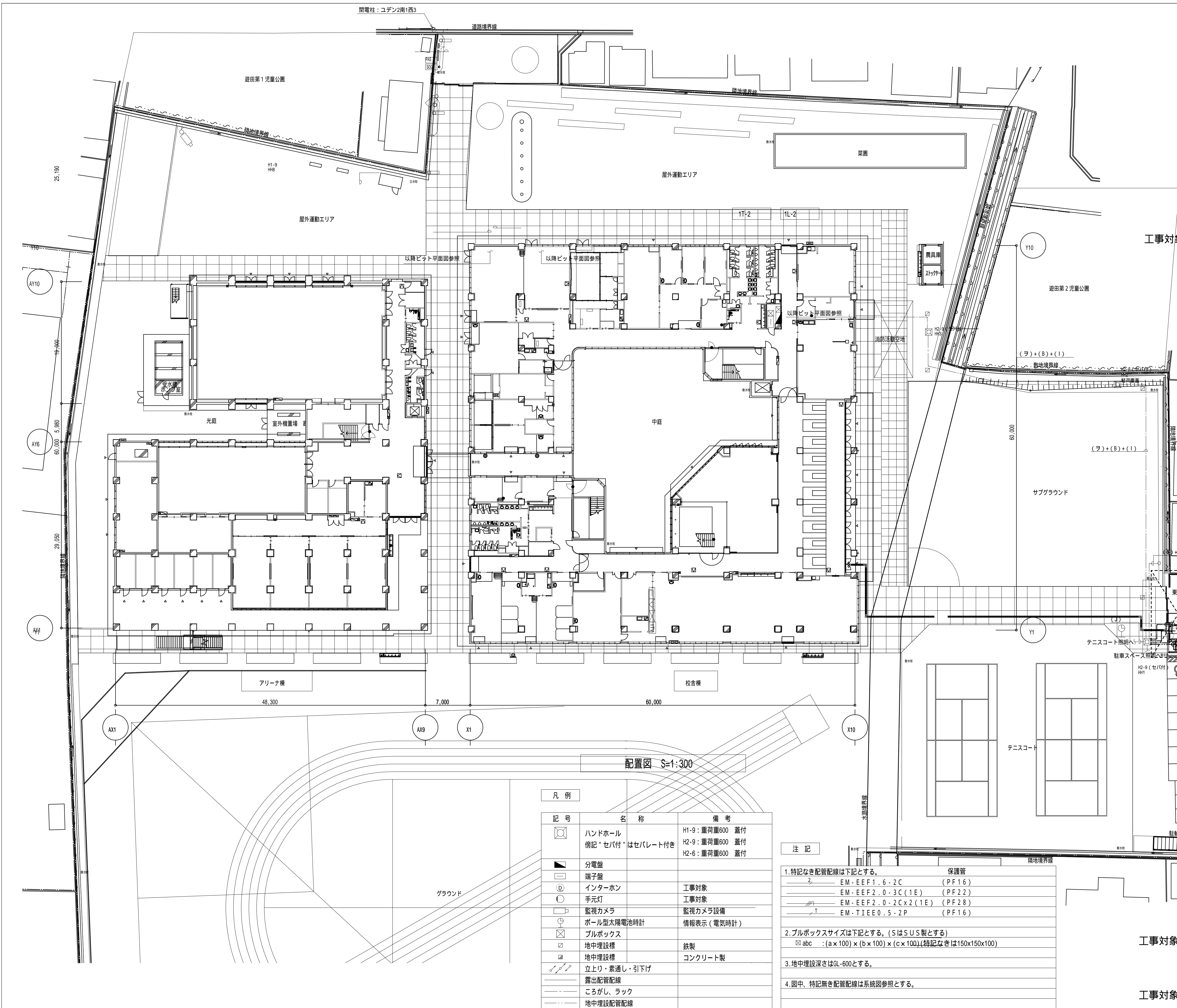
章	項目	特記事項		
調査	調査範囲	測定のみ 工事前	対策工事実施設計書作成まで 工事中	完成後
	測定箇所 測定内容	箇所	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。	

別表	付属品・予備品
	イージーキャビネット 工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スパナ、ハンマー)
	受変電設備・盤 ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。

試験・検査一覧
工事完成に際しては、各種試験、検査に合格の責任を持つ。
検査及び試験を行うべき機材等は標準仕様書による他下記の項目とする。
受変電機器 動力盤及び電灯盤 耐圧試験 絶縁抵抗測定 接地抵抗測定 機器機能試験 その他監督職員の指示するもの
○工事着手に際し、事前に必要な機器(照明機器、空調機器、放送設備等)の機能確認を行い、確認結果報告書を提出する。
工事着工前に既設照明器具で床面照度を測定し、完成後の照度と比較する。(照度測定箇所は監督職員の指示する箇所とする。)
着工前・工事完成後、空調機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
着工前・工事完成後、放送機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
後施工アンカ-の施工確認試験(引張試験機による引張試験)は、1日の施工本数の3%以上かつ3本以上とする。
例 盤・ケ-ブルラック・ケ-ブルダクト等

その他
試験機器類の校正記録を提出する。
停電工事の必要な時は、当該高圧受電設備の電気主任技術者と協議し、打合せ記録を提出する。
尚、電気主任技術者の立会費用は本工事に含む。
工事に係る申請手続き費、消防設備竣工検査費、高圧電気設備検査等の竣工に必要な費用は本工事に含む。
分電盤等の端子接続部施工管理手順は、電気設備工事監理指針(令和元年度版)の資料5(P1127)に基づき施工する。
鉄筋コンクリ-トをダイヤモンドル等で貫通する時は、鉄筋探査機で開口位置を確認する。
整備不良の電動工具等持ち込まない。
構外搬出適切産廃処分とする(電線、電線管、器具、管球等報告書を提出する)。
交通誘導員は大型機器搬入時及び監督職員が必要と指示した時は、安全確保のため交通誘導員を2名以上配置する。
カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。

機器取付高さ(参考寸法の為、盤の寸法・取付位置は監督員と協議する。)									
電力共通	名称	測点	取付高(mm)	名称	測点	取付高(mm)			
	取引用計器	地上-上端	2,000	電	端子盤	床上-上端	1,900		
	引込開閉器	〃	1,800		保安器函	天井下-上端	200		
					壁付位置ボックス	床上-中心	300		
	動力	壁掛型制御盤	床上-上端	1,900	話	〃(和室)	〃	150	
		手元開閉器	床上-中心	1,500					
		操作スイッチ	〃	1,300		拡声、時計	壁掛スピーカー	天井下-上端	200
							アッテネーター	床上-中心	1,300
				壁掛型親時計	床上-上端		1,900		
	電灯	分電盤	床上-上端	1,900	電	子時計	天井下-上端	200	
スイッチ(一般)		床上-中心	1,300						
〃(身障者便所)		〃	900	インターホン	壁掛インターホン	床上-中心	1,500		
コンセント(一般)		〃	300		〃(身障者)	〃	1,100		
〃(和室)		〃	150		壁付位置ボックス	〃	300		
〃(台上)		台上-中心	300		〃(和室)	〃	150		
〃(土間)		床上-中心	1,300						
ブラケット(一般)		〃	2,100	テレビ共聴	機器収納函	天井下-上端	200		
〃(踊場)		〃	2,500		直列ユニット	床上-中心	300		
〃(鏡上)		鏡上端-中心	150		〃(和室)	〃	150		

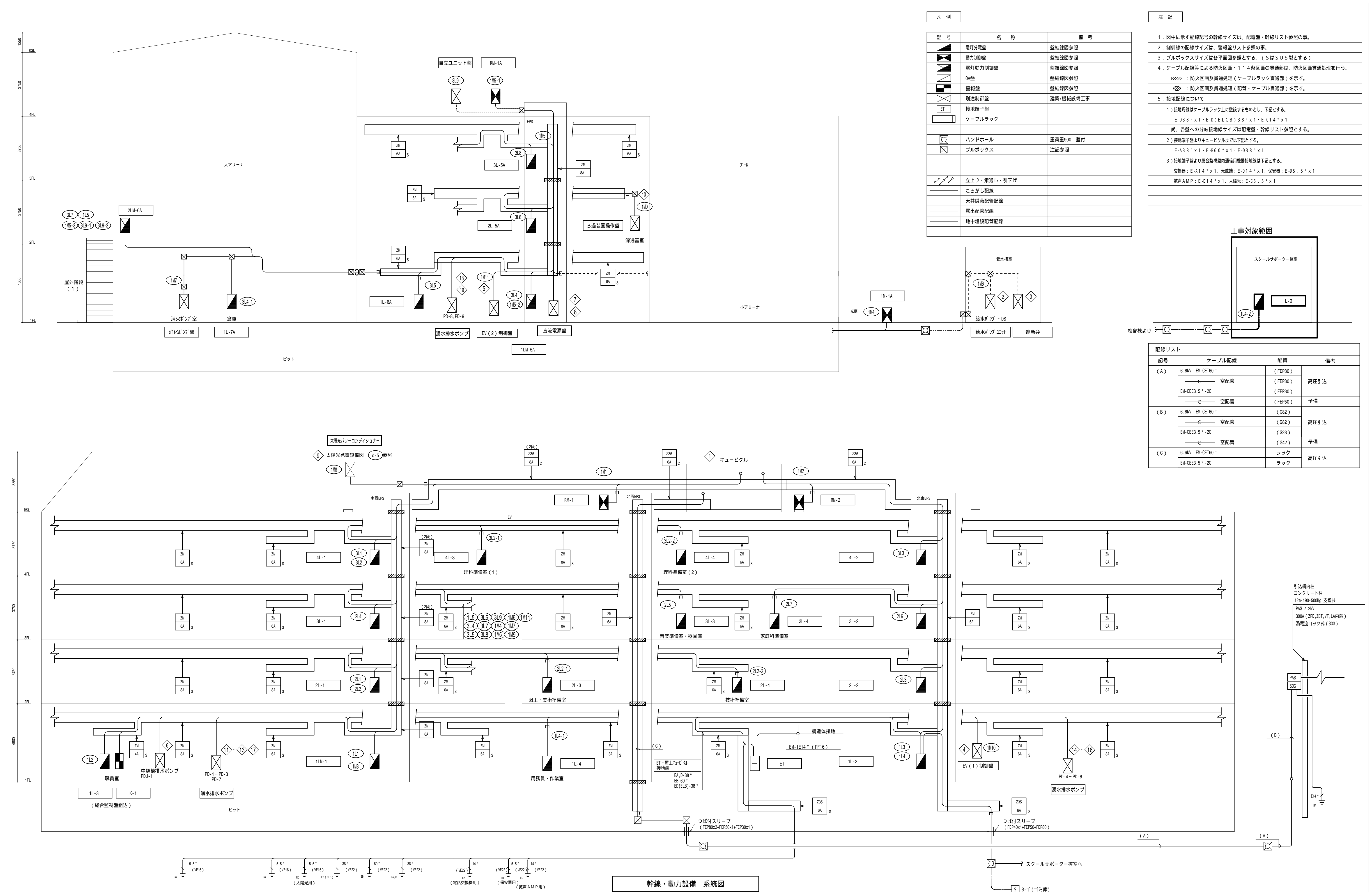


記号	配線	配管	負荷名称	目	至
A	EM-S-SC-FB	FEP30	ITV	ITV架	北門
	EM-CPEE1.2-3P×2	FEP30	防犯装置	1T-3	北門
	空配管	FEP50x3	TEL引込	構内柱	北西E P S
B	空配管	FEP50x3	LAN引込	構内柱	北西E P S
	EM-CPEES1.2-1P	FEP30	北門のケーブル	1T-3	北門のケーブル
	EM-CEE3.5-2C	FEP50	地絡警報	PAS	北門
	空配管	FEP50	予備	-	北門
	空配管	FEP50	予備	-	北門
C	EM-S-SC-FB	FEP30	ITV	ITV架	屋外運動エリア
	空配管	FEP50	予備	-	屋外運動エリア
	空配管	FEP50x3	TEL引込	構内柱	北西E P S
	空配管	FEP50x1	LAN引込	構内柱	北西E P S
	EM-CPEES1.2-1P	FEP30	北門のケーブル	1T-3	北門のケーブル
	EM-S-SC-FB	FEP30	ITV	ITV架	北門
	EM-S-SC-FB	FEP50	ITV	ITV架	屋外運動エリア
	EM-CPEE1.2-3P×2	FEP30	防犯装置	1T-3	北門
EM-CEE3.5-2C	FEP50	地絡警報	PAS	北門	
空配管	FEP50	予備	-	北門	
D	EM-CPEES1.2-1P	FEP30	東門のケーブル	1T-2	東門のケーブル
	EM-CPEES1.2-3P	FEP30	東門電線(入退室)	1T-2	東門電線
E	EM-CCP-P0.5-10P	FEP30	TEL	1T-2	スクールサポーター控室
	EM-HP1.2-5P	FEP50	火災通知	1T-2	スクールサポーター控室
F	空配管	FEP50	予備	-	東門
	EM-S-SC-FB	FEP30	ITV	ITV架	東門
G	EM-CPEE1.2-3P×2	FEP30	防犯装置	1T-2	東門
	EM-CPEES1.2-1P	FEP30	東門のケーブル	1T-2	東門のケーブル
H	EM-CPEES1.2-3P	FEP30	東門電線(入退室)	1T-2	東門電線
	EM-CCP-P0.5-10P	FEP30	TEL	1T-2	スクールサポーター控室
I	EM-HP1.2-5P	FEP50	火災通知	1T-2	スクールサポーター控室
	空配管	FEP50	予備	-	スクールサポーター控室

記号	配線	配管	負荷名称	目	至
A	6KV EM-CET60	FEP80	高圧引込	PAS	キュービクル
	空配管	FEP80	予備	PAS	1F EPS
B	EM-CET38 * .E5.5	FEP65	L-2	1L-2	L-2
	EM-CE3.5-3C	FEP50	防犯装置	1L-2 341	東門
C	空配管	FEP50	予備	-	-
	EM-CE8-3C.E5.5	FEP50	S-3	1L-2 342	S-3
D	EM-CE3.5-3C	FEP50	防犯装置	1L-2 341	北門
	EM-CE3.5-3C×2	FEP30	外灯	1L-2 341	北門
E	EM-CE3.5-3C×2	FEP30	防犯装置	1L-2 341	北門
	EM-CE3.5-3C	FEP30	防犯装置	1L-2 341	北門
F	EM-CE8-3C.E5.5	FEP65	S-3	1L-2 342	S-3
	EM-CET38 * .E5.5	FEP65	L-2	1L-2	L-2
G	EM-CE3.5-3C	FEP50	防犯装置	1L-2 341	東門
	空配管	FEP50	予備	-	-
H	EM-CET38 * .E5.5	FEP50	L-2	1L-2	L-2
	空配管	FEP50	予備	-	-
I	EM-CET38 * .E5.5	FEP50	L-2	1L-2	L-2
	空配管	FEP50	予備	-	-
J	EM-CE5.5-3C×3	FEP50	外灯	1L-2 212R1,R2,102R1	外灯(フコ・駐輪用)
	JM-CE3.5-3C×2	FEP40	外灯	1L-2 212R1,R2	外灯(フコ・駐輪用)
K	空配管	FEP50	予備	-	-
	空配管	FEP50	予備	-	-
L	EM-CE5.5-3C	FEP30	手元灯	1L-2 102R1	東門
	EM-CE3.5-3C	FEP30	外灯	1L-2 212R1	外灯(フコ・駐輪用分岐)

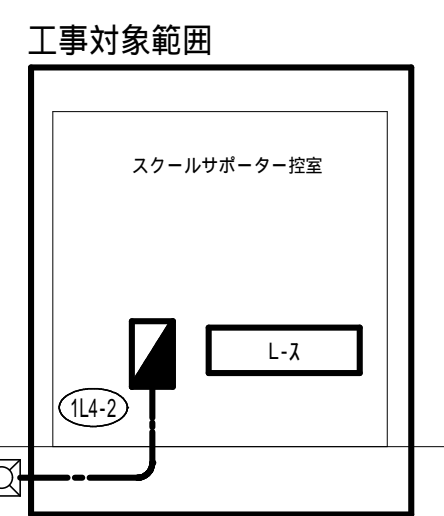
記号	名称	備考
□	ハンドホール	H1-9: 重荷重600 蓋付
□	傍記"セバ付"はセバレート付き	H2-9: 重荷重600 蓋付
□		H2-6: 重荷重600 蓋付
■	分電盤	
○	端子盤	
○	インターホン	工事対象
○	手元灯	工事対象
□	監視カメラ	監視カメラ設備
○	ボール型太陽電池時計	情報表示(電気時計)
□	プルボックス	
□	地中埋設機	鉄製
□	地中埋設機	コンクリート製
—	立上り・素通し・引下げ	
—	露出配管配線	
—	こるがし・ラック	
—	地中埋設配管配線	

- 注記
1. 特記なき配管配線は下記とする。保護管
    - EM-EEF1.6-2C (PF16)
    - EM-EEF2.0-3C(1E) (PF22)
    - EM-EEF2.0-2Cx2(1E) (PF28)
    - EM-TIEE0.5-2P (PF16)
  2. プルボックスサイズは下記とする。(SはSUS製とする)
    - abc : (a×100) × (b×100) × (c×100) (特記なきは150×150×100)
  3. 地中埋設深さはGL-600とする。
  4. 図中、特記なき配管配線は系統図参照とする。



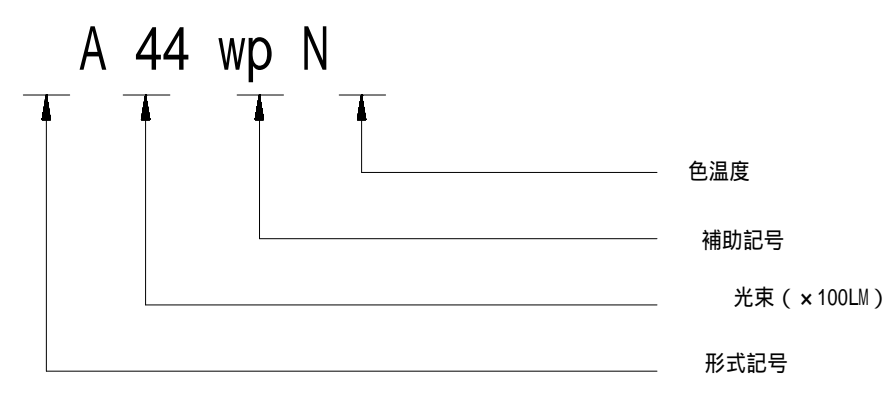
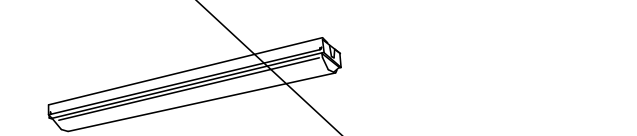
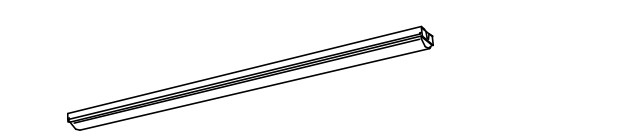
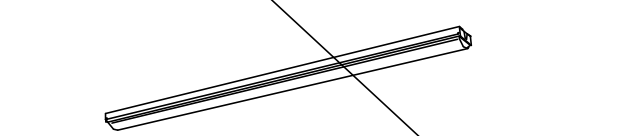
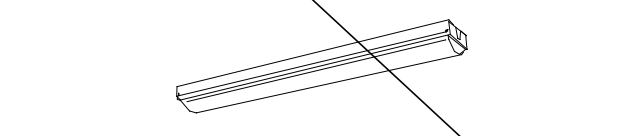
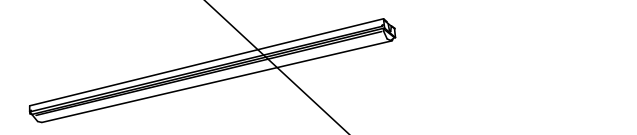
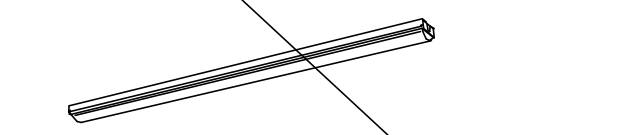
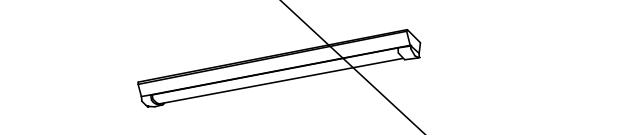
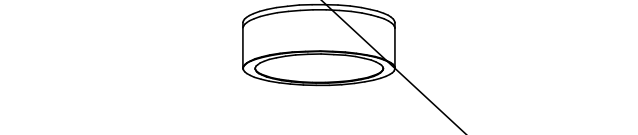
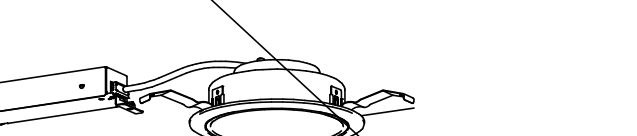
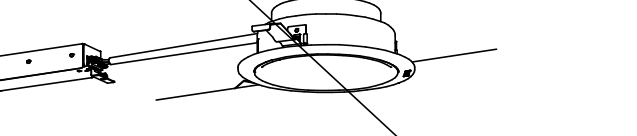
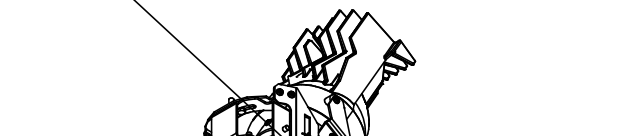
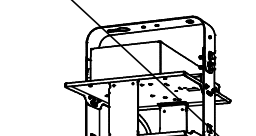
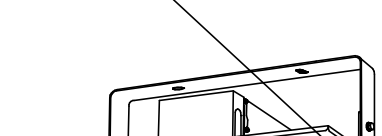
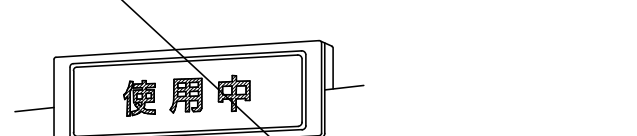
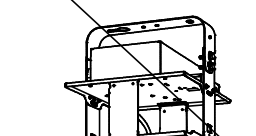
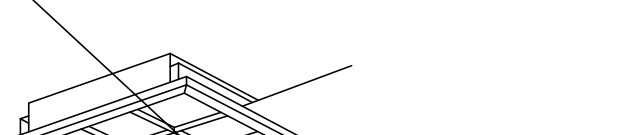
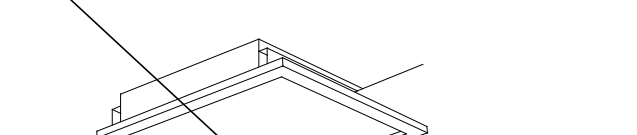

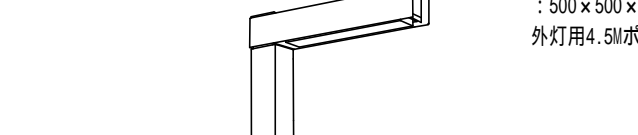
記号	名称	備考
	電灯分電盤	盤結線図参照
	動力制御盤	盤結線図参照
	電灯動力制御盤	盤結線図参照
	OA盤	盤結線図参照
	計器盤	盤結線図参照
	別途制御盤	建築/機械設備工事
	接地端子盤	
	ケーブルラック	
	ハンドホール	重量900 蓋付
	プルボックス	注記参照
	立上り・素通り・引下げ	
	ごろがし配線	
	天井隠蔽配管配線	
	露出配管配線	
	地中埋設配管配線	

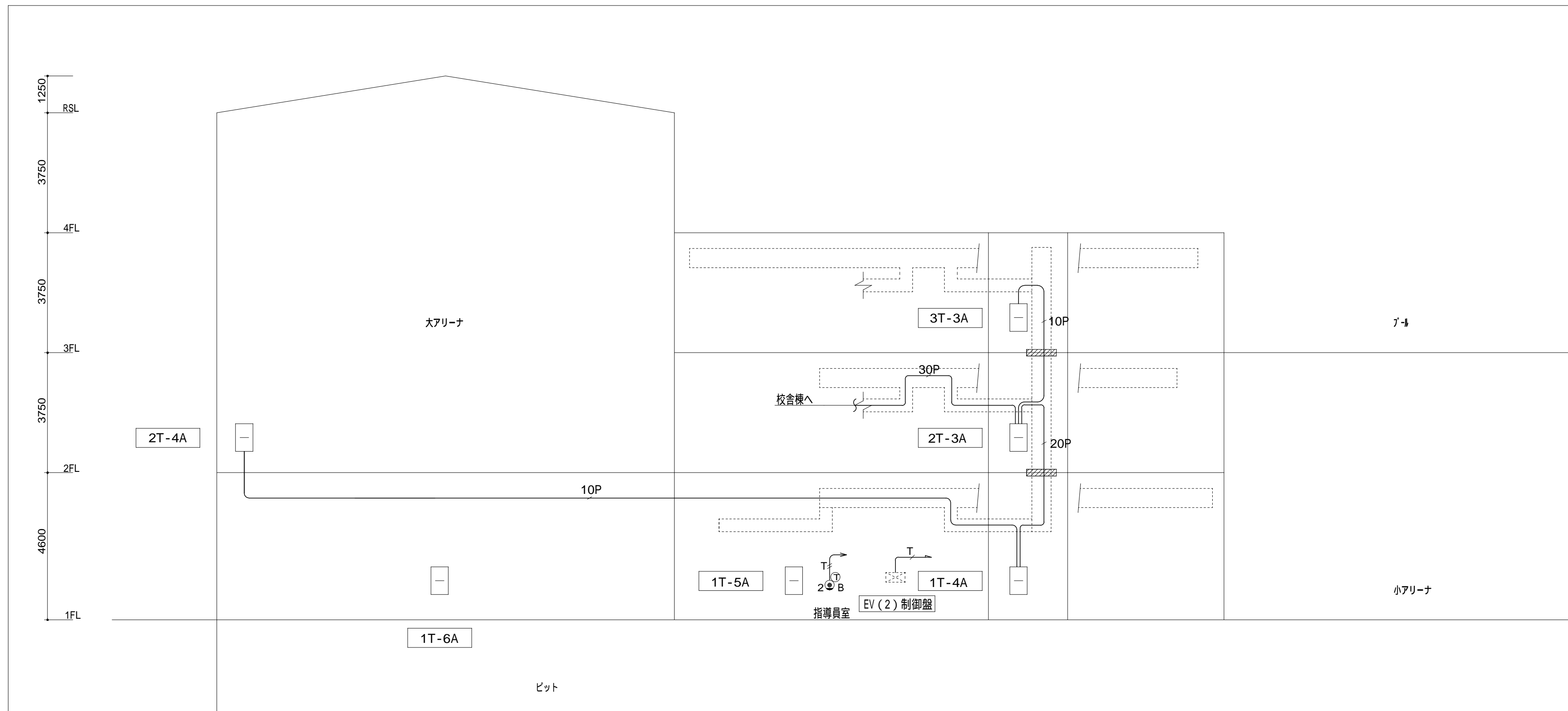
- 注記
- 図中に示す配線記号の幹線サイズは、配電盤・幹線リスト参照の事。
  - 制御盤の配線サイズは、盤銘リスト参照の事。
  - プルボックスサイズは各平面図参照とする。(SはSU S製とする)
  - ケーブル配線等による防火区画・114条区画の貫通部は、防火区画貫通処理を行う。  
 : 防火区画貫通処理(ケーブルラック貫通部)を示す。  
 : 防火区画貫通処理(配管・ケーブル貫通部)を示す。
  - 接地配線について  
 1) 接地母線はケーブルラック上に敷設するものとし、下記とする。  
 E-03.8 \* x 1.0 (ELCB) 3.8 \* x 1.0 (E-01.4 \* x 1.0)  
 尚、各盤への分岐接地線サイズは配電盤・幹線リスト参照とする。  
 2) 接地端子盤よりキュービクルまでは下記とする。  
 E-A3.8 \* x 1.0 (E-86.0 \* x 1.0 (E-03.8 \* x 1.0))  
 3) 接地端子盤より総合監視室内通信機器接地線は下記とする。  
 交換機: E-A1.4 \* x 1.0, 光成端: E-01.4 \* x 1.0, 保安器: E-05.5 \* x 1.0  
 拡声AMP: E-01.4 \* x 1.0, 太陽光: E-05.5 \* x 1.0



記号	ケーブル配線	配管	備考
(A)	6.6kV EH-CET60 *	(FEF80)	高圧引込
	— 空配管	(FEF80)	
	EH-CEE3.5 * -2C	(FEF90)	
(B)	6.6kV EH-CET60 *	(G82)	高圧引込
	— 空配管	(FEF90)	
	EH-CEE3.5 * -2C	(G82)	
(C)	6.6kV EH-CET60 *	ラック	高圧引込
	EH-CEE3.5 * -2C	ラック	



<b>照明器具名称説明</b>  <b>(例)</b>  		<b>T</b> <b>トラフ型</b> T15W    LED (LSS1-2-15)    消費電力:18W以下 T30Wa    LED (LSS1-2-30)    消費電力:34W以下			<b>T</b> <b>トラフ型</b> T23W    LED (LSS1-4-23)    消費電力:18W以下 T23gW    LED (LSS1-4-23) ガード付    消費電力:18W以下			<b>T</b> <b>トラフ型</b> T30W    LED (LSS1-4-30)    消費電力:22W以下 T30xW    LED (LSS1-4-30) 調光    消費電力:22W以下			<b>T</b> <b>トラフ型</b> T30x2W    LED    消費電力:22W以下 T37W    LED (LSS1-4-37)    消費電力:27W以下																																																																							
		 <p>T15W パナソニック X L X 2 1 0 N E N C L E 9 (5000K) T30Wa パナソニック X L X 2 3 0 N E N C L E 9 (5000K)</p>			<p>ガード F K 4 1 5 3 3</p>  <p>パナソニック X L X 4 2 0 N E N P L E 9 (5000K) 相当</p>			 <p>T30W パナソニック X L X 4 3 0 N E N P L E 9 (5000K) T30xW パナソニック X L X 4 3 0 N E N P L A 9 (5000K)</p>			 <p>i D シリーズ直付型 2 0 形 i スタイル</p> <p>パナソニック 直付 X L X 2 3 0 N E N C L A 9 (5000K)</p> <p>パナソニック X L X 4 4 0 N E N U L E 9 (5000K)</p>																																																																							
<b>形式記号</b>  <table border="1"> <tr><td>V</td><td>逆富士型</td><td>MR</td><td>ミラーライト</td><td>X</td><td>誘導灯</td></tr> <tr><td>T</td><td>トラフ型</td><td>BR</td><td>ブラケットライト</td><td>Y</td><td>階段通路誘導灯</td></tr> <tr><td>R</td><td>反射笠型</td><td>SP</td><td>スポットライト</td><td>Z</td><td>非常照明</td></tr> <tr><td>SR</td><td>片反射型</td><td>ID</td><td>建築化照明</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>O</td><td>埋込下面開放</td><td>FT</td><td>フットライト</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>P</td><td>埋込下面パネル</td><td>FD</td><td>フード照明</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>SQ</td><td>スクエア下面開放</td><td>K</td><td>キッチンライト</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>SQP</td><td>スクエア下面パネル</td><td>HP</td><td>ハイボールライト</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>D</td><td>ダウンライト</td><td>LP</td><td>ローボールライト</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>UD</td><td>ユニバーサルダウンライト</td><td>浴</td><td>浴室灯</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>C</td><td>シーリングライト</td><td>黒</td><td>黒板灯</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>PN</td><td>ペンダントライト</td><td>棚</td><td>棚下灯</td><td></td><td></td></tr> </table>		V	逆富士型	MR	ミラーライト	X	誘導灯	T	トラフ型	BR	ブラケットライト	Y	階段通路誘導灯	R	反射笠型	SP	スポットライト	Z	非常照明	SR	片反射型	ID	建築化照明			O	埋込下面開放	FT	フットライト			P	埋込下面パネル	FD	フード照明			SQ	スクエア下面開放	K	キッチンライト			SQP	スクエア下面パネル	HP	ハイボールライト			D	ダウンライト	LP	ローボールライト			UD	ユニバーサルダウンライト	浴	浴室灯			C	シーリングライト	黒	黒板灯			PN	ペンダントライト	棚	棚下灯			<b>T</b> <b>トラフ型</b> T48W    LED (LSS1-4-48)    消費電力:50W以下 T65W    LED (LSS1-4-65)    消費電力:48W以下 T65xN    LED (LSS1-4-65) 調光    消費電力:48W以下 T65xL    LED (LSS1-4-65) 調光    消費電力:48W以下			<b>V</b> <b>逆富士型 (防湿・防雨型)</b> V14wpW    LED (LSS9MP/RP-2-14)    消費電力:15W以下 V30wpW    LED (LSS9MP/RP-4-30)    消費電力:23W以下			<b>C</b> <b>シーリングダウンライト (防湿・防雨型)</b> C08wpN    LED    消費電力:8W D08wpN    LED (LRS1RP-08)    埋込 150    消費電力:9W以下		
		V	逆富士型	MR	ミラーライト	X	誘導灯																																																																											
T	トラフ型	BR	ブラケットライト	Y	階段通路誘導灯																																																																													
R	反射笠型	SP	スポットライト	Z	非常照明																																																																													
SR	片反射型	ID	建築化照明																																																																															
O	埋込下面開放	FT	フットライト																																																																															
P	埋込下面パネル	FD	フード照明																																																																															
SQ	スクエア下面開放	K	キッチンライト																																																																															
SQP	スクエア下面パネル	HP	ハイボールライト																																																																															
D	ダウンライト	LP	ローボールライト																																																																															
UD	ユニバーサルダウンライト	浴	浴室灯																																																																															
C	シーリングライト	黒	黒板灯																																																																															
PN	ペンダントライト	棚	棚下灯																																																																															
 <p>T48W パナソニック X L X 4 5 0 N E N P L E 9 (5000K)</p>  <p>T65W パナソニック X L X 4 6 0 N E N P L E 9 (5000K) T65xN パナソニック X L X 4 6 0 N E N P L R 9 (5000K) T65xL パナソニック X L X 4 6 0 N E L P L R 9 (3000K)</p>  <p>V14wpW パナソニック X L W 2 1 3 A E N Z L E 9 (5000K) V30wpW パナソニック X L W 4 3 3 A E N Z L E 9 (5000K)</p>			 <p>昼白色 (5000K)、Ra83 器具光束 8.15lm、電圧 100V 防雨型、拡散タイプ カバー：プラスチック (ブラック)</p> <p>パナソニック L G W 5 1 5 0 4 L E 1</p> <p>パナソニック X N W 1 0 6 3 W N L E 9 (5000K)</p>																																																																															
<b>補助記号</b>  <table border="1"> <tr><td>w</td><td>防雨型</td><td>D</td><td>昼白色 (6000K)</td></tr> <tr><td>wp</td><td>防雨・防湿型</td><td>V</td><td>昼白色 (5000K)</td></tr> <tr><td>sus</td><td>防雨・防湿型 (ステンレス)</td><td>N</td><td>白色 (4000K)</td></tr> <tr><td>x</td><td>調光型</td><td>WW</td><td>温白色 (3500K)</td></tr> <tr><td>a</td><td>システム天井</td><td>L</td><td>電球色 (3000K)</td></tr> <tr><td>g</td><td>ガード付</td><td>R</td><td>調色</td></tr> <tr><td>v</td><td>遮光ルーバー付</td><td></td><td></td></tr> </table>		w	防雨型	D	昼白色 (6000K)	wp	防雨・防湿型	V	昼白色 (5000K)	sus	防雨・防湿型 (ステンレス)	N	白色 (4000K)	x	調光型	WW	温白色 (3500K)	a	システム天井	L	電球色 (3000K)	g	ガード付	R	調色	v	遮光ルーバー付			<b>D</b> <b>ダウンライト</b> D08N    LED (LRS1-08)    埋込 150    消費電力:9W以下 D08NW    LED (LRS1-08)    埋込 150    消費電力:9W以下 D13W    LED (LRS1-13)    埋込 150    消費電力:14W以下 D13NW    LED (LRS1-13)    埋込 150    消費電力:14W以下 D17W    LED (LRS1-17)    埋込 150    消費電力:17W以下 D22W    LED (LRS1-22)    埋込 150    消費電力:21W以下			<b>D</b> <b>ダウンライト</b> D33W    LED (LRS1-33)    埋込 150    消費電力:20W以下 D45NW    LED 1 5 0 形    3030 lm    消費電力:30W			<b>UD</b> <b>ユニバーサルダウンライト</b> UD12L    軒下用LED 3 5 0 形    消費電力:33.8W BR17wpL    LED 15W x 3灯    172 lm    消費電力:4.3W																																														
		w	防雨型	D	昼白色 (6000K)																																																																													
wp	防雨・防湿型	V	昼白色 (5000K)																																																																															
sus	防雨・防湿型 (ステンレス)	N	白色 (4000K)																																																																															
x	調光型	WW	温白色 (3500K)																																																																															
a	システム天井	L	電球色 (3000K)																																																																															
g	ガード付	R	調色																																																																															
v	遮光ルーバー付																																																																																	
 <p>D08N パナソニック X N D 1 0 6 9 W N L E 9 (5000K) D08NW パナソニック X N D 1 0 6 9 W N V L E 9 (3500K) D13W パナソニック X N D 1 5 6 9 W N L E 9 (5000K) D13NW パナソニック X N D 1 5 6 9 W N V L E 9 (3500K) D17W パナソニック X N D 2 0 6 9 W N L E 9 (5000K) D22W パナソニック X N D 2 5 6 9 W N L E 9 (5000K)</p>  <p>D33W パナソニック X N D 3 5 6 9 S N L Z 9 (5000K)</p> <p>LED内蔵、電源ユニットNTS90151Jg x 3、可変配光型 3灯用、一般色タイプ 器具光束約4.5lm、水平回転角度約3.5度 光束寿命:4.000.0時間 (光束維持率70%) 3.500.0K、Ra8.5、防雨・防湿型、配光調整機能付 器具光束3.030.1lm (出射角17度)、消費電力3.6W 枠:アルミ(防雨・赤ワイド付消し仕上)、内蔵:ブラック付消し仕上 灯:アルミダイカスト(ブラック付消し仕上)、埋込穴:1.00 x 3.00 パナソニック N T S 6 6 1 5 2 - 1 5 0 + N T S 9 0 1 5 1 J g</p>			 <p>LED内蔵、電源ユニット別売、ユニバーサルタイプ 適合電源ユニット(別売)NTS90554、非調光(LED9)、調光可能型(LJ9)、中角タイプ 23 5.000.0K、Ra8.5、光源寿命:4.000.0時間 (光束維持率70%) 器具光束:1.275.1lm、1.00~2.42V 枠:アルミダイカスト(ホワイト付消し仕上) 枠:アルミ(銀色塗装仕上) 反射板:アルミ(銀色塗装仕上) 光源:光源角度3.0度、水平回転角度3.0度、埋込穴:1.00 パナソニック P A V 1 0 0 3 S U V W P / W / S 0</p>																																																																															
<b>特記</b> 1) 図中の器具寸法、姿図は参考とする。 2) 光束・消費電力・色温度は器具番号を基に照明器具名称説明を参考すること。 3) 同じ室内に採用するLED器具は、ランプの色むらがないようにする。 4) ランプの演色性は、Ra85以上とする。 5) 光源の色温度は現場監督員と調整すること。 6) 照明器具取付ともなう電源ユニット、基礎は全て本工事とする。 7) 誘導灯器具、非常用照明器具は認定品とする。 8) 誘導灯器具、非常用照明器具は点検用リモコンを納品すること。【参考品番:F5K90910K(パナソニック)】 9) メーカー名・型番は参考とし同等品以上とする。 10) 照明器具の消費電力は、JIS C 8105-3の測定方法による。 「 」のついた照明器具の消費電力は、一般社団法人照明器具工業会のガイド14による。		<b>BR</b> <b>ブラケット型</b> BR5    LED 5.0W 標示灯 (使用中)    消費電力:5W BR26wpN    LED (LBF3MP/RP-4-26)    消費電力:31W以下			<b>SP</b> <b>スポットライト</b> SP158xN    LED 4 0 0 形 調光    16000 lm    消費電力:83.6W 拡散パネル付 NYK00118 			<b>SP</b> <b>スポットライト</b> SP400xN    LED (LSR2W-400) 調光    消費電力:283W以下 黒26N    LED (LRS8-4-26)    消費電力:23W 拡散パネル付 NYK00119 																																																																										
		 <p>昼白色、5000K、Ra75 電圧100V 埋込型 光源寿命4.000.0時間 (光束維持率70%) 枠:黒板(クールホワイト付消し仕上) 埋込穴12.8 x 3.68 埋込深さ=4.2</p> <p>パナソニック N N F 1 1 9 1 0 L E 1 + F K 1 1 5 7 1 J</p> <p>パナソニック N N F W 4 1 8 1 0 C L E 9 (5000K)</p>			 <p>光束16000lm、消費電力83.6W、電圧100~242V 昼白色、5000K、Ra70、広角タイプ、直付型 光源寿命6000.0時間 (光束維持率85%)、電源内蔵型 本体:黒板(高反射白色粉体塗装) 枠:木製(白木)、パネル:ポリカーボネート(透明付消し仕上) 約5~100%連続調光、落下防止ワイヤー付 器具本体(2.1kg)</p> <p>パナソニック N Y M 2 0 2 2 1 L R 9</p>																																																																													
<b>SOP</b> <b>スクエア下面パネル</b> SOP38xL    LEDスクエアベースライト 埋込型    3800 lm    消費電力:34W SOP43xL    LEDスクエアベースライト 埋込型    4260 lm    消費電力:38W		<b>SOP</b> <b>スクエア下面パネル</b> SOP60xL    LEDスクエアベースライト 埋込型    5080 lm    消費電力:34W			<b>C</b> <b>シーリングライト</b> C26L    LED    2714 lm    消費電力:22W C62L    LED    6389 lm    消費電力:54W			<b>HP</b> <b>ハイボールライト</b> HP50L    LED 街路灯 1灯用    4850 lm    消費電力:61.3W HP50vL    LED 街路灯 1灯用 遮光ルーバー付    4850 lm    消費電力:61.3W コンクリート基礎共 :500 x 500 x 1100L 外灯用4.5Wボール込																																																																										
 <p>4.50、和紙調パネル(木製格子) 定格出力型、電圧100~242V 光源寿命4000.0時間 (光束維持率8.5%) 本体:鋼板(高反射白色粉体塗装) 枠:木製(白木)、パネル:ポリカーボネート(和紙模様入り) 電球色、3000K、Ra8.3</p> <p>3800lm:パナソニック 埋込 X L 5 7 3 W A T K L A 9 4260lm:パナソニック 埋込 X L 5 7 4 W A T K L A 9</p>		 <p>4.50、乳白パネル 木枠、調光可能タイプ(約10~100%) 定格出力型、消費電力34W、電圧100~242V 光源寿命4000.0時間 (光束維持率8.5%) 本体:鋼板(高反射白色粉体塗装) 枠:木製(白木)、パネル:ポリカーボネート(乳白) 昼白色、5000K、Ra8.3</p> <p>パナソニック 埋込 X L 5 7 3 P J V K L A 9</p>			 <p>4000K / 440、680 材質:ダイキャストアルミ(本体) 乳白アクリル(ディフューザー) 電源ユニット内蔵 直付型</p> <p>C26L: ルイスポールセン:LPスリムラウンド440 -5742811290 C62L: ルイスポールセン:LPスリムラウンド680 -5742911342</p>			 <p>電球色、3000K、Ra8.5、標準タイプ、フロント配光 電圧100~242V 光源寿命6000.0時間 (光束維持率8.5%)、電源ユニット別置 本体:鋼板(ミディアムグレーメタリック) パネル:ポリカーボネート(透明付消し仕上) 上方光束比0~5%、耐風速6.0m/s 落下防止ワイヤー付、耐腐蝕:1.5KV パナソニック モールライトXYG1042RLE9相当</p>																																																																										
<b>株式 類設計室</b> 一級建築士事務所 本社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル 東京事務所 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-38-3 蒲田朝日ビル4F 大阪事務所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル		<b>設計</b> 一級建築士 大倉登録第311846号 一級建築士 齊藤 直		<b>構造設計一級建築士</b> 第5621号 一級建築士 大倉登録第235240号 一級建築士 廣重 圭一		<b>設備設計一級建築士</b> 第4707号 一級建築士 大倉登録第358739号 一級建築士 鈴木 邦彦		<b>担</b> 第 1 回 . . . 第 2 回 . . . 第 3 回 . . . 第 4 回 . . .		<b>工事名称</b> 宇治西小倉学園東門周辺整備工事 <b>図面名称</b> 照明器具仕様書 縮尺 A1:- A3:-		<b>図面No.</b> E- 006																																																																						

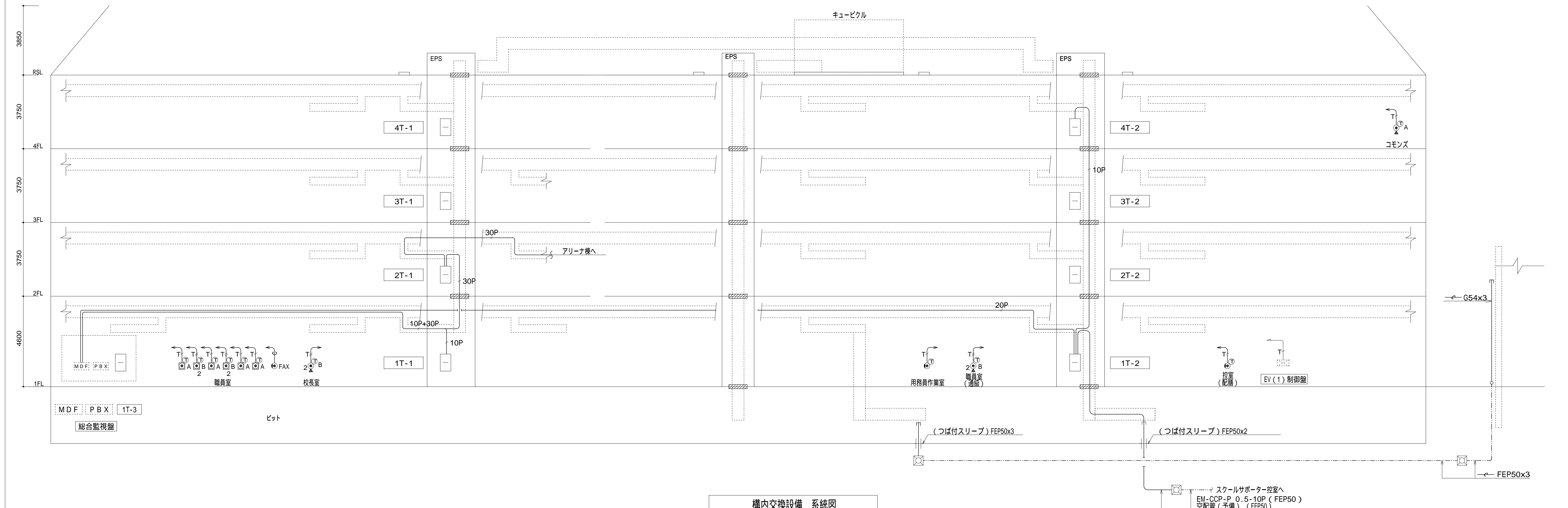
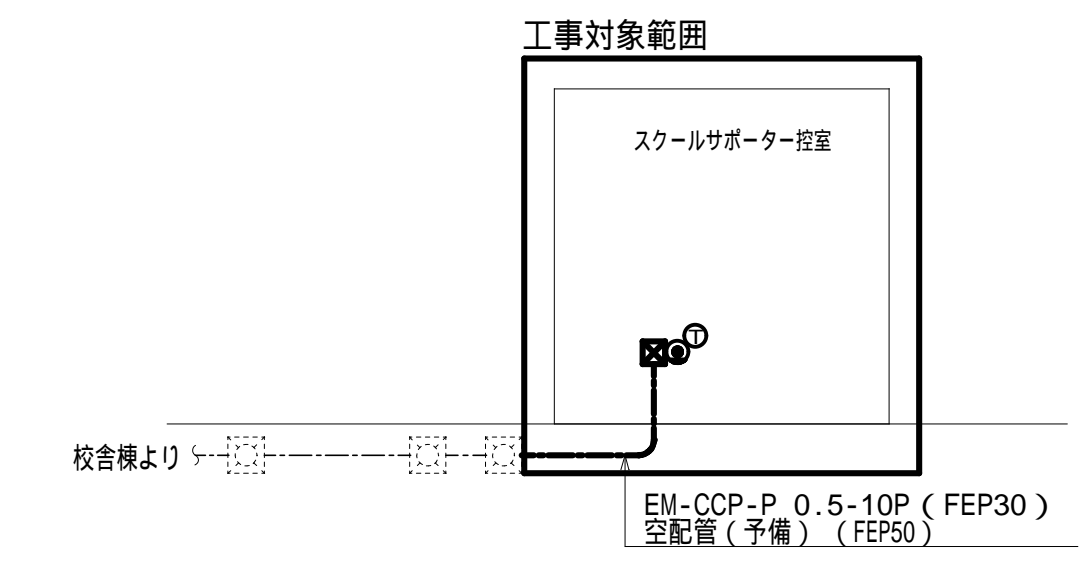


凡例

記号	名称	備考
電気設備共通		
□	端子盤	
□	EV制御盤	
□	ケーブルラック	
□	ハンドホール	構内交換設備
□	ブルボックス	
□	ジョイントボックス	
○	露出ボックス	
構内交換設備		
⊙	電話用モジュラージャック 6種4芯	壁付
⊙	電話用モジュラージャック 6種4芯	床付 FAX:複合機用
⊙2	電話用モジュラージャック 6種4芯x2	床付
⊙	電話用モジュラージャック 6種4芯	
⊙2	電話用モジュラージャック 6種4芯x2	OAフロア用
⊙	一般電話機	別途工事
⊙A	多機能電話機	別途工事
⊙B	多機能電話機 (停電対応)	別途工事

注記

- 特記なき配線・配管は下記による。但し二重天井内はケーブルこしがし配線とする。  
保護管 露出部  
EM-TIEE0.5-2P (PF16) (E19)  
EM-TIEE0.5-2P x2 (PF22) (E25)  
EM-TKEE0.5-10P (PF22) (E25)  
EM-TKEE0.5-20P (PF28) (E31)  
EM-TKEE0.5-30P (PF28) (E31)  
EM-TKEE0.5-10P (PF22) (E25)  
EM-TKEE0.5-30P (PF28) (E31)
- フリーアクセスフロア内はこしがし配線とし、壁面への立上げ配管配線部分は、フリーアクセスフロア内配管1m程度突出とする。
- ブルボックスサイズは下記とする。(SはSUS製とする)  
abc: (ax100) x (bx100) x (cx100) (特記なきは200x200x150)
- ケーブル配線等による防火区画・114条区画の貫通部は、防火区画貫通処理を行う。  
防火区画貫通処理 (ケーブルラック貫通部) を示す。  
教室等配線の多い区画部には、弱電設備2次側配線共用として防火区画貫通処理: 短管工法 (E51) x2 を敷設すること。
- 受口以降の配管配線について、行先表示がないものは各階EPS内端子盤接続系統とする。
- 記入なきは系統図参照とする。



構内交換設備 系統図

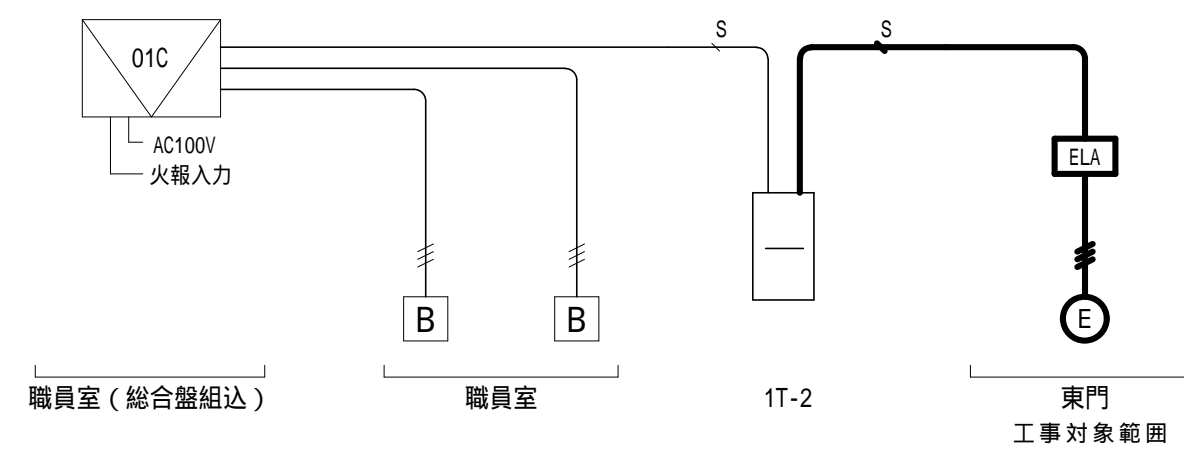
1. 概要  
 本装置は、電気錠の状態・異常を管理及び、遠隔にて電気錠の解錠操作を行えるものとする。

2. 機器構成
- |                             |     |
|-----------------------------|-----|
| (1) 電気錠制御盤 1 回線             | 1 台 |
| (2) 電気錠制御盤 1 回線用バッテリー (盤内蔵) | 1 台 |
| (3) 電気錠アダプター (付属品)          | 1 台 |
| (4) 操作表示器                   | 2 台 |
| (5) 電気錠 (建築工事)              | 1 台 |

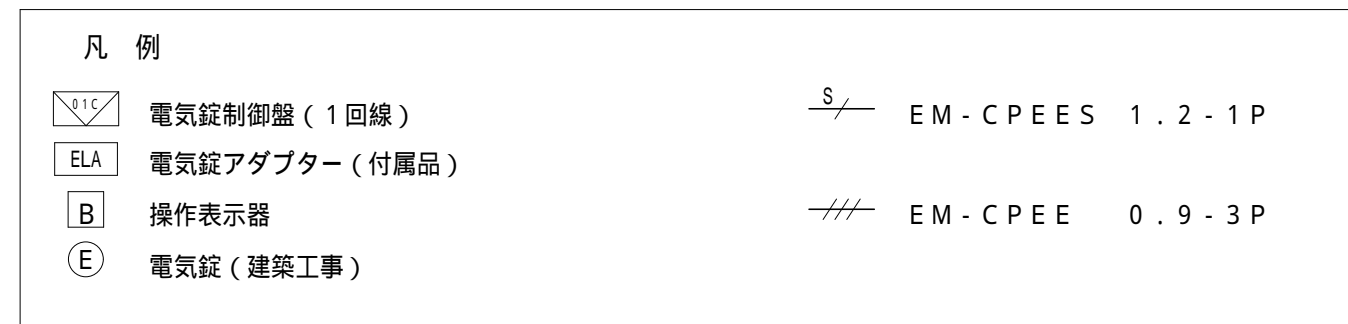
3. 機能
- 3-1. 管理機能
- 1) ゲート (電気錠) の制御が可能。
  - 2) 内蔵のタイマー機能により、以下のことが可能。
    - 1) 設定した時間帯を連続解錠にする。
    - 2) 解錠時間帯を各曜日に3つまで設定可能。
- 3-2. 監視機能
- 1) 電気錠の状態 (扉開閉 / 施錠 / 警報) をリアルタイムに表示することが可能。
  - 2) 電気錠に異常があった場合、警報表示およびブザーで知らせることが可能。
- 3-3. 施錠機能
- 1) 盤面のボタン操作で、電気錠の解錠 / 施錠が可能。
  - 2) 電気錠の一回解錠時間は1秒、5秒、10秒、20秒、30秒、60秒のいずれかの設定が可能。
  - 3) 開扉警報 (扉開め忘れ) の時間は、0秒 (警報なし)、1秒、30秒、1分、2分、3分、5分のいずれかの設定が可能。
- 3-4. メンテナンス機能
- 1) 電気錠の動作・各種警報回数を動作カウンターとして記憶することが可能。
  - 2) カウンターは通電回数・施錠エラー・解錠エラー・開扉警報・こじ開けを個別に監視することが可能。
  - 3) 電気錠制御盤及び電気錠アダプター間の通信状態を診断することが可能。

4. 警報について
- 4-1. 警報の種類
- 1) 警報の種類は以下の通りである。
    - ・開扉警報 ・コジアケ警報 ・施錠不良警報 ・解錠不良警報 ・通信異常警報
    - ・通信不良警報 ・ボタン短絡警報 ・外部入力短絡警報
- 4-2. 警報発生時の動作
- 1) 警報発生時には以下の動作を行い、警報を知らせることが可能。
    - 1) 電気錠制御盤本体がブザー鳴動する。  
ブザー鳴動の有無を設定することが可能。
    - 2) ブザー停止条件は以下の通り
      - ・警報発生から30秒経過による自動停止 ( 1、 2 )
      - ・ブザー停止ボタンを押すことによる停止 ( 2 )
        - 1 警報復旧条件を満たしたとき以外のブザー停止では、機器の警報状態は継続している。(警報解除には別途、復旧条件を満たす必要がある)
        - 2 コジアケ警報のみ30秒のみ経過してもブザー鳴動をし続ける。
  - 2) 警報が発生すると、警報表示灯が点灯、点滅する。  
点灯、点滅は警報の種類により異なる。
  - 3) 警報端子出力があり、警報発生時に接点を出力することが可能。

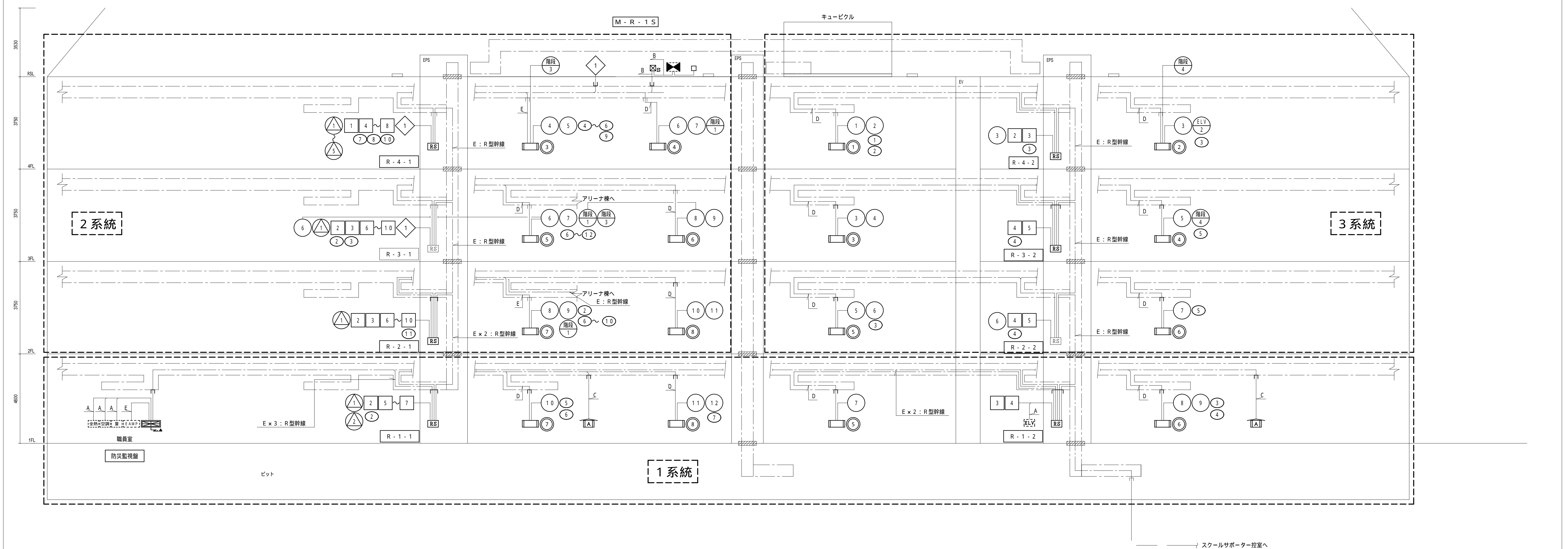
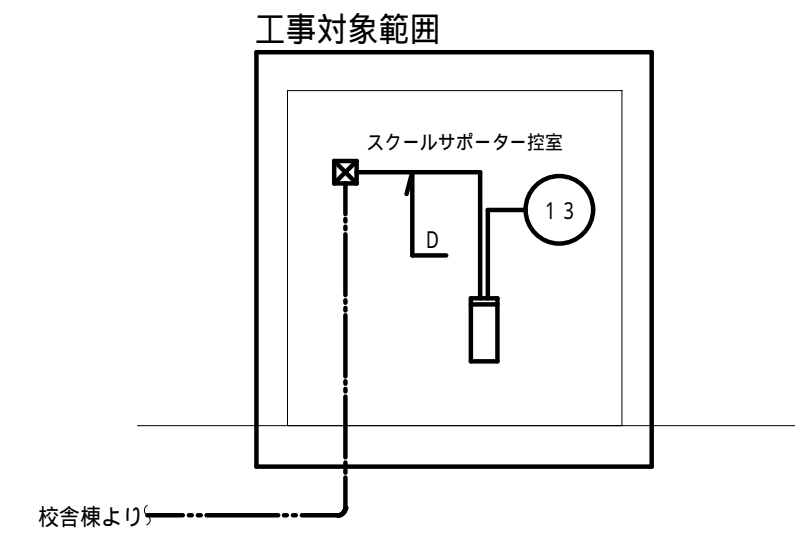
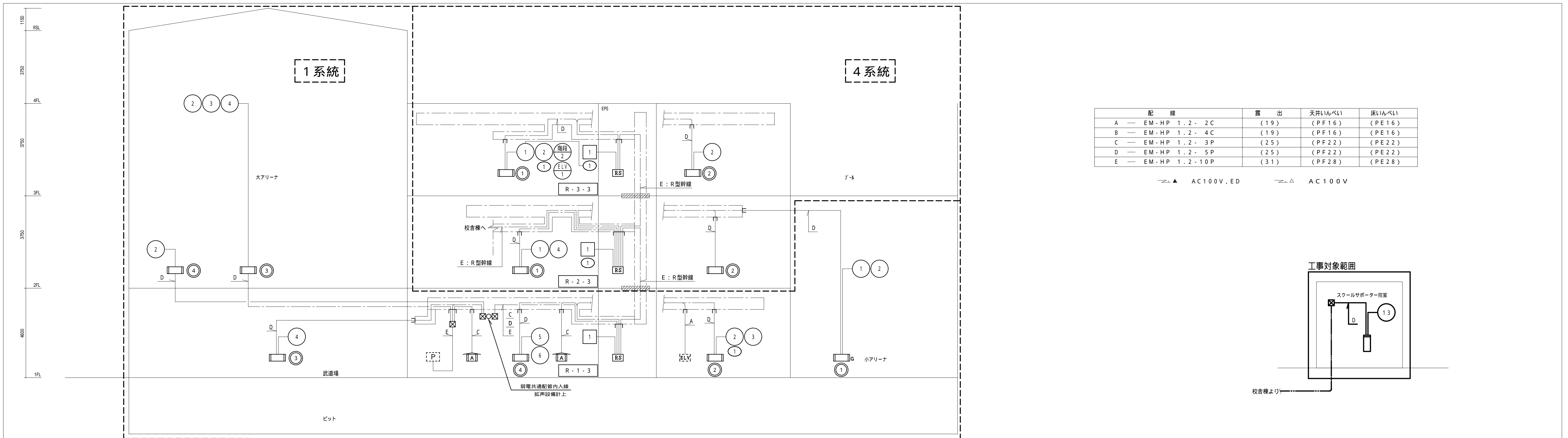
5. 系統図



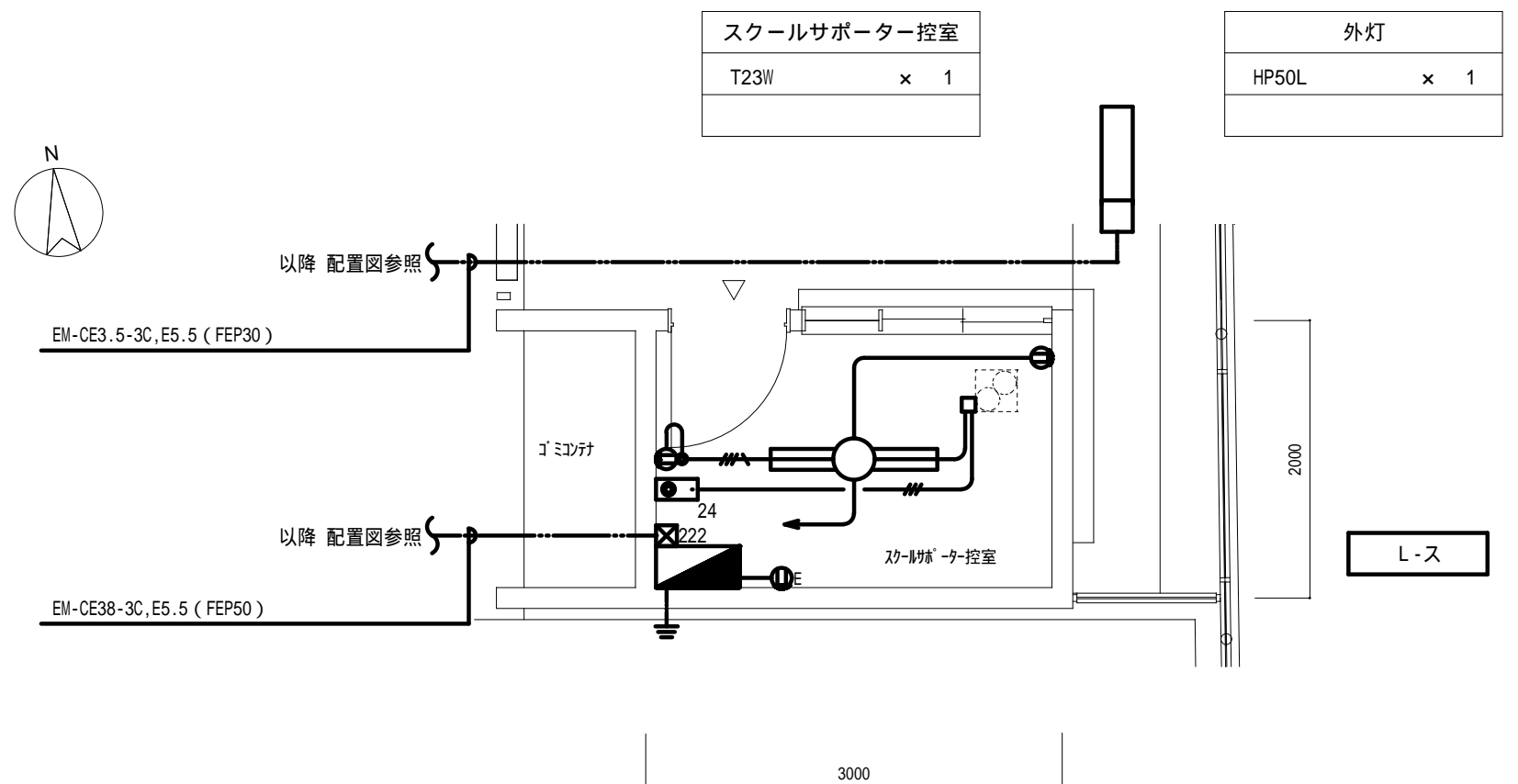
1 F



<p><b>電気錠制御制御盤</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材質</td> <td>樹脂</td> </tr> <tr> <td>仕上</td> <td>シボ加工</td> </tr> <tr> <td>彩色</td> <td>本体:マンセル N-8.0 近白色 / パネル:マンセル N-2.0 近白色</td> </tr> <tr> <td>重量</td> <td>約900g (オプション含まず)</td> </tr> <tr> <td>入力電源</td> <td>AC100V±10%</td> </tr> <tr> <td>消費電力</td> <td>1.3W</td> </tr> <tr> <td>外部入力</td> <td>接点容量 DC24V 0.1A以上</td> </tr> <tr> <td>外部出力</td> <td>接点容量 DC24V</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	材質	樹脂	仕上	シボ加工	彩色	本体:マンセル N-8.0 近白色 / パネル:マンセル N-2.0 近白色	重量	約900g (オプション含まず)	入力電源	AC100V±10%	消費電力	1.3W	外部入力	接点容量 DC24V 0.1A以上	外部出力	接点容量 DC24V	<p><b>電気錠アダプター (付属品)</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>彩色</td> <td>黒 (本体収縮チューブ)</td> </tr> <tr> <td>重量</td> <td>約2.5g</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	彩色	黒 (本体収縮チューブ)	重量	約2.5g
項目	内容																								
材質	樹脂																								
仕上	シボ加工																								
彩色	本体:マンセル N-8.0 近白色 / パネル:マンセル N-2.0 近白色																								
重量	約900g (オプション含まず)																								
入力電源	AC100V±10%																								
消費電力	1.3W																								
外部入力	接点容量 DC24V 0.1A以上																								
外部出力	接点容量 DC24V																								
項目	内容																								
彩色	黒 (本体収縮チューブ)																								
重量	約2.5g																								
<p><b>操作表示器</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パネル</td> <td>樹脂</td> </tr> <tr> <td>材質</td> <td>ライトグレー</td> </tr> <tr> <td>重量</td> <td>約70g</td> </tr> <tr> <td>入力電源</td> <td>電気錠制御盤から供給</td> </tr> <tr> <td>使用環境温度</td> <td>0 - 40 (結露なきこと)</td> </tr> <tr> <td>設置場所</td> <td>屋内</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	パネル	樹脂	材質	ライトグレー	重量	約70g	入力電源	電気錠制御盤から供給	使用環境温度	0 - 40 (結露なきこと)	設置場所	屋内	<p><b>扉工事区分</b></p> <p>1ヶ所用 SW_BOX (電気工事)    フレネ配管 (電気工事)    配管内通線 (電気工事)    工事    電線管 2.5以上    配管および通線    電気工事    通線: 電気工事    通電金具    取付: 建築工事    コンクリートボックス    結線: 電気工事    電気錠    取付: 建築工事    コネクタ    結線: 建築工事</p>										
項目	内容																								
パネル	樹脂																								
材質	ライトグレー																								
重量	約70g																								
入力電源	電気錠制御盤から供給																								
使用環境温度	0 - 40 (結露なきこと)																								
設置場所	屋内																								



火災報知設備 系統図



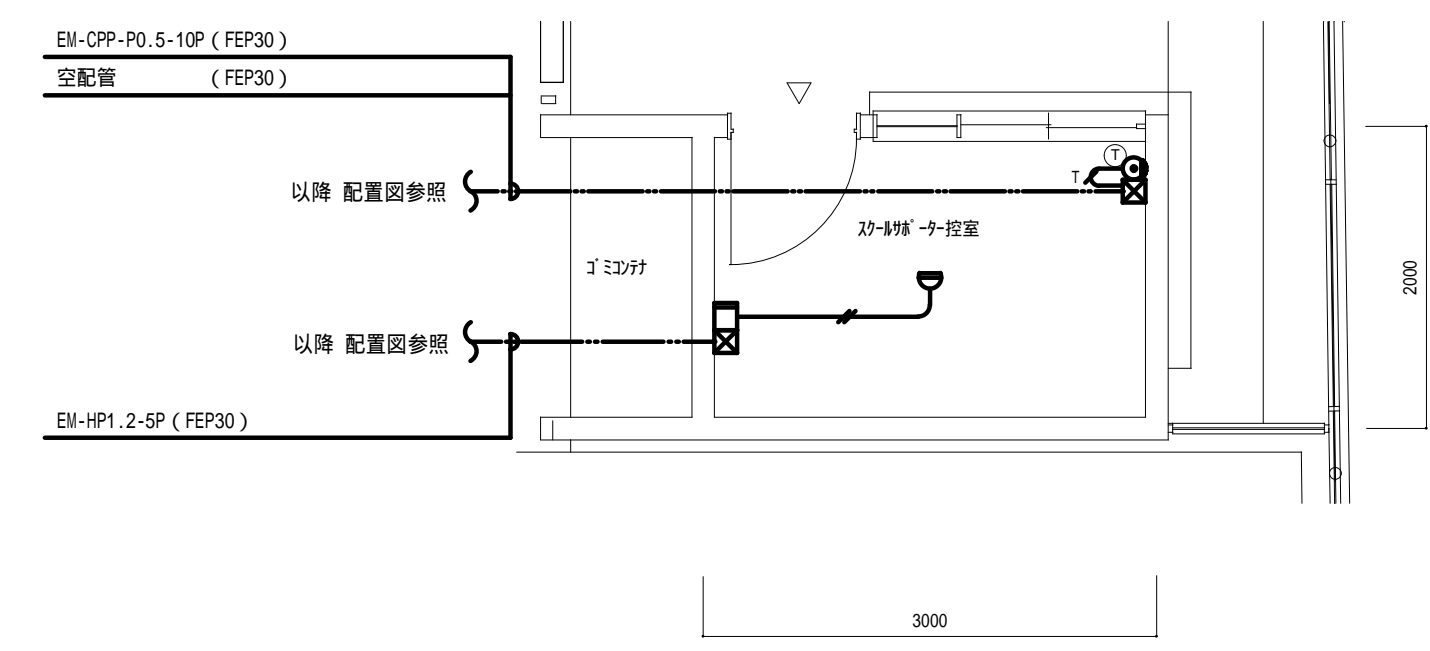
凡例

記号	名称	備考
■	分電盤	
○	照明器具 LED 天井直付	
⊙	タンブラスイッチ 1P15A	
⊙ 24	24H換気スイッチ	参考:SVF-52S(III)
⊕	埋込コンセント 2P15A×2 E付	
⊕ E	埋込コンセント 2P15A×1 E付	エアコン用
⊕	天井扇	別途機械設備工事
⊠	ブルボックス	
---	いんべい配線	
---	地中埋設配管配線	

注記

1. 特記なき配管配線は下記とする。	保護管
EM-EFF2.0-3C(1E)	(PF22)
EM-EFF2.0-3C	(PF22)
EM-EFF2.0-2C×2(1E)	(PF28)
2. ブルボックスサイズは下記とする。(SはSU S製とする)	
abc : (a×100) × (b×100) × (c×100) (特記なきは150×150×100)	
3. 地中埋設深さはGL-600とする。	

スクールサーバー控室 平面詳細図 S=1/50  
(電灯・コンセント設備)



凡例

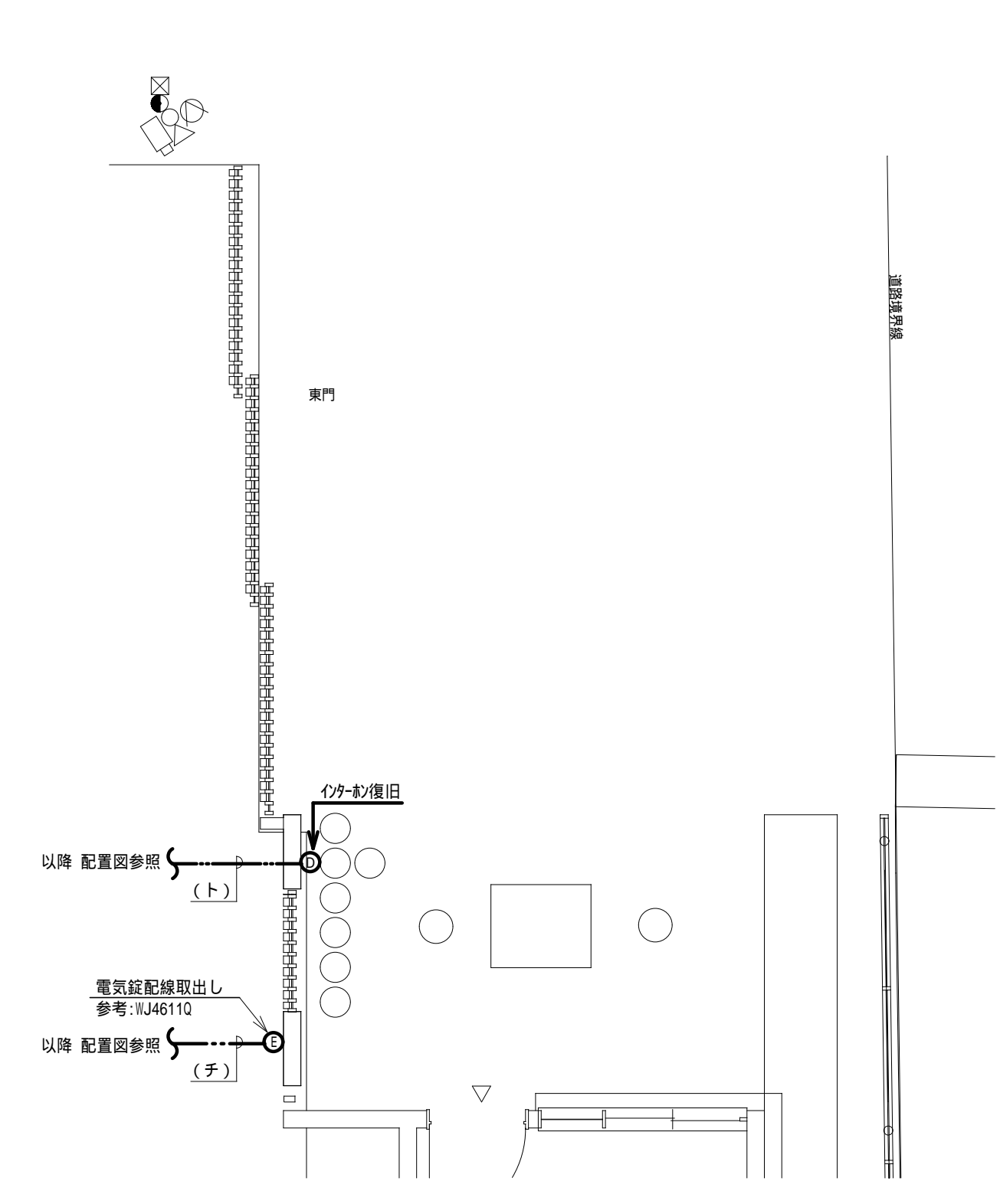
記号	名称	備考
⊕	電話用モジュラージャック 6線4芯 壁付	
⊕	一般電話機	別工事
⊕	機器収容箱 露出型 縦型	Ⓢ 収容
⊕	差動式スポット型感知器 2種	
⊕	発信機 P型1級 フラット型表示灯付	
⊠	ブルボックス	
---	隠蔽配管配線	
---	地中埋設配管配線	

注記

1. 特記なき配管配線は下記とする。	保護管
EM-TIEE0.5-2P	(PF16)
EM-AE0.9-2C	(PF16)
2. ブルボックスサイズは下記とする。(SはSU S製とする)	
abc : (a×100) × (b×100) × (c×100) (特記なきは150×150×100)	
3. 地中埋設深さはGL-600とする。	

スクールサーバー控室 平面詳細図 S=1/50  
(弱電設備)

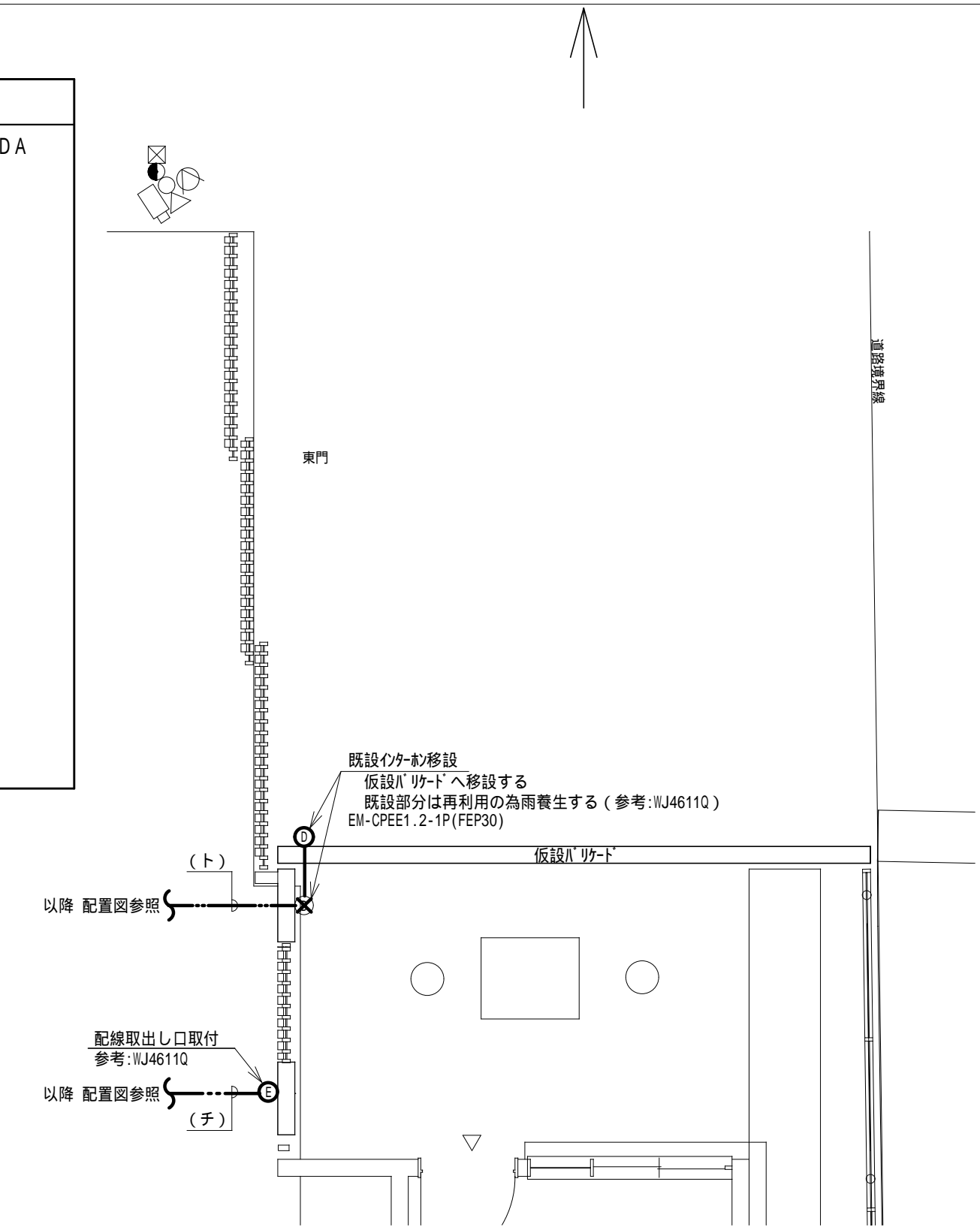
記号	配線	地中埋設配管	負荷名称	自	至
ト	EM-CPEE1.2-1P	FEP30	東門カメラ	1T-2	カメラ端子機
チ	EM-CPEE1.2-3P	FEP30	東門電気錠	1T-2	電気錠



完成 東門 平面詳細図 S=1/50

④ カメラ付ドアホン子機 JP-DA

電源電圧	モニター付親機から供給
形状	壁取付型 (JIS備用スイッチボックス)
材質	自己消火性樹脂
カメラ	1/4型カラーCMOS
通話方式	自動交番通話
備考	防塵・防まつ形 (JIS C 0920 TP54 相当)



仮設 東門 平面詳細図 S=1/50